

Hyperion(R) Enterprise(R)

リリース 6.5.1

インストールガイド

ORACLE®
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

Hyperion Enterprise インストールガイド, 6.5.1

Copyright © 1991, 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: Enterprise Information Development Team

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は、Oracle Corporation またはその関連会社、あるいはその両方の登録商標です。他の名称は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章 インストールの概要	9
概要	9
コンポーネント	9
第 2 章 インストールの計画	11
必要システム	11
Windows クライアントワークステーションの要件	11
ファイルサーバのシステム要件（データサーバなし）	13
ファイルサーバのシステム要件（データサーバあり）	13
Hyperion Enterprise Web Client	14
Hyperion Enterprise Web サーバ	14
Hyperion Enterprise のアプリケーションサーバ要件	15
Hyperion Enterprise のメッセージサーバ要件	15
Hyperion Enterprise Smart View Provider の要件	16
要件	16
追加要件	18
Statutory Consolidation Engine	18
Hyperion Enterprise Server	18
Hyperion Enterprise Web サーバ	20
Hyperion Enterprise Smart View Provider	20
コンポーネントとそのディレクトリ	20
インストール作業	21
互換性のある製品	22
Hyperion 製品によって使用されているポート番号	22
第 3 章 クイックインストールとサイレントモードインストール	23
インストール方法	23
クイックインストールの実行	24
サイレントインストール	25
サイレントモードインストールの実行	25
ドライバカウントの設定	26

第 4 章 Hyperion Enterprise のインストール	27
セットアップオプション	27
完全インストールの実行	27
完全インストールの開始	28
サーバコンポーネントの設定	40
Common Security Services (CSS) のインストール	48
完全インストールの終了	50
ワークステーション用セットアップインストールの実行	51
パスの確認	59
ドライバカウントの設定	59
第 5 章 追加のインストール手順	61
Hyperion Retrieve の設定	61
Hyperion Retrieve for Microsoft Excel の設定	61
カスタマイズされたセットアッププログラムの作成	61
カスタマイズされたセットアッププログラムを使用した Hyperion Enterprise のインストール	63
Hyperion Enterprise Web サーバの設定	63
要件	63
Hyperion Enterprise Web アプリケーションの設定	64
Hyperion Enterprise Web アプリケーションへのアクセスの無効化	65
Hyperion ホームについて	66
Hyperion ホームの場所の変更	66
第 6 章 Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 へのアプリケーションの変換	67
Hyperion Enterprise SE リリース 4.x との機能の比較	67
Hyperion Enterprise SE の旧リリースと Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 との互換性	71
下位構造の使用時における消去の実行	71
主要勘定科目の同等視によるサブ勘定科目への計算式の割り当て	72
計算式の実行	73
会社間トランザクションの入力	73
取得日と売却日の追跡	73
ユニバーサル命名規則	73
システム読み込みファイルの動作	74
Hyperion Enterprise SE とのシステム要件の比較	76
Hyperion Enterprise SE アーキテクチャ	76
Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 のアーキテクチャ	76
Hyperion Enterprise 変換ユーティリティ	79
アプリケーションの変換	80

アプリケーション変換（バージョン 4.7 ～ 6.4 を 6.5.1 に変換）ユーティリティ	80
アプリケーション変換（SE からリリース 6.5.1 に変換）ユーティリティ ..	80
Hyperion Enterprise SE システム抽出およびロジック変換ユーティリティ	81
変換ユーティリティのインストール	81
アプリケーション変換（バージョン 4.7 ～ 6.4 を 6.5.1 に変換）ユーティリティ	81
Hyperion Enterprise XA からの変換の考慮事項	83
Hyperion Enterprise リリース 4.7 ～ 6.4 アプリケーションのリリース 6.5.1 への変換	84
アプリケーション変換（SE から Hyperion Enterprise 6.5.1 に変換）ユーティリティ	87
変換する前に	88
変換をテストするためのデータの収集	90
Hyperion Enterprise SE アプリケーションの Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 への変換	91
変換後の作業と考慮事項	96
システム抽出およびロジック変換ユーティリティ	98
アプリケーション読み込みファイル変換の考慮事項	98
システム抽出および読み込みファイルの変換	99
変換済みシステムファイルの読み込み	100
ロジックファイルの変換	101
連動勘定科目一覧基準のリセット	103
Hyperion Enterprise のデータの視点の設定	103
第 7 章 Hyperion Enterprise のアンインストール	105
Hyperion Enterprise のアンインストール	105
第 8 章 Hyperion Enterprise のアップグレード	107
アップグレードの方法	107
インストールしてアップグレード	107
変更によるアップグレード	110
アップグレードと修復	112
付録 A. Web 環境の手動設定	113
Microsoft IIS Server のインストールと設定	113
IIS インストールの確認	114
IIS の設定の要件	115
IIS の設定のチェック	115
パフォーマンスの調整	117

付録 B. Hyperion Enterprise マニュアル	119
ブラウザベースのヘルプ (Hyperion Enterprise Windows 32 ビットクライアント および Web 用)	119
ブラウザベースのヘルプ (Hyperion Enterprise Windows 32 ビットクライ アント用)	119
ブラウザベースのヘルプへのアクセス	120
PDF ファイルの表示と印刷	120
Hyperion Enterprise の PDF ファイル	120
付録 C. プログラムファイル一覧	121
Windows システムファイル	121
Windows レジストリファイル	122
Windows Crystal ファイル	123
Windows Crescent ファイル	124
付録 D. 製品一覧	125
Hyperion Enterprise	125
Hyperion Enterprise API リファレンスガイド	125
Hyperion Allocations	125
Hyperion LedgerLink	126
Statutory Consolidation Engine (SCE)	126
Hyperion Retrieve	126
Hyperion AutoPilot	126
アプリケーション変換 (SE からリリース 6.5.1 に変換) ウィザード	126
アプリケーション変換 (バージョン 4.7 ~ 6.3 を 6.5.1 に変換)	126
Load File Conversion ユーティリティ	127
Logic File Conversion ユーティリティ	127
Hyperion Home Migration ユーティリティ	127
付録 E. ポート	129
デフォルトのポートについて	129
Shared Services ポート	129
Essbase - System 9 のポート	130
Essbase のポート	130
Administration Services のポート	131
Provider Services のポート	133
Smart Search のポート	135
Reporting and Analysis のポート	135
Foundation のポート	135
Financial Reporting のポート	136
Interactive Reporting のポート	137

Web Analysis のポート	138
EPM Workspace のポート	139
Application Builder for J2EE のポート	139
Application Builder for .NET のポート	140
Financial Performance Management アプリケーションのポート	140
Financial Management のポート	140
Performance Scorecard のポート	141
Planning のポート	142
Strategic Finance のポート	142
Performance Management Architect のポート	143
Data Management のポート	146
Data Integration Management のポート	147
Translation Manager のポート	149
FDM のポート	149
Data Relationship Management のポート	150
索引	153

1

インストールの概要

この章の内容

概要	9
コンポーネント	9

概要

オラクル社の Hyperion(R) Enterprise(R)はレポート作成および連結用の高度な管理システムです。このガイドでは、Hyperion Enterprise をインストールするためのハードウェアおよびソフトウェアの要件とインストール手順を説明しています。

Hyperion Enterprise では、グラフィックを使ったユーザフレンドリーな環境で、広範囲にわたる財務管理タスクを処理します。Hyperion Enterprise を使用すると、業務および財務に関する情報の収集や、連結、分析、報告ができます。また、ファイルベースのアプリケーションを Web 対応にすることができ、その結果、ユーザはインターネットまたはイントラネットを使用してオンサイトまたはリモートサイトのアプリケーションにアクセスすることができます。どのアプリケーションを Web 対応にするかは、システム管理者が決定します。

外部認証を使用して、ユーザを Hyperion Enterprise に設定できます。認証サービスは、Microsoft Windows NT LAN Manager (NTLM)、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)、または Microsoft Active Directory (MSAD) のいずれか、またはすべてを使用できます。選択した認証サービスの情報は、インストール後に管理者によって設定されます。必要に応じて、複数のプロバイダを追加できます。外部認証およびシングル（単一）サインオンについては、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「外部認証の設定」の章を参照してください。

コンポーネント

Hyperion Enterprise のインストールプログラムによって、ユーザが選択したオプションに基づいて次の製品がインストールされます。

Hyperion Enterprise リリース 6.5.1

- 外部セキュリティサービス
- Hyperion Statutory Consolidation Engine
- Hyperion Enterprise アプリケーションサーバ
- Hyperion Enterprise データサーバ
- Hyperion Enterprise Web サーバ

- Hyperion Enterprise 変換ユーティリティ
- Hyperion Allocations^R
- Hyperion AutoPilotTM
- Hyperion LedgerLink^R
- Hyperion メッセージサーバ
- Hyperion Enterprise 抽出ユーティリティ

今回のリリースの Hyperion Enterprise に関する拡張機能および注意事項については、『Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 Readme』を参照してください。

注： Hyperion Enterprise リリース 6.3.1 またはそれ以前のリリースがインストールされている場合は、[第 7 章「Hyperion Enterprise のアンインストール」](#)の説明に従って、既存のバージョンをアンインストールしてください。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 では、リリース 6.4 以降のアップグレードのインストールをサポートしています。

2

インストールの計画

この章の内容

必要システム.....	11
要件	16
追加要件.....	18
Hyperion 製品によって使用されているポート番号.....	22

必要システム

この項では、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 クライアントワークステーション、Web サーバ、ファイルサーバ、データベース、アプリケーションサーバ、およびメッセージサーバの設定要件および推奨事項について説明します。次の仕様は、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 ソフトウェアとその関連アプリケーションのみを対象としています。オペレーティングシステムや実行する他のソフトウェアの要件に応じて、実際のインストール環境ではより多くのメモリ、容量、および処理能力が必要になる場合もあります。

Windows クライアントワークステーションの要件

表 1 に、クライアントワークステーション用の Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 の設定要件と推奨事項を示します。また、アプリケーションのサイズや複雑さも、ワークステーションの要件に影響する場合があります。

表 1 クライアントワークステーションの要件

コンポーネント	要件
プロセッサ	<ul style="list-style-type: none">● 最低 - Pentium 200● 推奨 - Pentium 500 以上
メモリ	<ul style="list-style-type: none">● 最低 - 256 MB● 推奨 - 512 MB 以上、特にシステム管理用の場合
ディスク容量	<ul style="list-style-type: none">● システムファイルとアプリケーションデータがファイルサーバに置かれている場合は 10 MB を推奨● システムおよびデータファイルがローカルに置かれている場合は 75 MB とアプリケーションデータに必要な容量
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">● Windows 2003 Server 32 ビット (Service Pack 2)● Windows XP Professional (Service Pack 2)

コンポーネント	要件
	<ul style="list-style-type: none"> ● Windows 2008 Server ● Windows Vista
Web ブラウザ	<ul style="list-style-type: none"> ● Internet Explorer 7.0 および 8.0 (Fusion) ● FireFox 2.0.0.3 ● FireFox 3 または 3.1 (Fusion)
RAM (クライアント) およびスワップファイル	<ul style="list-style-type: none"> ● RAM - 最低 256 MB ● スワップファイル - 必要に応じて、物理メモリのサイズの 2.5 倍まで。 <p>注： 正確な数字と追加の情報については Microsoft のドキュメントを参照してください。</p>
スプレッドシートアドイン	Microsoft Excel 2002 (XP)、2003、2007
モニタおよび他の周辺装置	<ul style="list-style-type: none"> ● 最低 - SVGA 1024 x 768 解像度
色の設定	16 ビット (High Color)、または 24 ビット (True Color) が好ましい
ネットワーク接続	<ul style="list-style-type: none"> ● Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 (ファイルベース) : ネットワークファイルサーバをサポートするために必要なプロトコルを使用。単一プロトコルの使用を推奨。
データベース接続	<ul style="list-style-type: none"> ● Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 (ファイルベース) - 該当なし
ページングファイルサイズ	Microsoft Corporation が推奨するクライアントオペレーティングシステムに設定
データベース	<ul style="list-style-type: none"> ● Oracle 10.2.0.3 ● Oracle 11g (Fusion) ● SQL Server 2005 および 2008 <p>これらのデータベースはイベントログの記録にのみ使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● DB2 9.1 から 9.5
Essbase	<ul style="list-style-type: none"> ● E*S 7.1.x ~ System 9 ● Runtime Client 7.1.x ~ System 9

完全インストールに必要なディスク容量は、セットアッププログラムがデフォルトで選択するコンポーネントをインストールする場合を想定しています。デフォルトの選択を変更すると、必要なディスク容量は変わります。セットアップのデフォルトの選択項目について詳しくは、[27 ページの「完全インストールの実行」](#)を参照してください。

ワークステーションインストールに必要なディスク容量は、システムにコピーされる Windows システムファイルの総容量によって異なります。

ファイルサーバのシステム要件（データサーバなし）

表 2 に、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 ファイルサーバの設定要件と推奨事項を示します。

表 2 ファイルサーバの要件

コンポーネント	要件
プロセッサ	Pentium II - IV（500 MHz 以上）
メモリ	<ul style="list-style-type: none">● 最低 - 512 MB● 推奨 - 1 GB 以上
Novell Netware	バージョン 4.12、5.x 以降
ディスク容量	<ul style="list-style-type: none">● 最低 - 100 MB● 標準的な容量 - システムファイルを含め、アプリケーションのサイズによって 100 ～ 500 MB● システムファイル - すべてのアドオンモジュールを含め、75 MB
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">● Windows 2003 Server（Service Pack 2）● Windows 2008 Server● クライアントワークステーションへのファイルサービスをサポートする必要がある。
専用ファイルサーバ	必要なし
ネットワーク通信ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none">● Windows 2003 Server● Windows 2008 Server
広域ネットワーク	Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 は分散環境で使用するのが最良。このため、広域ネットワーク（WAN）でのパフォーマンスは低下する。パフォーマンスを向上させるには、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 のデータにリモートアクセスできるようにデザインされた Citrix Presentation サーバ、Hyperion Enterprise Web サーバ、または Hyperion Enterprise(R) Reporting - Web サーバを使用する。

ファイルサーバのシステム要件（データサーバあり）

表 3 に、Hyperion Enterprise データサーバを利用する Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 ファイルサーバの設定要件と推奨事項を示します。

表 3 ファイルサーバのシステム要件（データサーバあり）

コンポーネント	推奨
プロセッサ	Pentium II - IV（500 MHz 以上。ユーザ数とアプリケーションのサイズにより異なる）

コンポーネント	推奨
メモリ	1 GB 以上（アプリケーションのサイズにより異なる）
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> Windows 2003 Server（Service Pack 2） Windows 2008 Server
ファイルサーバ	推奨システム要件： <ul style="list-style-type: none"> アプリケーションサーバの専用ファイルサーバ Hyperion Enterprise アプリケーションおよびデータサーバの専用ファイルサーバ
ネットワーク通信ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> Windows 2003 Server（Service Pack 2） Windows 2008 Server
スワップファイル	物理メモリのサイズの 2.5 倍まで。問題の原因が物理メモリのリソースの場合は、Microsoft の推奨事項に従ってください。

Hyperion Enterprise Web Client

Web クライアントにはオペレーティングシステムの要件はありません。Hyperion Enterprise のユーザは、Web ベースのユーザインターフェースを使用してデータの読み込み、連結の実行、仕訳の操作を行うことができます。Microsoft Internet Explorer 7.0 および 8.0 Fusion、または Firefox 2.0.03、3.0、3.1（Fusion）を使用できます。

表 4 Web サーバの要件

コンポーネント	要件
仮想マシンとユーザインターフェース設計フレームワーク	<ul style="list-style-type: none"> Java 1.6 プラグイン Windows 2.5

Hyperion Enterprise Web サーバ

Hyperion Enterprise 管理者は、Pentium ベースのサーバでアプリケーションを構築し、管理します。表 5 に、Hyperion Enterprise Web サーバの要件を示します。

表 5 Web サーバの要件

コンポーネント	要件
プロセッサ	Pentium III 以上
メモリ	1 GB 以上（アプリケーションのサイズにより異なる）
ディスク容量	最低 500 MB
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> Windows 2003 Server（Service Pack 1）と IIS 6.0 Windows 2008 Server と IIS 7.0

コンポーネント	要件
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● Java 1.6 プラグイン ● Windows 2.5

Hyperion Enterprise のアプリケーションサーバ要件

アプリケーションサーバを設定してサーバ処理を行うための要件は次のとおりです。Windows 2003 Server のインストールと、TCP/IP サービスのインストールおよび管理について詳しくは、Microsoft Windows 2003 Server のインストールガイドを参照してください。

表 6 に、Hyperion Enterprise アプリケーションサーバの要件を示します。ページングファイルのサイズは、使用するオペレーティングシステムに関する Microsoft Corporation の推奨値に設定します。

表 6 アプリケーションサーバの要件

コンポーネント	要件
プロセッサ	最低 500 MHz の Pentium（マルチプロセッサを推奨）
メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ● 512 MB 以上 ● 1 GB 以上を推奨
ディスク容量	最低 500 MB
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ● Windows 2003 Server（Service Pack 2） ● Windows 2008 Server ● TCP/IP がインストールされていること
パフォーマンスの調整	117 ページの「パフォーマンスの調整」 を参照してください。

Hyperion Enterprise のメッセージサーバ要件

メッセージサーバを設定してサーバ処理を行うための要件は次のとおりです。Windows 2003 Server のインストールと、TCP/IP サービスのインストールおよび管理について詳しくは、Microsoft Windows 2003 Server のインストールガイドを参照してください。

表 7 に、Hyperion Enterprise メッセージサーバの要件を示します。ページングファイルのサイズは、使用するオペレーティングシステムに関する Microsoft Corporation の推奨値に設定します。

表 7 メッセージサーバの要件

コンポーネント	要件
プロセッサ	最低 500 MHz の Pentium（マルチプロセッサを推奨）
メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ● 512 MB 以上

コンポーネント	要件
	<ul style="list-style-type: none"> ● 1 GB 以上を推奨
ディスク容量	最低 500 MB
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ● Windows 2003 Server (Service Pack 2) ● Windows 2008 Server ● TCP/IP がインストールされていること

Hyperion Enterprise Smart View Provider の要件

次の表に、Hyperion Enterprise Oracle Hyperion Smart View for Office, Fusion Edition Provider をインストールするためのシステム要件を示します。

表 8 Hyperion Enterprise Smart View Provider のシステム要件

コンポーネント	要件
プロセッサ	Pentium III 以上
メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ● 最低 256 MB ● 512 MB 以上を推奨
ディスク領域	最低 500 MB
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ● Windows 2003 Server (Service Pack 2) と IIS 6.0 ● Windows 2008 Server と IIS 7.0
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● ASP.NET 2.0

要件

Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 をインストールする前に、以下の作業を行ってください。

1. 『Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 Readme』を熟読してください。
2. すべての Windows プログラムを閉じてください。
3. アップグレードする場合は、旧リリースを使用して以下の作業を行います。
 - 既存の Hyperion Enterprise アプリケーションをバックアップします。
 - リリース 6.5.1 で実行するすべてのアプリケーションを、既存のリリースの Hyperion Enterprise から抽出します。
 - カスタマイズした load.per ファイルを使用している場合は、別のディレクトリにコピーを保存し、インストール完了後にプログラムディレクトリに戻します。
4. Hyperion Enterprise リリース 6.3.1 またはそれ以前のリリースがインストールされている場合は、[第 7 章「Hyperion Enterprise のアンインストール」](#)の説明に従って、既存のバージョンをアンインストールしてください。Hyperion

Enterprise リリース 6.5.1 では、リリース 6.4 以降のアップグレードのインストールをサポートしています。

注： システムに Hyperion Enterprise リリース 6.4 以降がインストールされている場合、ステップ 5 は省略してください。

5. Hyperion Enterprise アプリケーションサーバと Hyperion Enterprise データサーバがインストールされている場合は、次のようにしてアンインストールします。
 1. Hyperion Enterprise アプリケーションサーバと Hyperion アプリケーション データサーバをアンインストールするには、[スタート] メニューから [設定]、[コントロールパネル] の順に選択します。
 2. [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
 3. Hyperion Enterprise を選択し、[変更と削除] をクリックします。
[セットアップタイプ] ダイアログボックスが表示されます。
 4. [インストールを変更します] を選択して、[次へ] をクリックします。
[コンポーネントの選択] ダイアログボックスが表示されます。
 5. Hyperion Enterprise アプリケーションサーバおよび Hyperion Enterprise データサーバを選択します。
 6. [次へ] をクリックすると、アンインストールが開始されます。
6. Novell Client 32 を使用している場合は、ファイルのキャッシュレベルを 0（ゼロ）に設定します。
7. 100 MB のイーサネット接続を使用している場合は、速度と二重化の設定をハードコード化します。自動ネゴシエーションのオプションは使用しないでください。ただし、Citrix Server または Terminal Server を使用する場合は、Citrix Server および Terminal Server の自動ネゴシエーションを無効にします。
8. 次のディレクトリに対して「修正」アクセス権を持っていることを確認します。
 - c:\windows\system などの Windows システムディレクトリ
 - c:\temp などの一時ディレクトリ
 - c:\program files\Hyperion Solutions\などの Hyperion Solutions アプリケーションディレクトリ
9. Windows 2003 または Windows 2008 環境にインストールする場合は、管理者権限を持っていることを確認します。
10. Hyperion Enterprise Reporting がインストールされている場合は、『Hyperion Enterprise Reporting インストールガイド』を参照して互換性に関する要件を調べ、パスに Hyperion Enterprise Reporting ディレクトリが含まれていることを確認します。
11. Hyperion Enterprise を初めてインストールする場合、または Hyperion Enterprise SE リリース 1.8.2 から変換する場合、レポートとパッケージを変換します。Hyperion Enterprise リリース 1.8.2 レポート変換ユーティリティを入手するには、各地のクライアントサポートオフィスにご連絡ください。このユーティリティは、今回のリリースのインストールメディアには含まれていません。

12. Hyperion Enterprise Web サーバをインストールする場合は、Microsoft IIS および必要な Java プラグインがインストールされていることを確認してください。詳しくは、[20 ページの「Hyperion Enterprise Web サーバ」](#)を参照してください。
13. 同じアプリケーションにアクセスするユーザはすべて、同じドライブとパスにマッピングしているか、またはユニバーサル命名規則（UNC）を使用していることを確認します。
14. Hyperion Enterprise のリリース間での機能の変更に注意してください。詳しくは『Hyperion Enterprise Readme』を参照してください。

追加要件

次の項では、Statutory Consolidation Engine のインストール、Hyperion Enterprise Server の設定、セキュリティ権限の設定、Hyperion Enterprise Web サーバの設定、Microsoft IIS のインストールおよび設定、Hyperion Enterprise Smart View Provider、コンポーネントおよびそのディレクトリのリストに必要な条件について説明します。

Statutory Consolidation Engine

すべての Statutory Consolidation Engine（SCE）ディレクトリに対して、「修正」アクセス権が必要です。

Hyperion Enterprise Server

Hyperion Enterprise アプリケーションサーバ、Hyperion Enterprise データサーバ、Hyperion Enterprise Web サーバ、Hyperion Enterprise メッセージサーバをインストールして使用する前に、TCP/IP 接続を確認し、セキュリティ権限を設定する必要があります。

TCP/IP 接続の確認

- ▶ TCP/IP 接続を確認するには、次の手順に従います。
 - 1 サーバおよびクライアントワークステーションの両方に TCP/IP がインストールされ、TCP/IP アドレスを使ってそれぞれのコンピュータを識別できることを確認します。
 - 2 アドレスの動的解析がサポートされていない場合、Windows 2003 では `system32\drivers\etc\サブディレクトリにある hosts ファイル` でサーバの IP アドレスを解決します。
 - 3 次に示す操作で、クライアントワークステーションとサーバ間の接続を確認します。
 1. クライアントワークステーションのコマンドプロンプトでコマンド **ping servername** を入力します。
 2. [Enter] キーを押します。

サーバからの応答あれば、接続が確認されたことを意味します。

セキュリティ権の設定

Hyperion Enterprise データサーバをインストールして設定する前に、サービスのインストールと開始に使用する Windows 2003 または Windows 2008 のユーザ名に、Windows 2003 または Windows 2008 の適切な管理者権限があることを確認する必要があります。

以下の操作を実行するための権限が必要です。

- サービスとしてログオンする
- ローカルログオン
- オペレーティングシステムの一部として動作する

Windows 2003 および Windows 2008 の管理者権限については、それぞれ該当するシステムのマニュアルを参照してください。

Web 仮想ディレクトリ、セッションマネージャ、およびタスクサーバでは、すべてシステム（Windows 2003 または 2008）のユーザ名とパスワードを必要とします。これら 3 つのすべてに対して、同じユーザ名を使用する必要があります。さらにユーザは、Hyperion Enterprise アプリケーションと実行可能ファイルが保存されているファイルサーバ、Web サーバディレクトリ、およびタスクサーバ上のファイルをアップロードする場所への読み取り／書き込みアクセス権を持っている必要があります。

必要な Windows 2003 および Windows 2008 管理者権限のほか、ユーザは、ネットワークにアクセスするための管理者権限と Hyperion Enterprise アプリケーションへの管理者アクセス権を持っている必要があります。

▶ Windows 2003 または Windows 2008 のセキュリティ権を設定するには

1 Windows の [スタート] メニューから、次の操作を行います。

1. Windows 2003 では、[プログラム]、[管理ツール]、[ローカルセキュリティポリシー] の順に選択します。
2. Windows 2008 では、[コントロールパネル]、[管理ツール]、[ローカルセキュリティポリシー] の順に選択します。

2 [ローカルポリシー] から [ユーザー権利の割り当て] を選択します。

3 [サービスとしてログオン] をクリックします。

4 この権利を 1 つのユーザ名またはグループに割り当てるには [追加] をクリックします。

5 ユーザ名またはグループを選択し、[追加] をクリックして [OK] をクリックします。

6 [オペレーティングシステムの一部として機能] をクリックし、ステップ 4 と 5 を繰り返します。

7 [ローカルログオン] をクリックし、ステップ 5 と 6 を繰り返します。

8 [OK] をクリックしてプログラムを終了します。

9 コンピュータを再起動します。

Hyperion Enterprise Web サーバ

Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 での Web ベースの連結とデータ読み込のために Hyperion Enterprise Web Server をインストールする場合、まず Enterprise Web サーバコンピュータに Microsoft IIS Server をインストールする必要があります。Web Service を使用するにはアプリケーションのメタデータの読み込みが必要なことに注意してください。

詳しくは、[第 4 章「Hyperion Enterprise のインストール」](#)を参照してください。

Microsoft IIS Server のインストールと設定

Microsoft IIS Server のインストールおよび設定方法については、[付録 A「Web 環境の手動設定」](#)を参照してください。

Hyperion Enterprise Smart View Provider

Hyperion Enterprise Smart View Provider をインストールするには、次の要件を満たす必要があります。

1. Hyperion Enterprise Smart View Provider をインストールする前に、.NET Framework 2.0 をインストールする必要があります。.NET Framework がインストールされていない、またはインストールされている .NET Framework が旧バージョンの場合、.NET Framework 2.0 がインストールされた後に Hyperion Enterprise Smart View Provider がインストールされます。
2. Hyperion Enterprise Smart View Provider をインストールして Smart View を使用する前に、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 以降と Hyperion EnterpriseWeb コンポーネントをインストールする必要があります。
3. Oracle Hyperion Smart View for Office, Fusion Edition を実行するには、使用許諾契約に同意する必要があります。

コンポーネントとそのディレクトリ

セットアッププログラムでは、セットアッププログラムの推奨デフォルトのディレクトリに Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 をインストールするか、または他のディレクトリを指定することができます。

注： Hyperion Enterprise のインストール時に文字列"HE"をディレクトリ名として使用することはできません。

[表 9](#) にコンポーネントがインストールされる場所を示します。

表9 コンポーネントがインストールされる場所

コンポーネント	インストールの場所
Hyperion Enterprise リリース 6.5.1	ドライブ:\program files\hyperion solutions\hyperion enterprise
注： Hyperion Retrieve は、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 で自動的にインストールされます。	
Hyperion Enterprise Office Provider	
Hyperion Statutory Consolidation Engine (SCE)	
Hyperion Enterprise アプリケーションサーバ	
Hyperion Enterprise データサーバ	
Hyperion Enterprise メッセージサーバ	
Hyperion Enterprise Web サーバ	
Hyperion Enterprise 変換ユーティリティ	
Hyperion Allocations	
Hyperion LedgerLink	
Hyperion AutoPilot	
Hyperion Enterprise 抽出ユーティリティ	

注： リリース 6.0 より前の Hyperion Enterprise では、デフォルトのプログラムディレクトリは hypent でした。今回のインストールによって、既存の hypent ディレクトリが上書きされたり、削除されることはありません。
autoexec.bat ファイルまたは環境変数を手動で更新し、hypent ディレクトリへの古い参照をパスステートメントから削除してください。

インストール作業

Hyperion Enterprise をインストールする際、次の操作が必要になる場合があります。

- システム要件を確認する。詳しくは、[11 ページの「必要システム」](#)を参照してください。
- インストール方法を、クイックインストール、サイレントモードインストール、標準インストールのうちから選択する。詳しくは、[第3章「クイックインストールとサイレントモードインストール」](#)または[第4章「Hyperion Enterprise のインストール」](#)を参照してください。
- Hyperion Enterprise のアドオンをインストールする。詳しくは、[第5章「追加のインストール手順」](#)を参照してください。
- 既存アプリケーションを Hyperion Enterprise の新しいバージョンに変換する。詳しくは、[第6章「Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 へのアプリケーションの変換」](#)を参照してください。
- Microsoft IIS を設定して Web 環境の Hyperion Enterprise に実装する。詳しくは、[付録 A「Web 環境の手動設定」](#)を参照してください。

- 今回のリリースに付属する入手可能なマニュアルを調べる。詳しくは、[付録 B「Hyperion Enterprise マニュアル」](#)を参照してください。
- インストール時に Windows のシステムディレクトリにインストールされるプログラムファイルの一覧を調べる。詳しくは、[付録 C「プログラムファイル一覧」](#)を参照してください。
- 今回のリリースで使用可能な製品とアドオンの説明を調べる。詳しくは、[付録 D「製品一覧」](#)を参照してください。

互換性のある製品

Hyperion Enterprise Reporting がインストールされている場合は、互換性の要件について、『Hyperion Reporting インストールガイド』を参照してください。

Hyperion 製品によって使用されているポート番号

詳しくは、[付録 E「ポート」](#)を参照してください。

3

クイックインストールとサイレントモードインストール

この章の内容

インストール方法	23
クイックインストールの実行	24
サイレントインストール.....	25
ドライバカウントの設定.....	26

この章では、Hyperion Enterprise をインストールする最も簡単な方法について説明します。

インストール方法

クイックインストールとサイレントモードインストールは、インストールプログラムのデフォルトの選択項目を使用することを前提としています。クイックインストールとサイレントモードインストールは、次の条件が当てはまる場合にのみ使用します。

- Hyperion Enterprise の主要製品のみをインストールし、その関連コンポーネントはインストールしない場合。
- ファイルをローカルドライブまたはネットワークドライブにインストールし、そのドライブから Hyperion Enterprise を実行する場合。

上記の条件を満たさない場合や、デフォルト以外の製品をインストールする場合のインストール手順については、[第 4 章「Hyperion Enterprise のインストール」](#)を参照してください。

注： Hyperion Enterprise の旧バージョンをアンインストールするときは、Hyperion Enterprise アプリケーション、Hyperion Enterprise データサーバ、Hyperion Enterprise Web サーバ、および Hyperion Enterprise アプリケーションサーバを終了する必要があります。これらのプログラムを閉じておかないと、コンポーネントのデータ移動エラーが発生したことを示すメッセージが表示されます。新しいリリースにアップグレードする前に、Hyperion Enterprise の旧リリースを削除することをお勧めします。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 では、リリース 6.4 からのアップグレードインストールのみをサポートしています。

クイックインストールの実行

クイックインストール手順を使用した場合、Hyperion Enterprise データサーバ、Hyperion Enterprise アプリケーションサーバ、Hyperion Enterprise メッセージサーバ、Web サーバ、Statutory Consolidation Engine、Hyperion LedgerLink、Allocations、Hyperion AutoPilot、および Hyperion Enterprise 変換ユーティリティはインストールされません。

クイックインストール手順を使用する前に、[第2章「インストールの計画」](#)を参照してください。

► クイックインストールを実行するには、次の手順に従います。

- 1 Windows の [スタート] メニューから、**path\install.exe** を実行します。ここで、path は Hyperion Enterprise のインストールディレクトリへのパスです。
[Select Install Language] 画面が表示されます。
- 2 [Select Install Language] ダイアログボックスで、言語を選択し、[OK] をクリックします。

注： 言語はデフォルトで英語に設定されています。

[ようこそ] 画面が表示されます。

- 3 [ようこそ] 画面で、[次へ] をクリックします。
Hyperion Enterprise 使用許諾契約ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [はい] をクリックして、続行します。
[Hyperion Enterprise のセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。
- 5 セットアップの種類を選択し、[次へ] をクリックします。
[Retrieve バージョンの選択] ダイアログボックスが表示されます。
- 6 使用する Hyperion Retrieve のバージョンを選択し、[次へ] をクリックします。
[インストール先の選択] ダイアログボックスが表示されます。
- 7 Hyperion Enterprise をインストールするディレクトリを指定します。
 - デフォルトのインストールディレクトリを使用する場合は、[次へ] をクリックします。
 - デフォルト以外のインストールディレクトリを選択するには、[参照] をクリックしてそのディレクトリに移動し、[次へ] をクリックします。
[コンポーネントの選択] ダイアログボックスが表示されます。
- 8 インストールするコンポーネントを選択し、[次へ] をクリックします。
[プログラムフォルダの選択] ダイアログボックスが表示されます。
- 9 Hyperion Enterprise プログラムアイコンを保存するプログラムフォルダを指定します。
 - デフォルトのプログラムフォルダを使用する場合は、[次へ] をクリックします。

- デフォルト以外のプログラムフォルダにアイコンを保存するには、[既存のフォルダ] リストのディレクトリ名をクリックし、[次へ] をクリックします。

10 現在のインストール設定を確認し、[次へ] をクリックします。

11 [完了] をクリックして、Hyperion Enterprise のインストールを終了します。

注： Hyperion Enterprise のインストールによって、アプリケーションの作成やタスクの実行ができるようになります。その概要は『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』と『Hyperion Enterprise ユーザガイド』で説明されています。ただし、レポートを使用するには、Hyperion Enterprise Reporting をインストールする必要があります。Hyperion Enterprise Reporting のインストールの詳細は、『Hyperion Enterprise Reporting インストール ガイド』を参照してください。

サイレントインストール

同じインストールオプションを使用して複数のコンピュータに Hyperion Enterprise をインストールする場合は、インストール設定を記録し、コマンド行から「サイレント」インストールを実行できます。サイレントインストールによってインストールプロセスを自動的に実行できるので、Hyperion Enterprise インストールのたびに設定を指定する手間が省けます。

サイレントモードインストールを実行する前に、[第2章「インストールの計画」](#)を参照してください。

サイレントモードインストールでは、ログファイル (setup.log) がインストールディレクトリに作成されます。インストールディレクトリは、setup.exe ファイルが置かれている場所です。このログファイルには、エラーコードを含むサイレントモードインストールの結果が含まれます。

サイレントモードインストールの実行

▶ サイレントモードインストールを実行するには

- 1 目的の言語のインストールファイルをローカルドライブ、同じネットワークドライブの別の場所、または別のネットワークドライブにコピーします。
- 2 Windows の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 3 `path\setup.exe -r` と入力します。ここで、path はネットワークドライブ上にある Hyperion Enterprise のインストールディレクトリです。

注： パスには空白文字を含めないでください。

- 4 [ようこそ] 画面で、[次へ] をクリックします。
- 5 [使用許諾契約] 画面で、[はい] をクリックして続行します。
- 6 セットアップの種類を選択し、[次へ] をクリックします。

- 7 使用する Hyperion Retrieve のバージョンを選択し、[次へ] をクリックします。
- 8 Hyperion Enterprise をインストールするディレクトリを指定します。
 - デフォルトのインストールディレクトリを使用する場合は、[次へ] をクリックします。
 - デフォルト以外のインストールディレクトリを選択するには、[参照] をクリックしてそのディレクトリに移動し、[次へ] をクリックします。
- 9 [コンポーネントの選択] ダイアログボックスで、インストールするコンポーネントを選択し、[次へ] をクリックします。
- 10 [プログラムフォルダの選択] ダイアログボックスで、Hyperion Enterprise プログラムアイコンを保存するプログラムフォルダを指定します。
 - デフォルトのプログラムフォルダを使用する場合は、[次へ] をクリックします。
 - デフォルト以外のプログラムフォルダを選択するには、[参照] をクリックしてそのプログラムフォルダに移動し、[次へ] をクリックします。
- 11 現在のインストール設定を確認し、[次へ] をクリックします。
- 12 [完了] をクリックして、Hyperion Enterprise のインストールを終了します。

インストールプロセスで Windows ディレクトリに setup.iss ファイルが作成されます。
- 13 setup.iss ファイルを、Hyperion Enterprise の setup.exe ファイルが置かれているネットワークディレクトリにコピーします。
- 14 サイレントモードを使用して Hyperion Enterprise を他のコンピュータにインストールするには、path\setup.exe -s と入力して実行します。ここで、path はネットワークドライブ上にある Hyperion Enterprise のインストールディレクトリです。

メインセットアップのログファイル setup.log は、対応する応答ファイルが置かれているディレクトリに保存されます。

ドライバカウントの設定

hypent.ini ファイルのドライバカウント HPDRVCNT が HPDRVn 行の数と等しくない場合、エラーメッセージが表示されることがあります。これを解決するには、次の例に示すように、hypent.ini ファイルに適切な HPDRVn 行を追加する必要があります。

- Hyperion Enterprise のファイルベースバージョン
HPDRV1=HEFile,HEFileUI,File-based Application

この章の内容

セットアップオプション.....	27
完全インストールの実行.....	27
ワークステーション用セットアップインストールの実行	51
パスの確認.....	59
ドライバカウントの設定.....	59

セットアップオプション

今回のリリースの Hyperion Enterprise をインストールするには、セットアッププログラムを使用します。3 つのセットアップオプションから選択することができます。

- 完全セットアップ：選択した製品をローカルドライブまたはネットワークドライブにインストールします。インストール後は、それらの製品をそのドライブから実行します。
- ワークステーションセットアップ：最小限のファイルをワークステーションにインストールします。インストール後は、それらの製品をネットワークから実行します。したがって、ワークステーションセットアップオプションを使用する前に、完全セットアップオプションを使用してネットワークドライブに Hyperion Enterprise をインストールしておく必要があります。
- 選択可能なインストールコンポーネントの修正 - セキュリティ上の理由により、これから行うインストールで 1 つまたは複数の製品コンポーネントを除外する場合に、セットアッププログラムのコピーをカスタマイズすることができます。

この章では、完全セットアップとワークステーションセットアップの手順を説明します。[選択可能なインストールコンポーネントの修正] オプションについては、[61 ページの「カスタマイズされたセットアッププログラムの作成」](#)を参照してください。

完全インストールの実行

完全インストールでは、選択した Hyperion 製品をローカルドライブまたはネットワークドライブにインストールします。インストール後は、それらの製品をそのドライブから実行できます。

サーバオペレーティングシステムがインストールされているコンピュータに Hyperion Enterprise をインストールする場合は、アプリケーションサーバ、データサーバ、Web サーバ、およびメッセージサーバのコンポーネントをインストールするオプションを選択できます。これらのオプションを選択した場合、完全インストールプロセスに、対応するコンポーネントを設定するためのステップが追加されます。完全インストールの開始と終了のステップは、コンピュータのオペレーティングシステムにかかわらずすべて同じです。

完全インストールの開始

Hyperion Enterprise の完全インストールの開始のステップは、使用しているオペレーティングシステムにかかわらずすべてのコンピュータで同じです。

- ▶ Hyperion Enterprise ソフトウェアの完全インストールを開始するには、次の手順に従います。

1 次のいずれかの操作を行います。

- Hyperion Enterprise ソフトウェアを Oracle E-Delivery サイトからダウンロードした場合は、次のいずれかの操作を行います。
 - インストールプログラムをダウンロードしたディレクトリに移動し、**install.exe** をダブルクリックします。
 - Windows の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、次のコマンドを [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスに入力して、[OK] をクリックします。

Drive\directory\install.exe

ここで、Drive および directory は、Hyperion Enterprise インストーラがあるドライブとフォルダです。

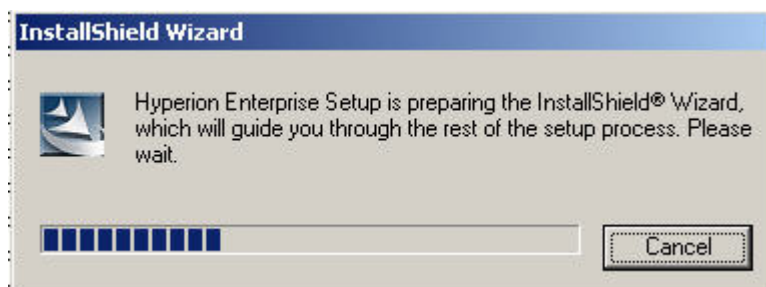
[Select Install Language] ダイアログボックスが表示されます。



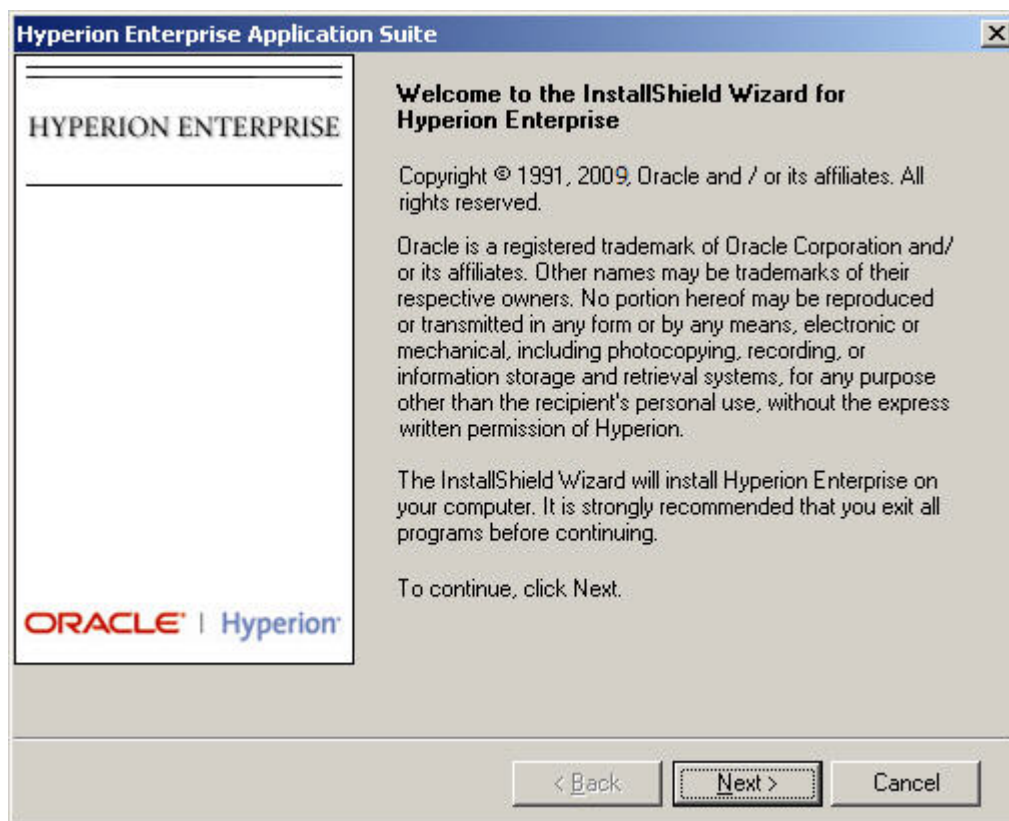
2 [Select Install Language] で、言語を選択し、[OK] をクリックします。

注： 言語はデフォルトで英語に設定されています。

セットアッププログラムの準備状況を示すメッセージが表示されます。

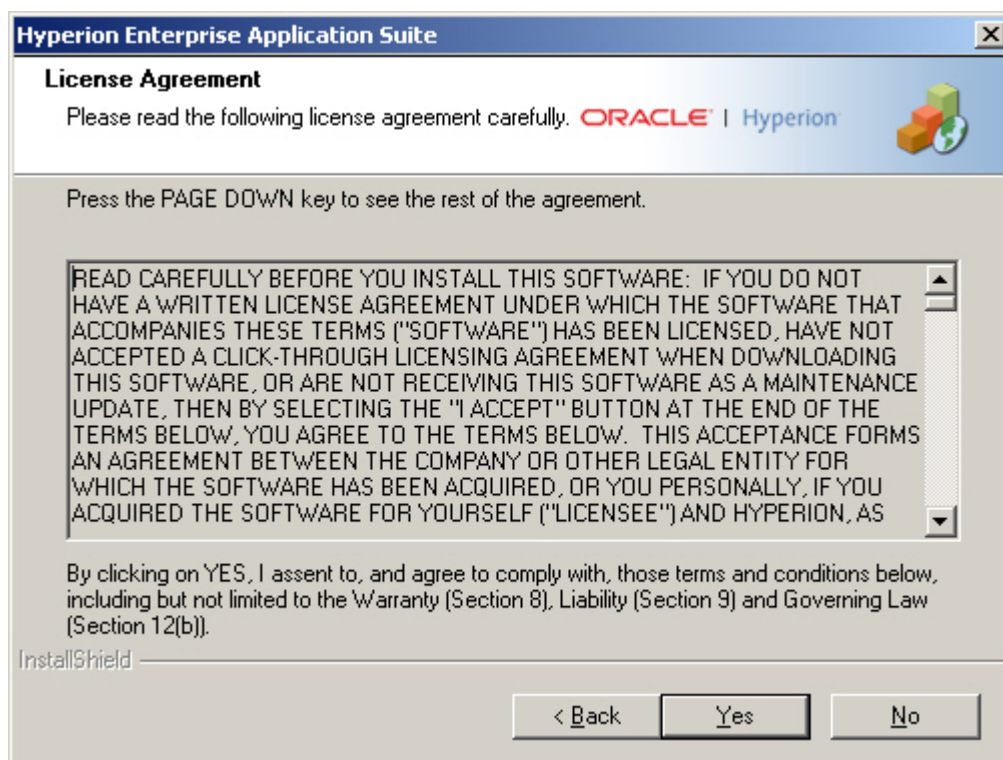


セットアッププログラムの準備が完了すると、[ようこそ] 画面が表示されます。



3 [次へ] をクリックします。

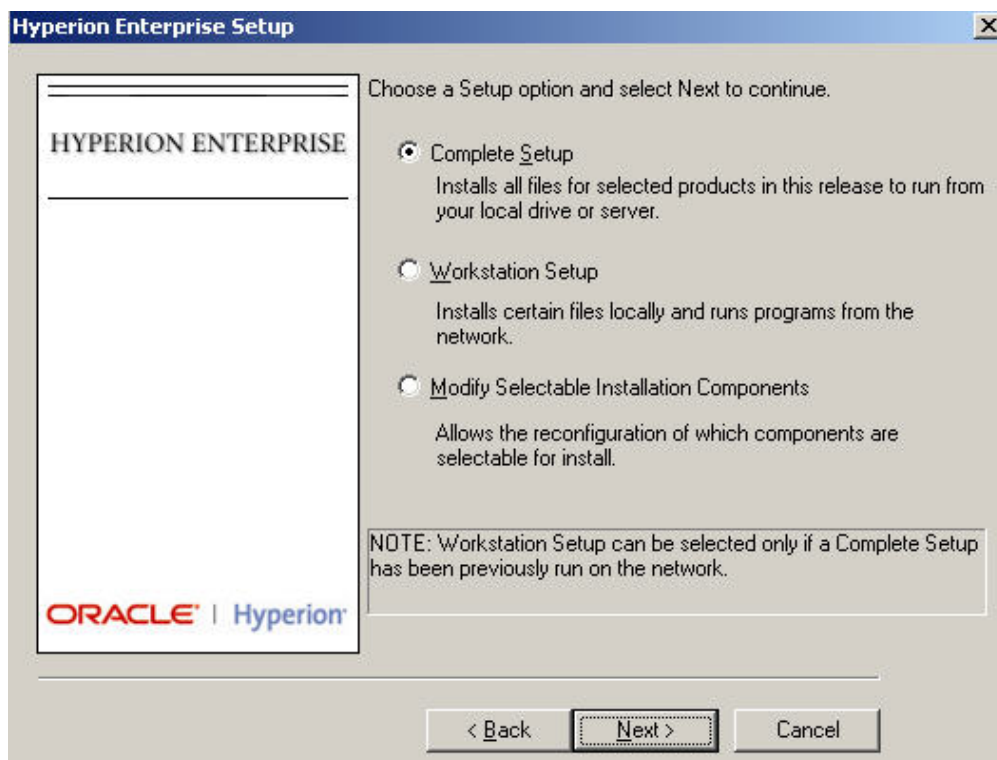
[使用許諾契約] ダイアログボックスが表示されます。



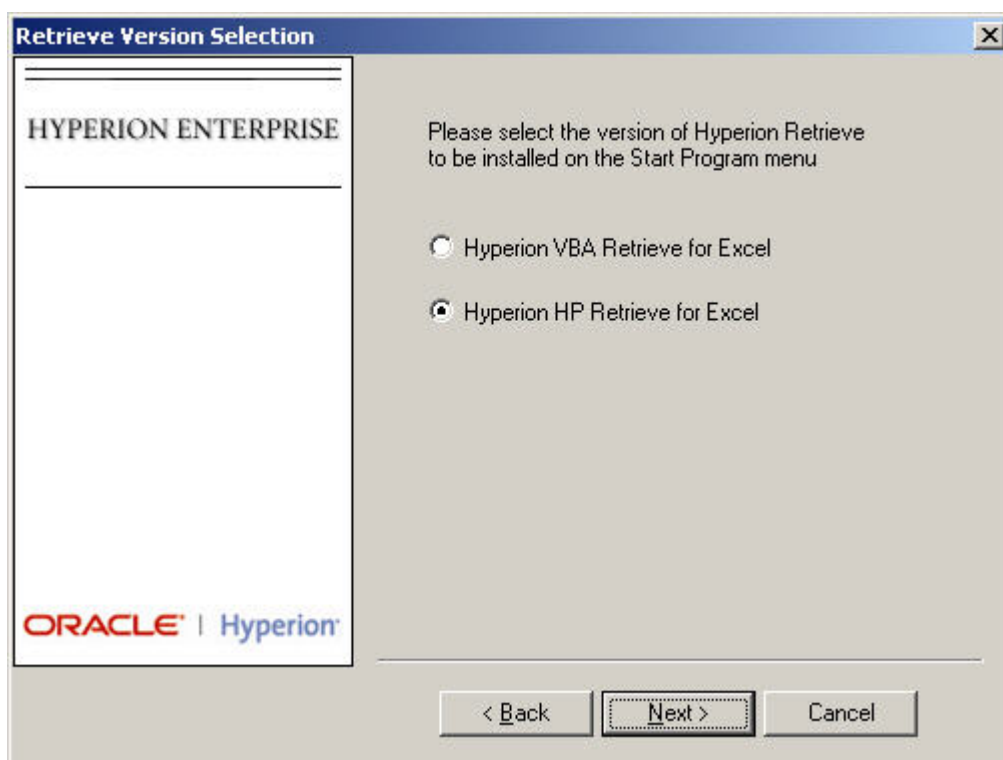
4 使用許諾契約をよく読んで、次のいずれかを選択します。

- 前の画面を表示するには、[戻る] を選択します。
- インストールを継続するには、[はい] を選択します。

- インストールを終了するには、[いいえ] を選択します。
使用許諾契約に関するダイアログボックスで [はい] を選択した場合は、
[Hyperion Enterprise のセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。



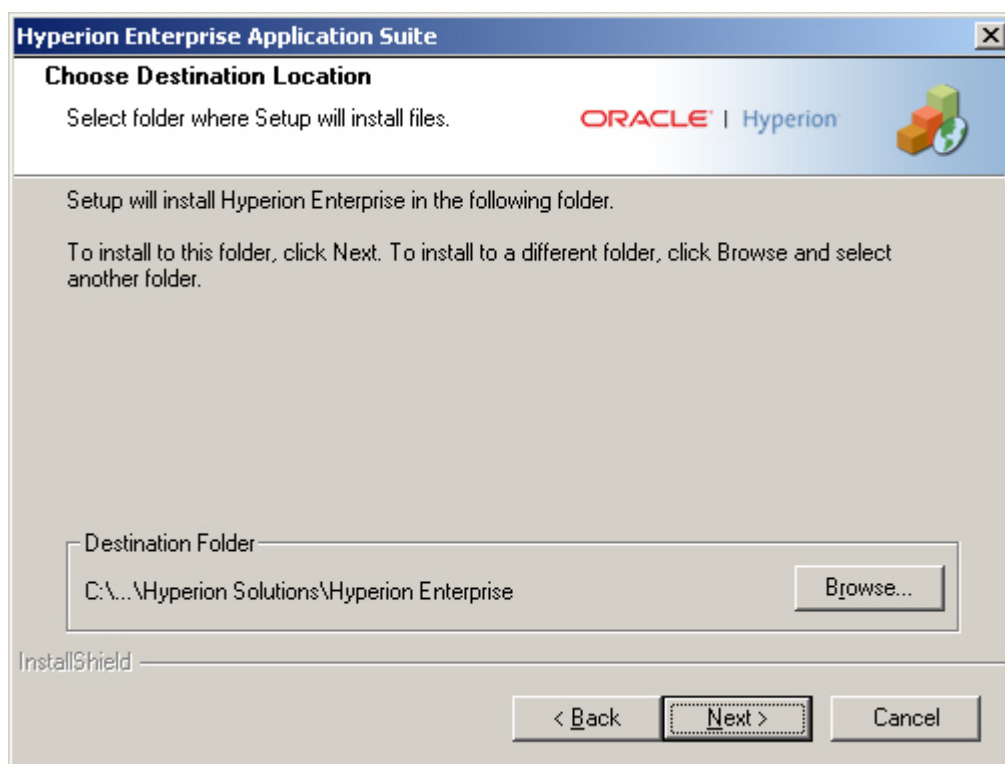
- 5 [完全セットアップ] をクリックし、[次へ] をクリックします。
[Retrieve バージョンの選択] ダイアログボックスが開きます。



- 6 Retrieve のバージョンを選択して、[次へ] をクリックします。

注： システムに Microsoft Excel がインストールされている場合にのみ、[Retrieve shortcut option (Retrieve ショートカットオプション)] ダイアログボックスが表示されます。

[インストール先の選択] ダイアログボックスが表示されます。



- 7 デフォルトのフォルダに Hyperion Enterprise をインストールするには、[次へ] をクリックします。デフォルト以外のインストールディレクトリを選択するには、次の手順を実行します。

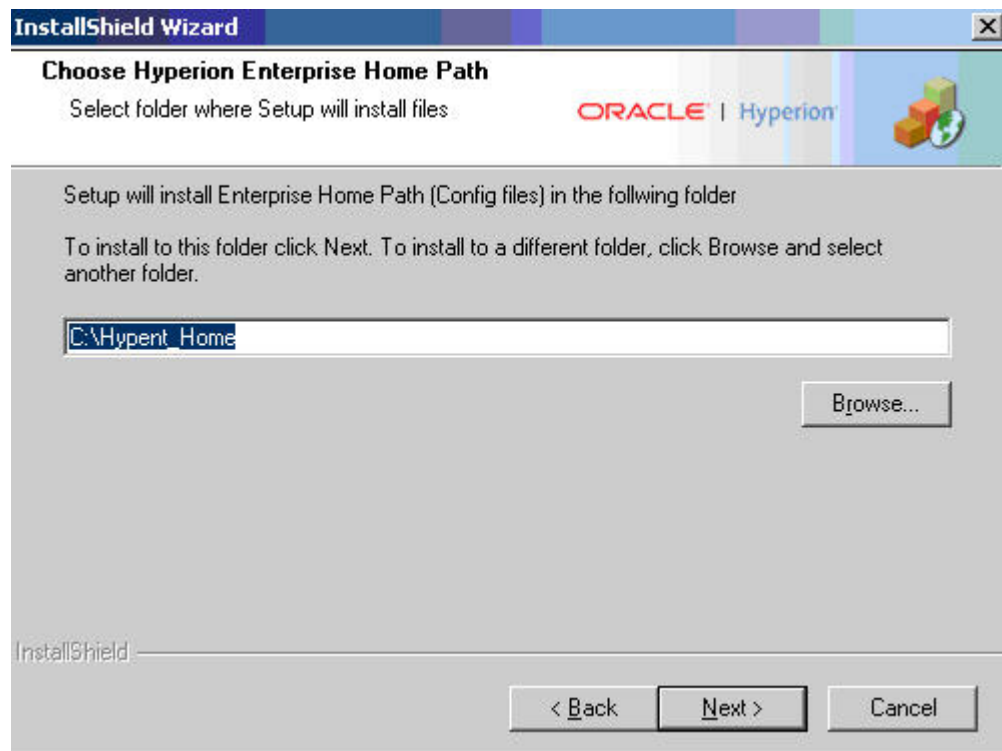
1. [参照] ボタンをクリックします。

[ディレクトリの選択] ダイアログボックスが表示されます。



2. Hyperion Enterprise をインストールするディレクトリを選択します。
3. [OK] をクリックして [インストール先の選択] ダイアログボックスに戻ります。
4. [次へ] をクリックします。

[Hyperion Enterprise Home Path (Hyperion Enterprise のホームパス)] ダイアログボックスが表示されます。



Windows Vista と Windows 2008 Server のユーザアカウント制御では、危険な可能性のあるソフトウェアが明示的な権限なしにコンピュータを変更しないようにして、コンピュータの安全性とセキュリティを向上します。

ユーザアカウント制御（UAC）の機能をサポートするために、インストール時に HYPENT_HOME フォルダが作成されます。このフォルダには、Hyperion Enterprise システムの INI ファイルである hypent.ini と repeng.ini が格納されています。HYPENT_HOME の場所は、インストールのルーチン中に定義できます。Windows Vista および Windows 2008 Server で新たにセキュリティが強化された結果、Hyperion Enterprise システムの 2 つの INI ファイルは、WINDOWS システムフォルダから HYPENT_HOME フォルダに移動されます。

<application>.ini ファイルはアプリケーションフォルダにあります。

注： ユーザアクセス制御の機能を使用するためにインストール中にシステム全体のファイルの場所を指定するには、デフォルトの<Install Drive\hypent_home>を選択するか、任意の場所を指定します。Program Files フォルダや Windows フォルダは選択しないでください。

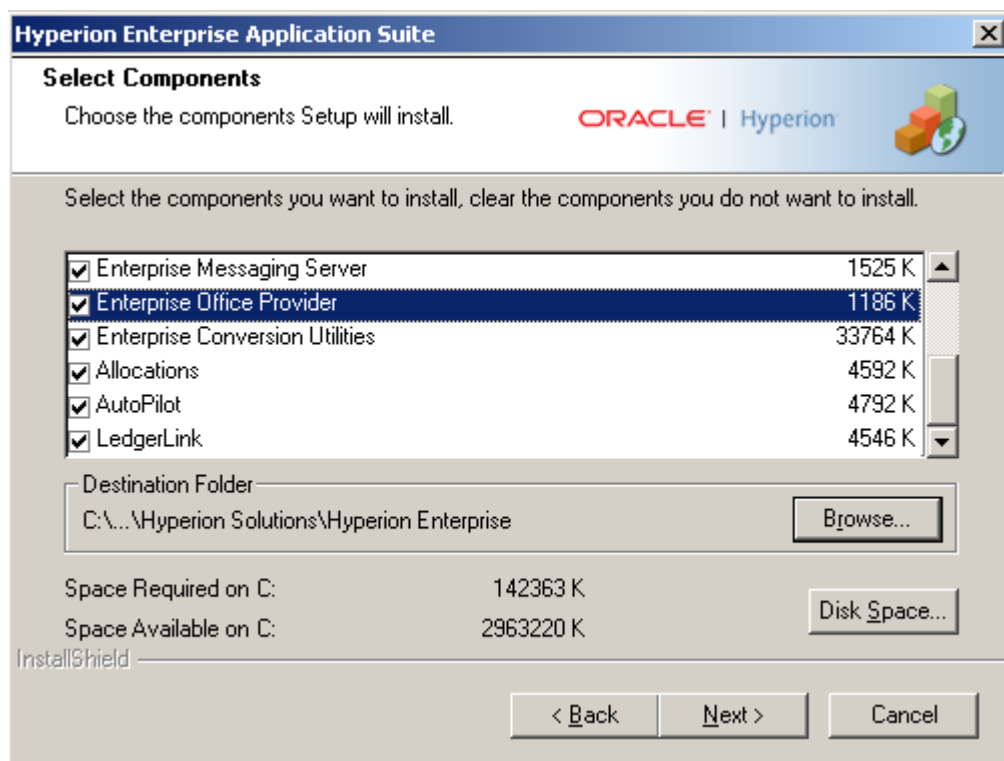
Hyperion Enterprise ホームをデフォルトパスにインストールする、または選択したデフォルト以外に Hyperion ホームをインストールする場合には、次の手順に従います。

1. **【参照】** をクリックします。
2. 別のインストールパスを選択するには、次の手順に従います。
[ディレクトリの選択] ダイアログボックスが表示されます。



3. Hyperion Enterprise をインストールするディレクトリを選択するか、またはディレクトリ名を入力します。フォルダが作成されます。
4. **【OK】** をクリックします。
5. **【次へ】** をクリックします。

[コンポーネントの選択] ダイアログボックスが表示されます。[インストール先のフォルダ] ボックスに、指定したインストールディレクトリが示されます。



注： サーバオペレーティングシステムがインストールされているコンピュータに Hyperion Enterprise をインストールする場合は、コンポーネントリストに Hyperion Enterprise アプリケーションサーバ、Hyperion Enterprise データサーバ、Hyperion Enterprise メッセージサーバ、Hyperion Enterprise Web サーバコンポーネントおよび Hyperion Enterprise 抽出ユーティリティが含まれます。それ以外の場合は、リストにはこれらのオプションが含まれません。

8 インストールする Hyperion Solutions 製品を指定します。

1. インストールするすべての製品とユーティリティのチェックボックスをオンにし、インストールしない製品のチェックボックスをオフにします。

注： 外部セキュリティサービスは、コア Hyperion Enterprise セキュリティの代わりに Windows ドメインセキュリティを使用できるようにするユーティリティです。

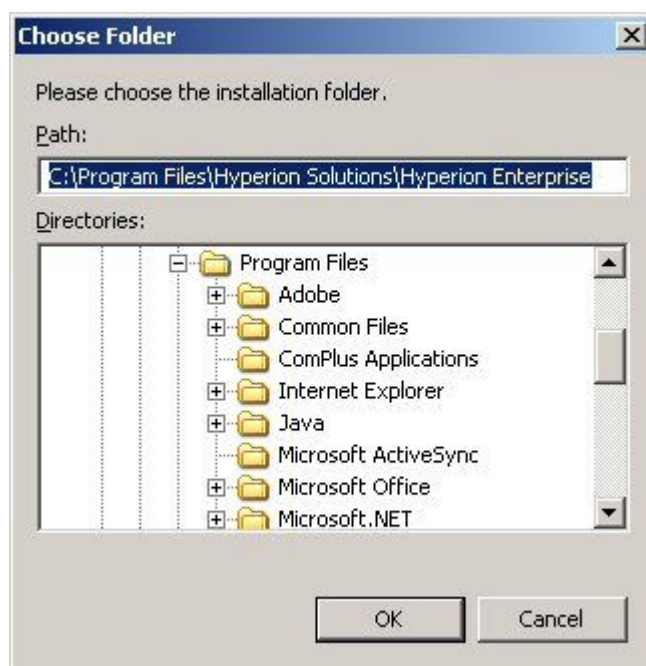
2. [必要なディスク容量] の数値が [空きディスク容量] の数値より大きい場合、インストールに必要な容量があるディスクドライブを選択します。

1. [ディスク容量] をクリックします。

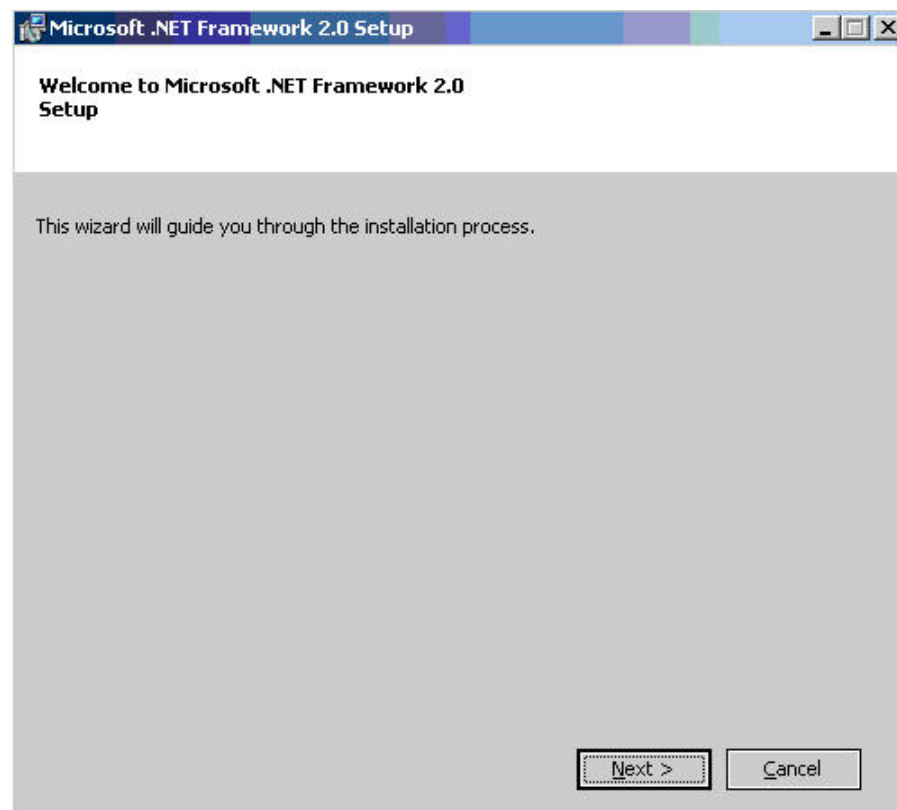
[空きディスク容量] ダイアログボックスが表示されます。



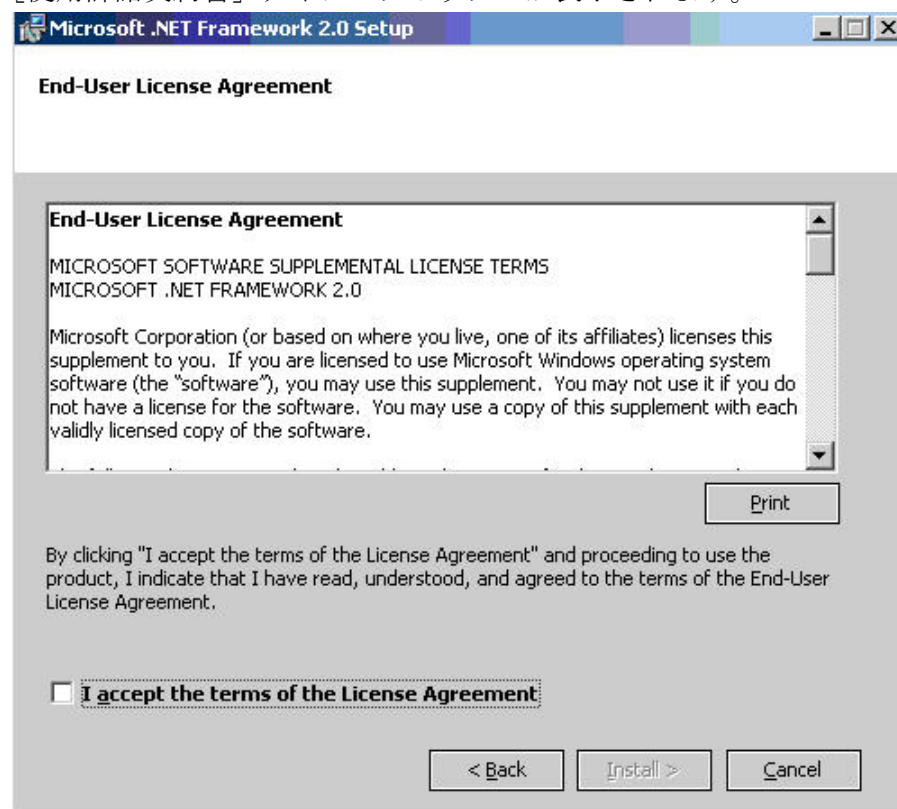
2. **【ドライブ】** ドロップダウンリストで、必要な容量以上の空き容量があるディスクドライブを選択します。
3. **【OK】** をクリックして **【コンポーネントの選択】** ダイアログボックスに戻ります。
3. 前のステップで選択したディレクトリ以外のディレクトリに Hyperion Enterprise をインストールするには（この作業は、別のディスクドライブを選択した場合に行う必要があります）、次の手順に従います。
 1. **【参照】** をクリックします。
【ディレクトリの選択】 ダイアログボックスが表示されます。



2. Hyperion Enterprise をインストールするディレクトリを選択するか、またはディレクトリ名を入力します。フォルダが作成されます。
3. **【OK】** をクリックして **【コンポーネントの選択】** ダイアログボックスに戻ります。
4. **【次へ】** をクリックします。
5. Microsoft .Net Framework 2.0 の **【セットアップへようこそ】** ページが表示されます。



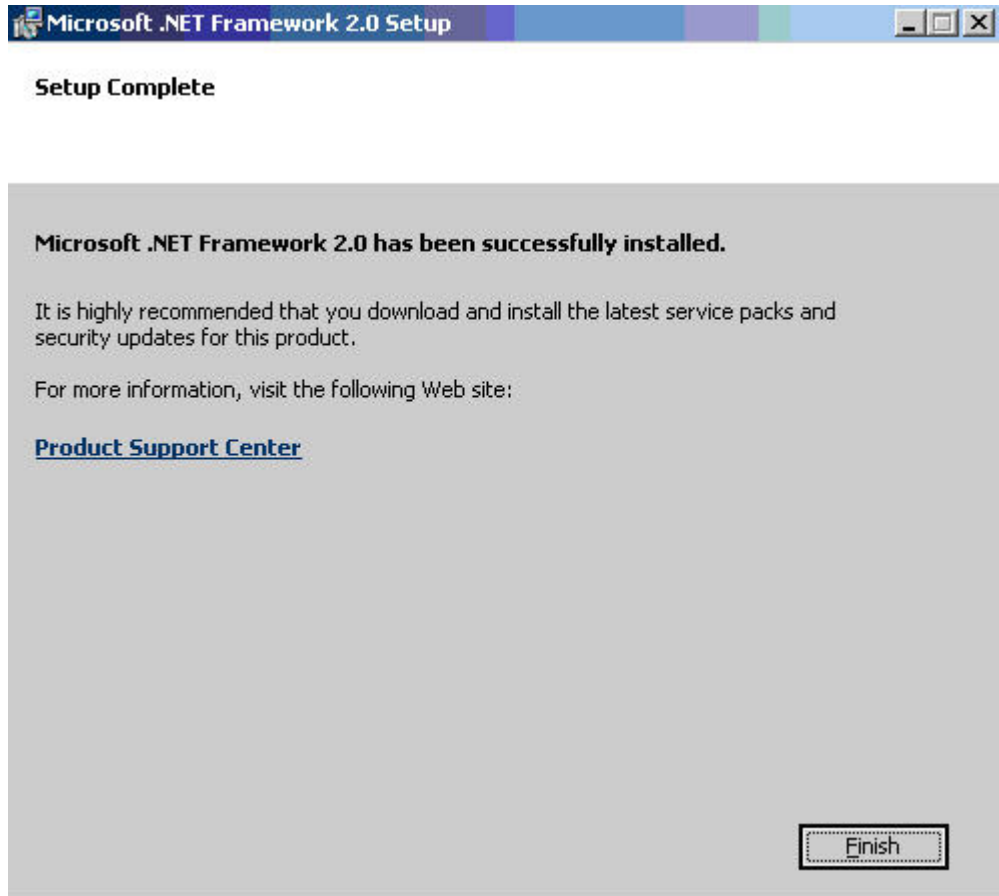
6. [次へ] をクリックします。
7. [使用許諾契約書] ダイアログボックスが表示されます。



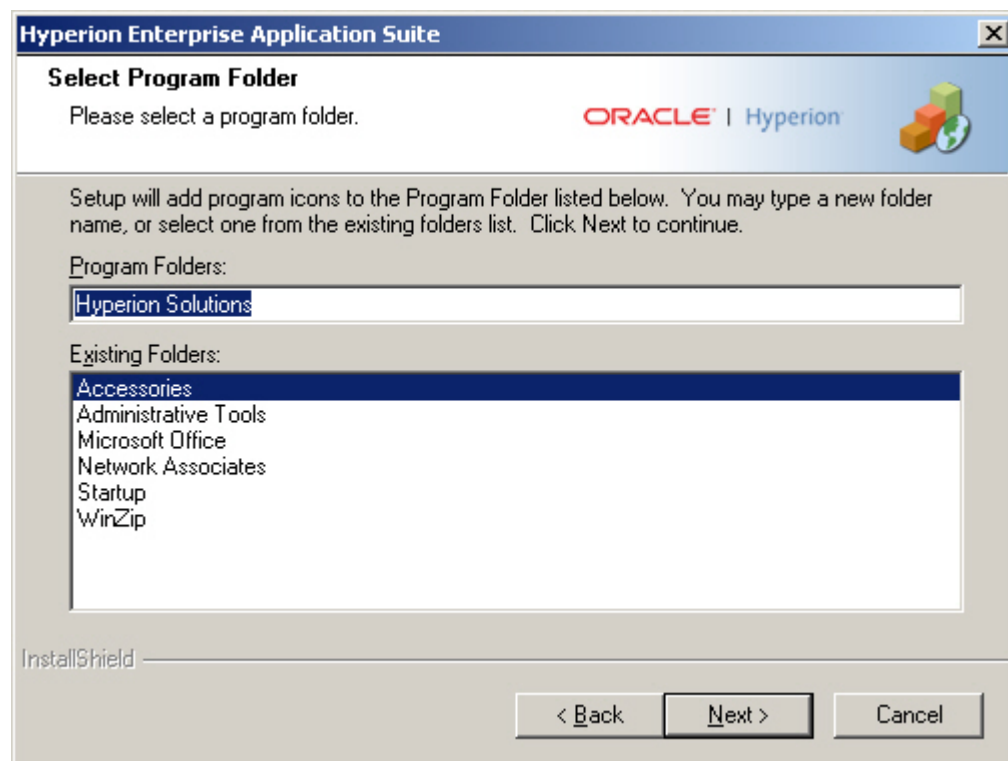
8. 使用許諾契約をよく読んで、次のいずれかを選択します。
 - 前の画面を表示するには、[戻る] をクリックします。

- 「同意する」を選択し、「インストール」をクリックしてインストールを続行します。
- インストールを終了するには、「キャンセル」をクリックします。

選択したコンポーネントがインストールされ、「セットアップ完了」ダイアログボックスが表示されます。



9. 「完了」をクリックします。
10. 「プログラムフォルダの選択」ダイアログボックスが表示されます。

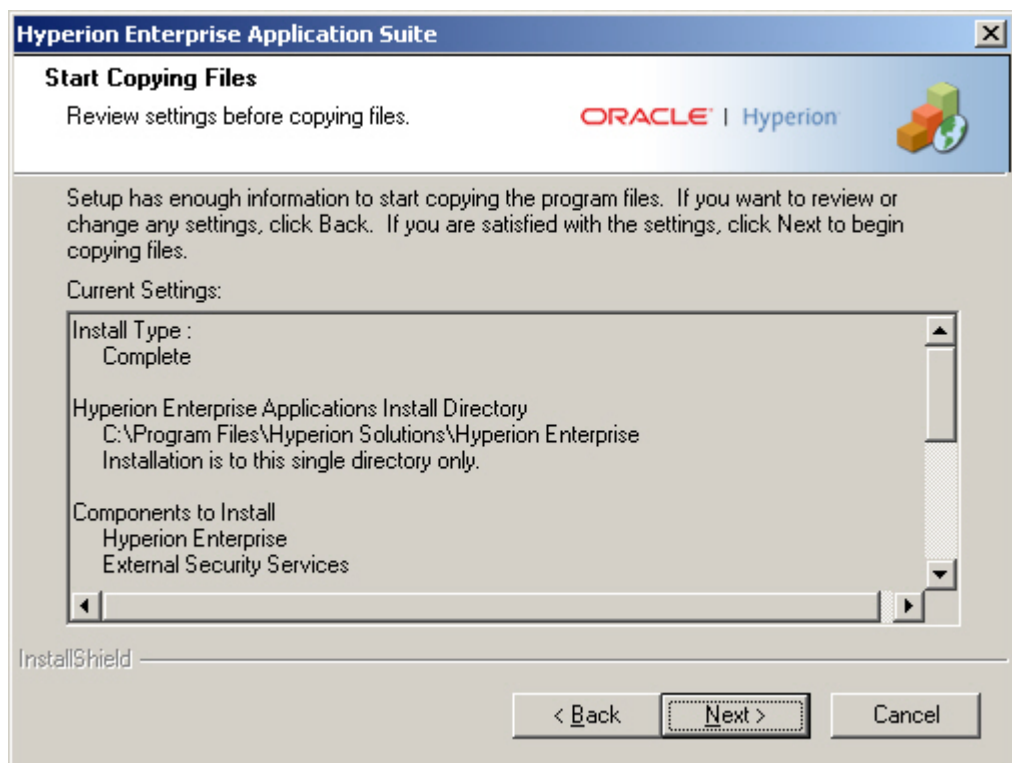


9 Hyperion Enterprise のプログラムアイコンを保存するプログラムフォルダを指定します。

- デフォルトのプログラムフォルダを使用する場合は、**[次へ]** をクリックします。

注： Hyperion Enterprise アプリケーションサーバ、Hyperion Enterprise データサーバ、Hyperion Enterprise メッセージサーバ、または Hyperion Enterprise Web サーバコンポーネントのインストールオプションを選択した場合は、[40 ページの「サーバコンポーネントの設定」](#)を参照してください。

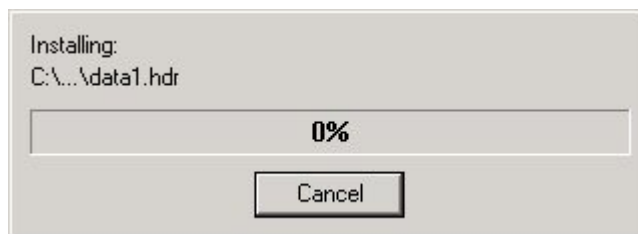
- デフォルト以外のプログラムフォルダにアイコンを保存するには、名前を入力するか、または **[既存のフォルダ]** リストのディレクトリ名をクリックし、**[次へ]** をクリックします。



10 インストール時の設定を確認した後、次のいずれかの作業を行います。

1. 設定が間違っている場合は、[戻る] をクリックして、その設定を変更するためのダイアログボックスに戻ります。
2. 設定が正しい場合は、[次へ] をクリックします。

Hyperion Enterprise のインストール状況を示すメッセージが表示されます。



11 完全インストールの継続手順については、選択したオプションに応じて後述の項を参照してください。

- アプリケーションサーバ、データサーバ、または Web サーバコンポーネントのインストールオプションを選択しなかった場合は、[50 ページの「完全インストールの終了」](#)を参照してください。
- 外部セキュリティサービスのインストールオプションを選択した場合は、[48 ページの「Common Security Services \(CSS\) のインストール」](#)を参照してください。

サーバコンポーネントの設定

サーバオペレーティングシステムがインストールされているコンピュータに Hyperion Enterprise をインストールする場合、アプリケーションサーバ、データサーバ、メッセージサーバ、または Web サーバのコンポーネントをインストール

するオプションを選択すると、完全インストールプロセスに、選択したサーバにアクセスするように Hyperion Enterprise を設定するステップが追加されます。

▶ Hyperion Enterprise サーバコンポーネントを設定するには、次の手順に従います。

1 サーバオペレーティングシステムがインストールされているコンピュータで、[28 ページの「完全インストールの開始」](#)で説明されている手順に従って、[コンポーネントの選択] ダイアログボックスで次のオプションのいずれか（複数可能）を選択します。

- Enterprise アプリケーションサーバ
- Enterprise データサーバ
- Enterprise Web サーバ
- Enterprise メッセージサーバ

[Hyperion Enterprise Server Logon Credentials (Hyperion Enterprise Server ログオン承認)] ダイアログボックスが表示されます。

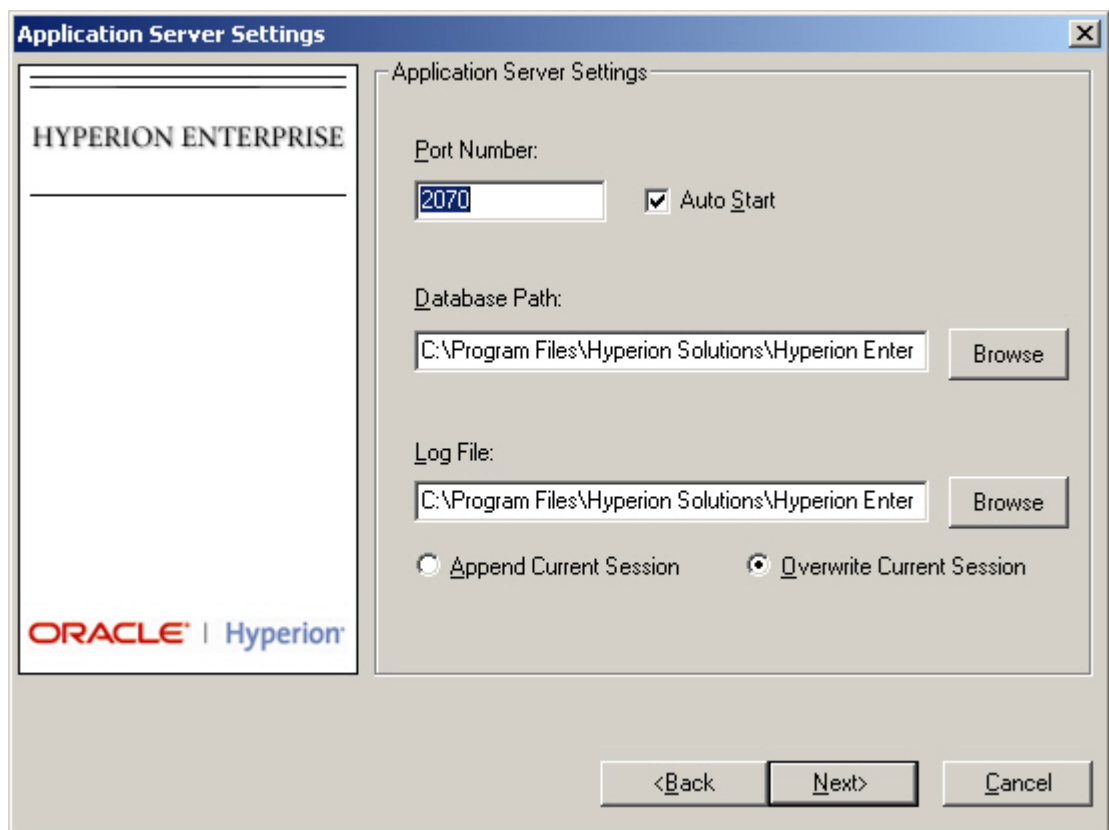
2 [ユーザ名] ボックスに、サーバのドメイン名と有効なユーザ名を次の形式で入力します。

computer\username

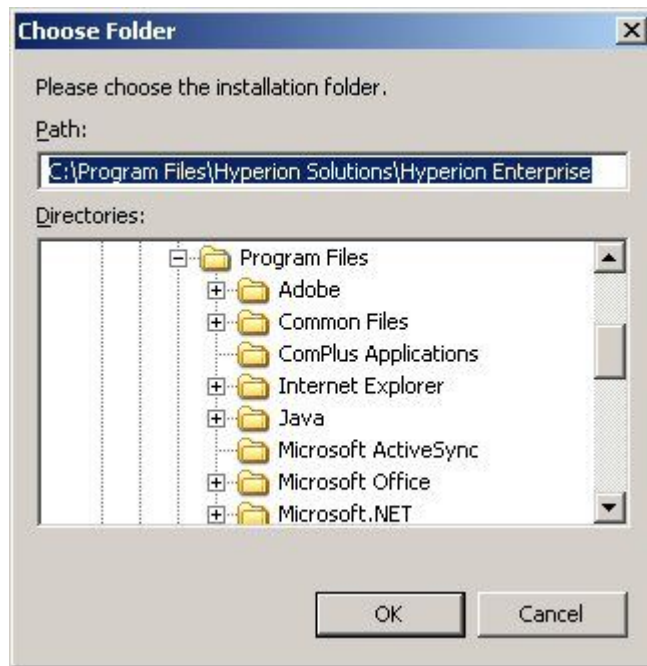
ここで、computer は、Hyperion Enterprise サービスアカウントがあるコンピュータまたはドメインの名前です。

3 [パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[パスワードの確認] ボックスにパスワードを再び入力して [次へ] をクリックします。

[アプリケーションサーバーの設定] ダイアログボックスが表示されます。



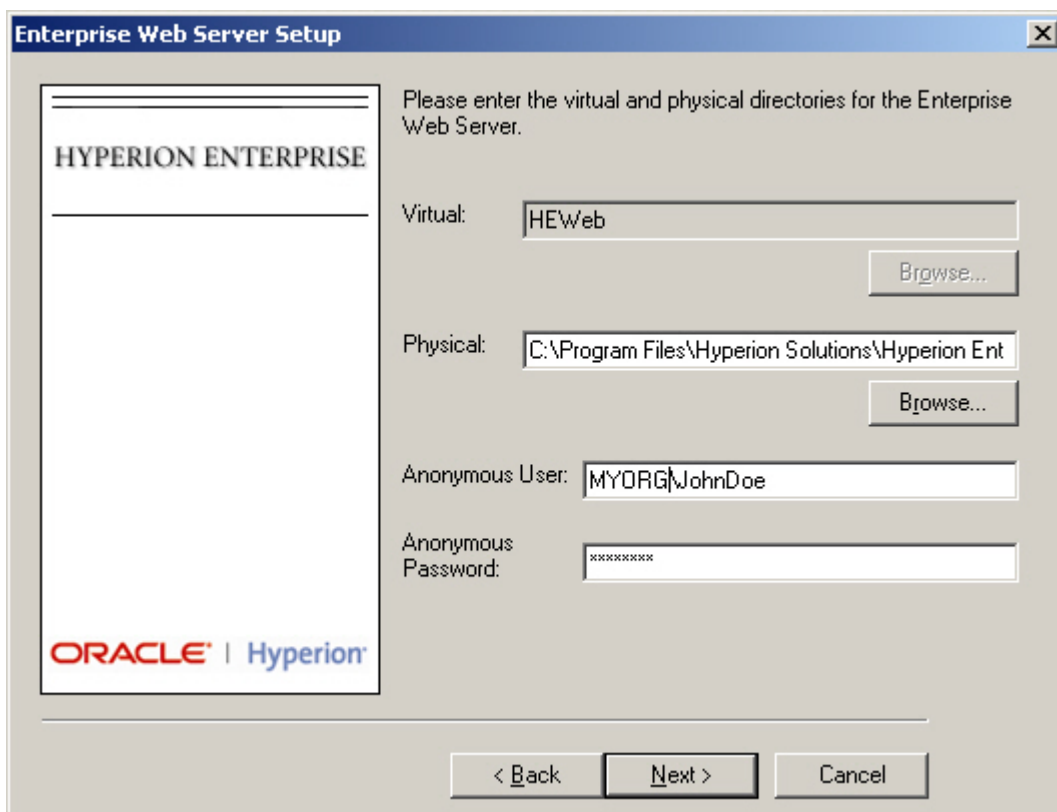
- 4 Hyperion Enterprise アプリケーションサーバコンポーネントまたは Hyperion Enterprise データサーバコンポーネント、あるいはその両方を設定するには、次の手順に従います。
1. デフォルト以外のポート番号を割り当てするには、[ポート番号] ボックスの値を変更します。
 2. アプリケーションサーバ接続を自動的に開始しない場合は、[自動開始] チェックボックスをオフにします。
 3. [データベースのパス] または [ログファイルのパス] ボックスのどちらかのパスを変更するには、次の手順に従います。
 1. [参照] ボタンをクリックします。
[ディレクトリの選択] ダイアログボックスが表示されます。



2. 使用するディレクトリをクリックします。
3. [OK] をクリックして [アプリケーションサーバーの設定] ダイアログボックスに戻ります。
4. [過去の記録に追加] または [現在の記録を消去] を選択し、[次へ] をクリックします。

注： HEServers.xml ファイルが存在しない場合、このファイルを作成するように求めるダイアログボックスが表示されるので、[はい] をクリックします。

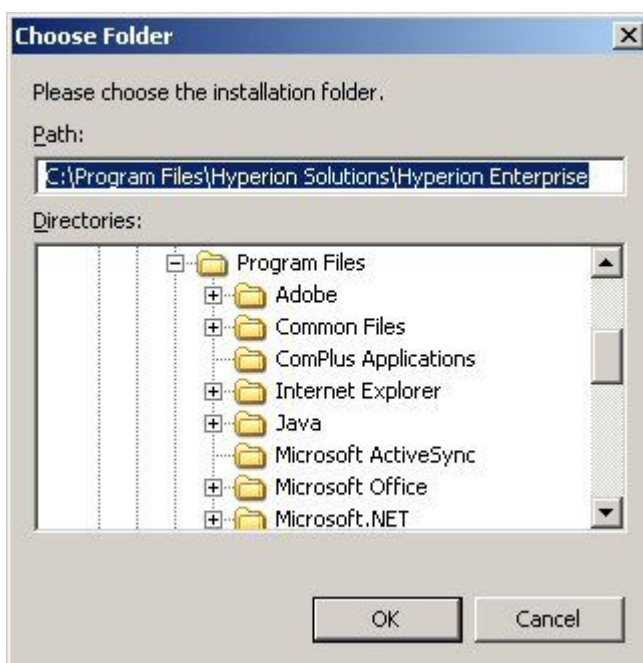
Hyperion Enterprise Web サーバコンポーネントをインストールするオプションを選択した場合は、[Hyperion Enterprise Web Server Setup (Hyperion Enterprise Web サーバーセットアップ)] ダイアログボックスが表示されます。



- 5 [物理] ボックスで、物理ディレクトリを指定します。デフォルト以外の物理ディレクトリを選択するには、次の手順を実行します。

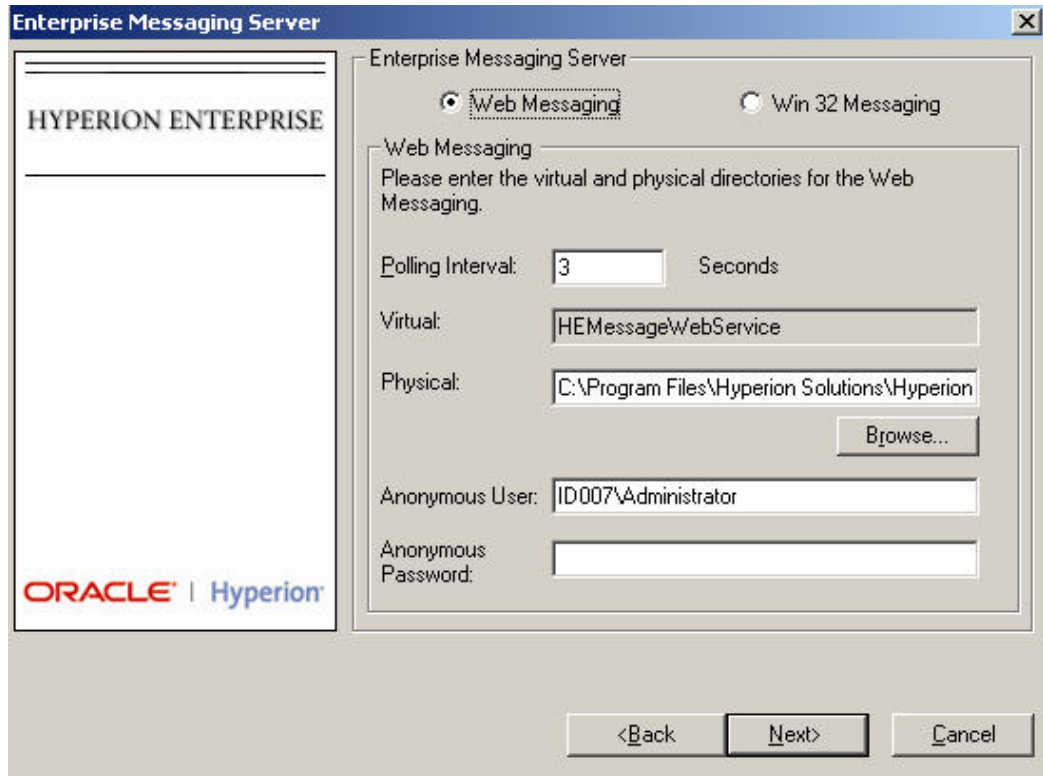
1. [参照] ボタンをクリックします。

[ディレクトリの選択] ダイアログボックスが表示されます。



2. 指定するディレクトリをクリックします。
3. [OK] をクリックして [Hyperion Enterprise Web Server Setup (Hyperion Enterprise Web サーバーセットアップ)] ダイアログボックスに戻り、[次へ] をクリックします。

「Enterprise Messaging Server」ダイアログボックスが表示されます。

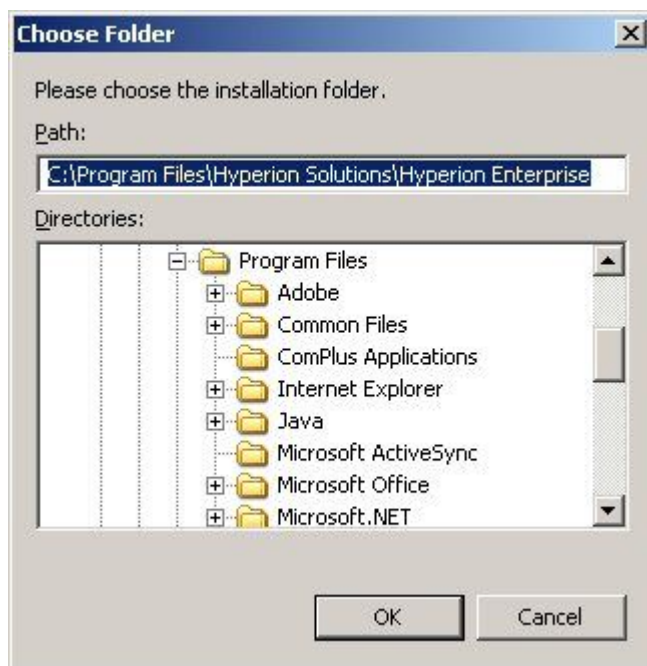


「Enterprise Message Server」ダイアログボックスで、次のいずれかの操作を行います。

- 「Enterprise Message Server」グループボックスで、Windows 32 と Web ベースアプリケーションのメッセージング機能をサポートする場合には「Web messaging (Web メッセージング)」を選択し、Windows 32 メッセージングのみをサポートする場合には「Windows 32 Messaging (Windows 32 メッセージング)」を選択します。
- 「Web messaging (Web メッセージング)」の「ポーリング間隔」設定に、必要な情報を秒単位で入力します。ポーリング間隔のデフォルト値は3秒です。
- デフォルト以外の物理ディレクトリを割り当てるには、「参照」をクリックします。

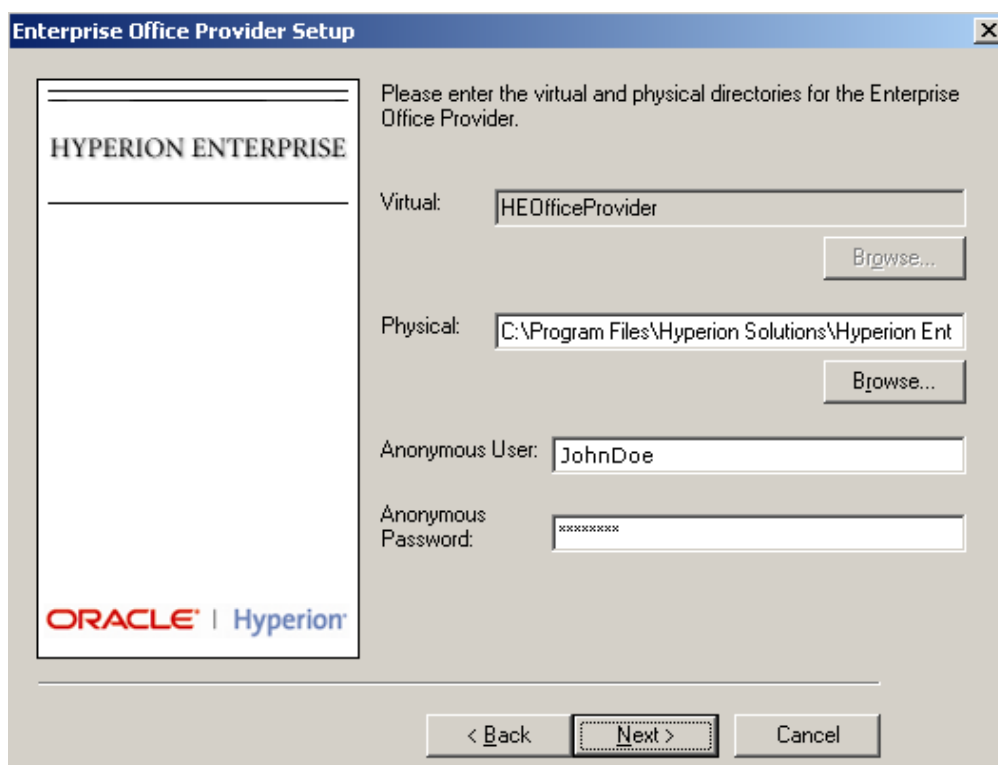
注： IIS を設定する必要があります。詳しくは、[付録 A 「Web 環境の手動設定」](#) を参照してください。IIS がインストールされていない場合、「Web messaging (Web メッセージング)」オプションは無効になっています。

「ディレクトリの選択」ダイアログボックスが開きます。



1. 割り当てるディレクトリを選択します。
2. [OK] をクリックして、[Hyperion Enterprise SmartView Provider] に戻ります。
3. [匿名ユーザー] テキストボックスに、サーバにアクセスするユーザの名前を入力します。
4. [匿名パスワード] テキストボックスに、パスワードを入力します。
5. [次へ] をクリックして、続行します。

設定を行うための [Hyperion Enterprise Smart View Provider] ダイアログボックスが開きます。



Smart View Provider を設定するには、次の手順に従います。

デフォルト以外の物理ディレクトリを割り当てるには、**[参照]** をクリックします。

注： 仮想ディレクトリは変更できません。

[ディレクトリの選択] ダイアログボックスが開きます。



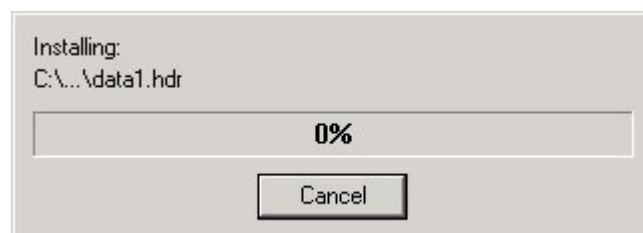
1. 割り当てるディレクトリを選択します。
2. **[OK]** をクリックして、**[Hyperion Enterprise SmartView Provider]** に戻ります。
3. **[匿名ユーザー]** テキストボックスに、サーバにアクセスするユーザの名前を入力します。
4. **[匿名パスワード]** テキストボックスに、パスワードを入力します。
5. **[次へ]** をクリックして、続行します。

[ファイルコピーの開始] ダイアログボックスが表示されます。

6 インストール時の設定を確認した後、次のいずれかの作業を行います。

1. 設定が間違っている場合は、**[戻る]** をクリックして、その設定を変更するためのダイアログボックスに戻ります。
2. 設定が正しい場合は、**[次へ]** をクリックします。

Hyperion Enterprise のインストール状況を示すメッセージが表示されます。



- 7 外部セキュリティサービスのインストールオプションを選択した場合は、[48 ページ](#)の「[Common Security Services \(CSS\) のインストール](#)」を参照してください。

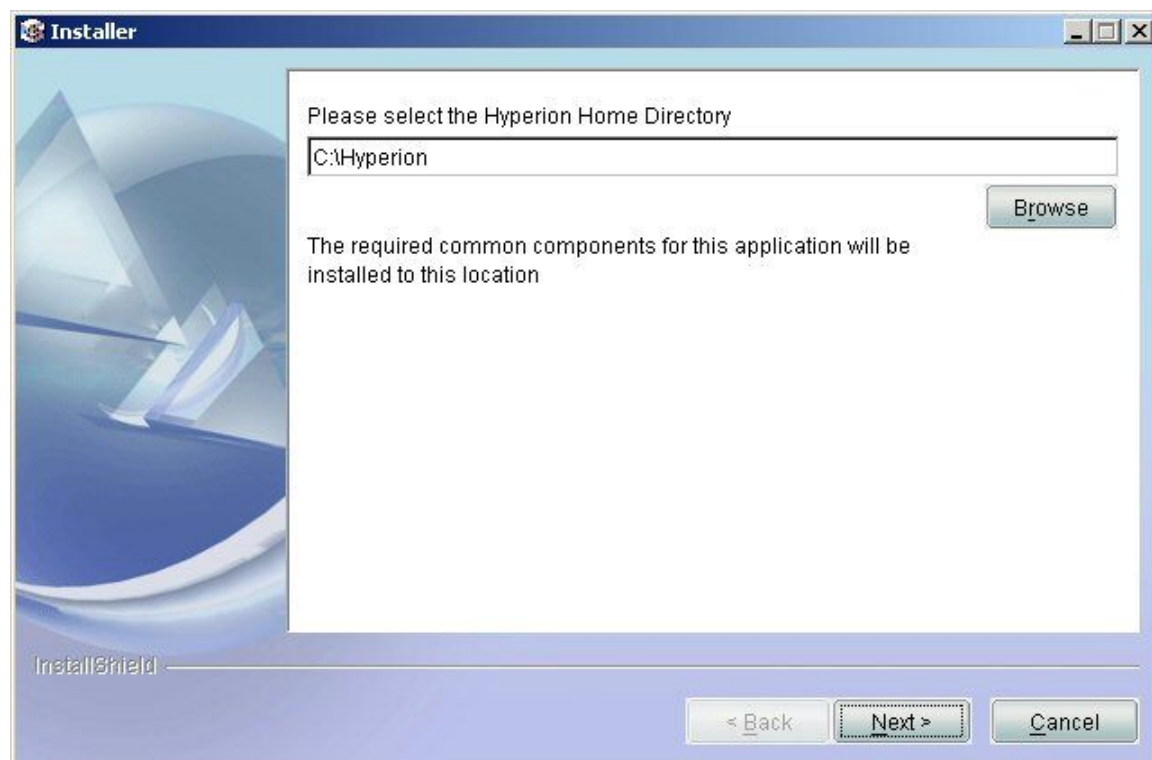
注： 連結製品を代替するための Hyperion Enterprise アプリケーションの抽出について詳しくは、Hyperion Enterprise の抽出ユーティリティ・ガイドを参照してください。

Common Security Services (CSS) のインストール

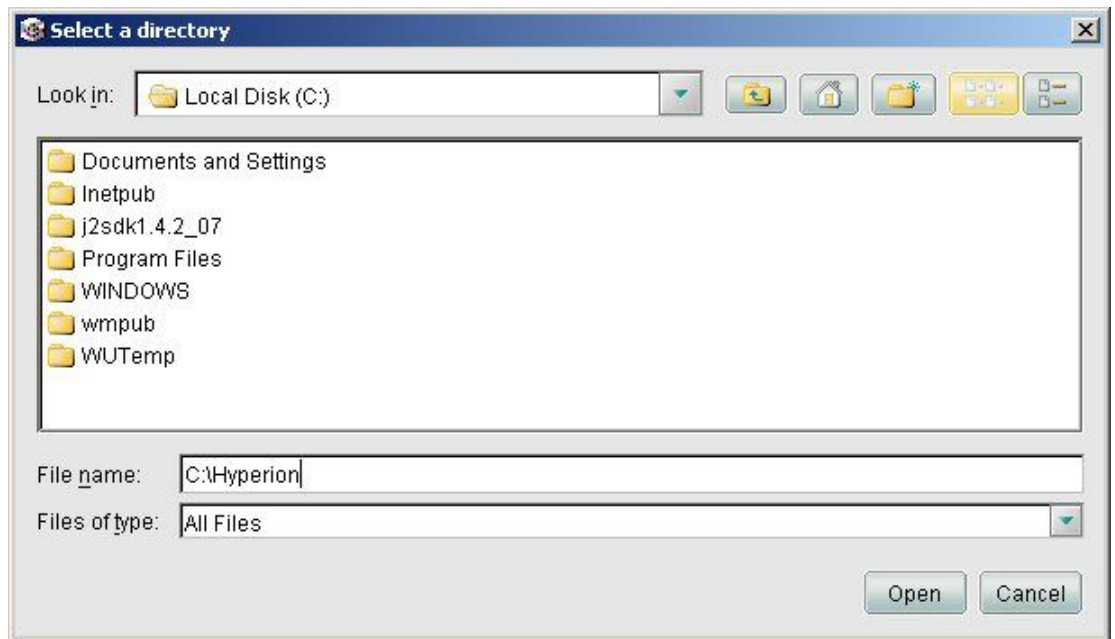
Hyperion Enterprise をインストールし、外部セキュリティサービスのインストールオプションを選択した場合は、完全インストールプロセスに CSS をインストールするためのステップが追加されます。

- Hyperion ホームディレクトリを設定するには、次の手順に従います。
- 1 [28 ページ](#)の「[完全インストールの開始](#)」で説明している手順に従って、インストーラを開始していない場合は、[コンポーネントの選択] ダイアログボックスから [外部セキュリティサービス] オプションを選択します。

注： Hyperion ホームディレクトリが検出された場合、CSS はそのディレクトリにインストールされます。



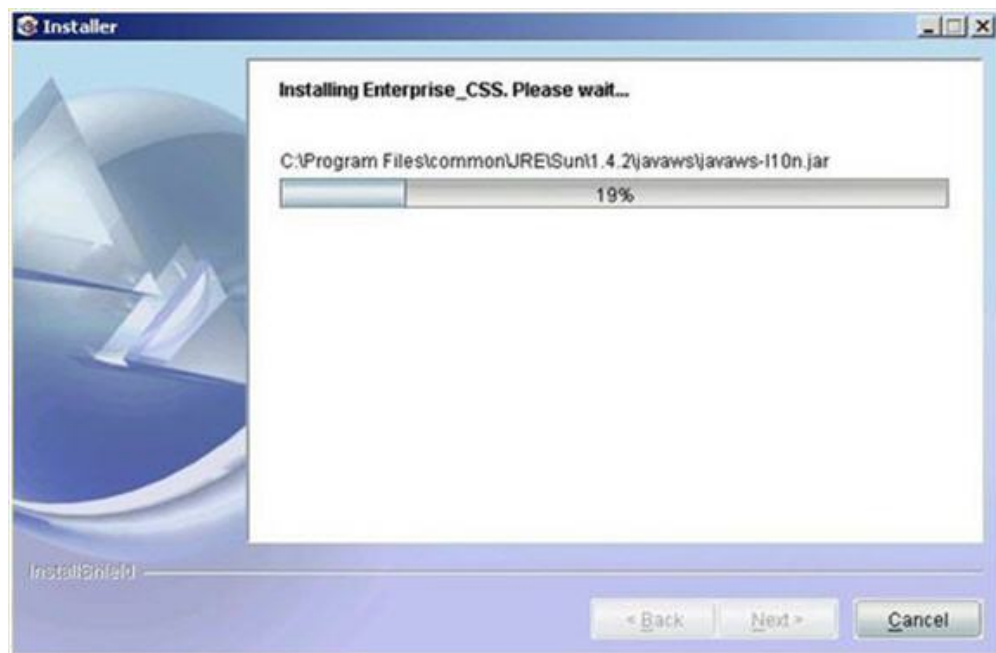
- 2 Hyperion ホームのインストール先としてデフォルトのディレクトリを選択するか、[参照] をクリックして別の場所を指定します。
ディレクトリを選択するためのダイアログボックスが表示されます。



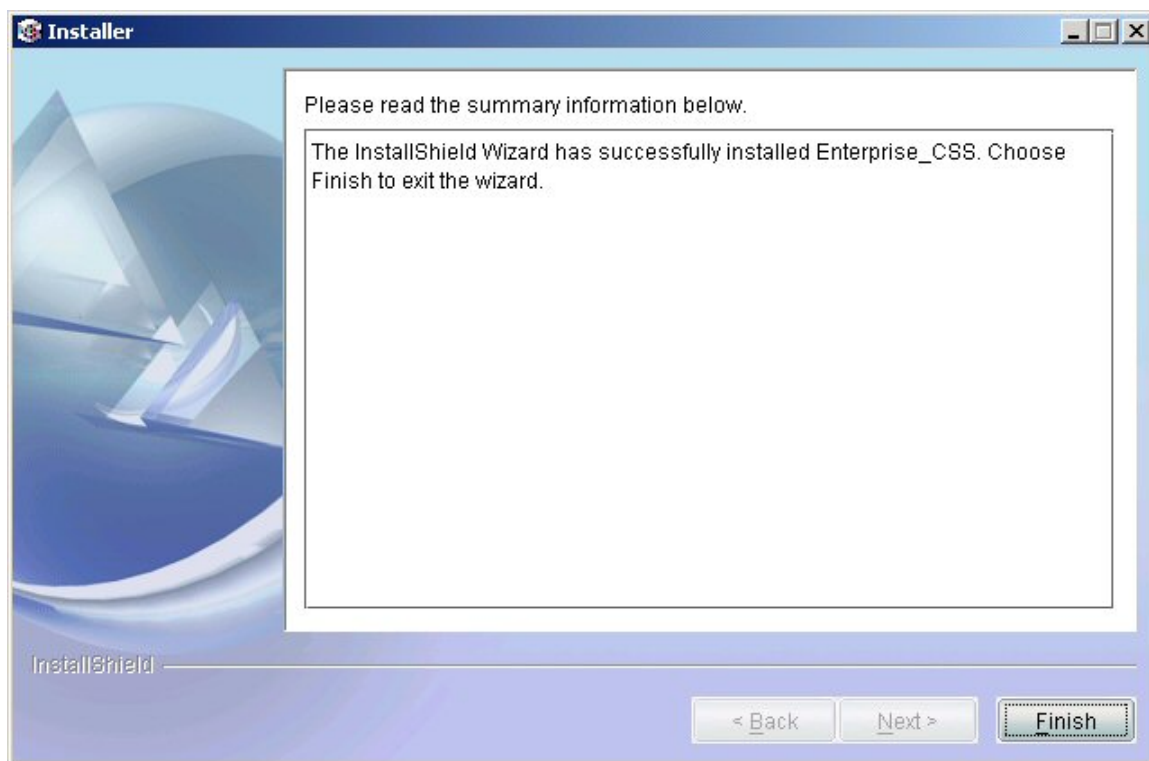
3 使用するディレクトリを選択し、[開く] をクリックします。

4 [次へ] をクリックします。

インストールの進行状況を示すダイアログボックスが表示されます。



インストールが正常に終了すると、サマリ情報を示すダイアログボックスが表示されます。



- 5 [完了] をクリックします。

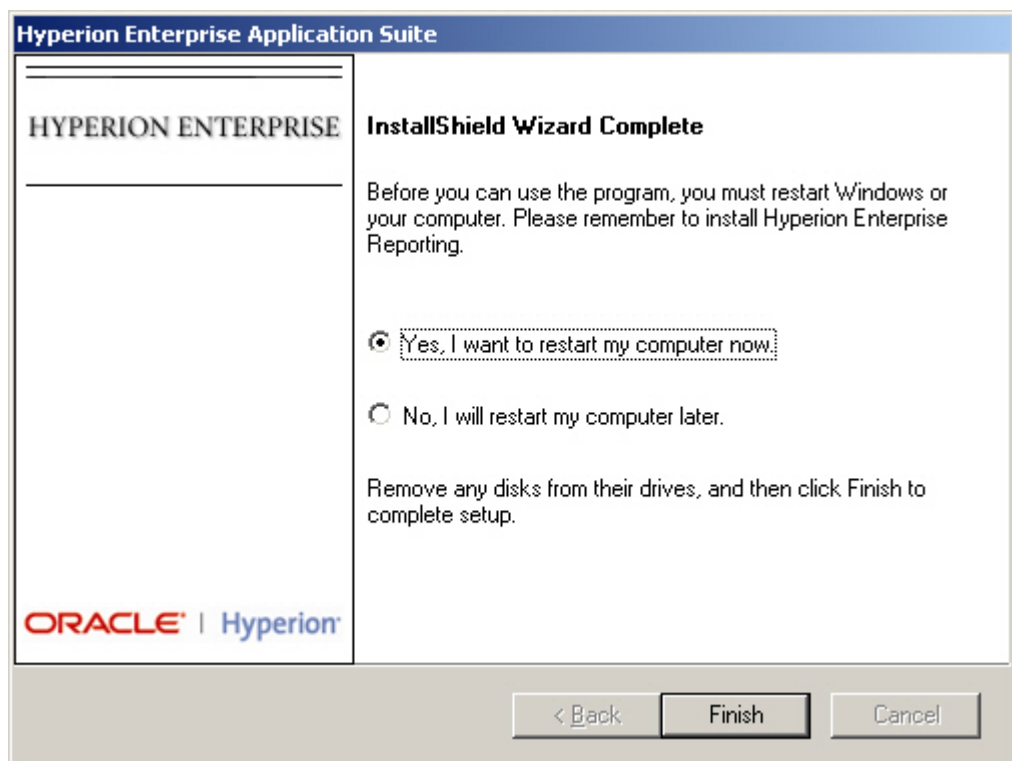
完全インストールの終了

完全インストールの終了のステップは、使用しているオペレーティングシステムやインストール開始時に選択した Hyperion Enterprise コンポーネントにかかわらずすべてのコンピュータで同じです。

- ▶ 完全インストールを終了するには、次の手順に従います。
- 1 28 ページの「[完全インストールの開始](#)」で説明されている手順に従います。
- 2 Hyperion Enterprise アプリケーションサーバ、データサーバ、Web サーバ、またはメッセージサーバコンポーネントのインストールオプションを選択した場合は、40 ページの「[サーバコンポーネントの設定](#)」で説明されている手順に従ってください。
- 3 外部セキュリティサービスのインストールオプションを選択した場合は、48 ページの「[Common Security Services \(CSS\) のインストール](#)」で説明されている手順に従います。

注： Hyperion Enterprise のインストールによって、アプリケーションの作成やタスクの実行ができるようになります。その概要は『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』と『Hyperion Enterprise ユーザガイド』で説明されています。ただし、レポートを使用するには、Hyperion Enterprise Reporting をインストールする必要があります。Hyperion Enterprise Reporting のインストールについて詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting インストールガイド』を参照してください。

前の手順を実行すると、コンピュータを再起動するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。



- 4 コンピュータを再起動する場合は「はい」をクリックします。再起動せずに別のアプリケーションで作業を継続する場合は「いいえ」をクリックします。「完了」をクリックします。

アプリケーションサーバコンポーネントの以前のリリースがインストールされたコンピュータでアップグレードのインストールを実行する場合、アップグレードのインストールプログラムにより、アプリケーションサーバコンポーネントはこのリリースに自動的にアップグレードされます。

ワークステーション用セットアップインストールの実行

ワークステーションインストールでは、ネットワークにインストールされた Hyperion Enterprise プログラムにアクセスできるよう、特定のプログラムファイルがローカルのワークステーションにインストールされます。ワークステーションインストールを始める前に、次の注意事項をお読みください。

- ワークステーションインストーを実行する前に、ネットワークサーバに対して完全セットアップインストールを実行する必要があります。
 - ワークステーションインストールの実行時には、ユーザをシステムにログオンさせないでください。
- Hyperion Enterprise のワークステーションインストールを実行するには、次の手順に従います。
- 1 次のいずれかの操作を行います。
- Hyperion Enterprise ソフトウェアを Oracle E-Delivery からダウンロードした場合は、次のいずれかの操作を行います。

- インストールプログラムをダウンロードしたディレクトリに移動し、**install.exe** をダブルクリックします。
- Windows の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、次のコマンドを [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスに入力して、[OK] をクリックします。

Drive\directory\install.exe

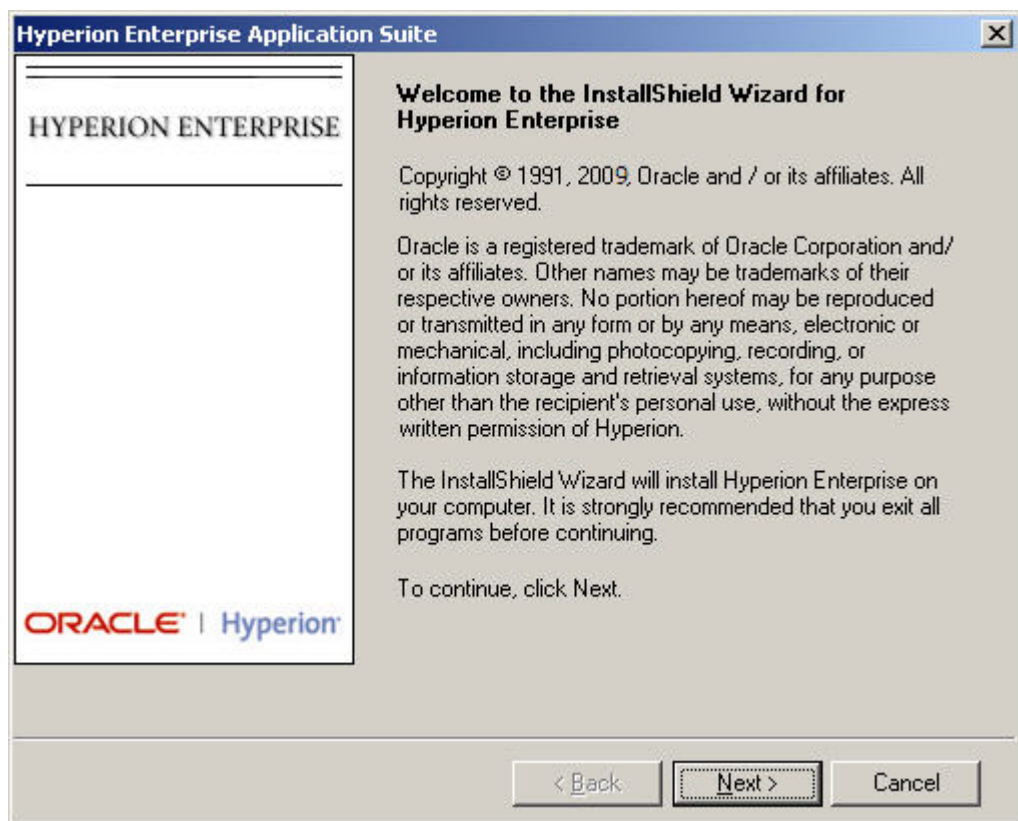
ここで、Drive および directory は、Hyperion Enterprise インストールプログラムがあるドライブとフォルダです。

[Select Install Language] ダイアログボックスが表示されます。



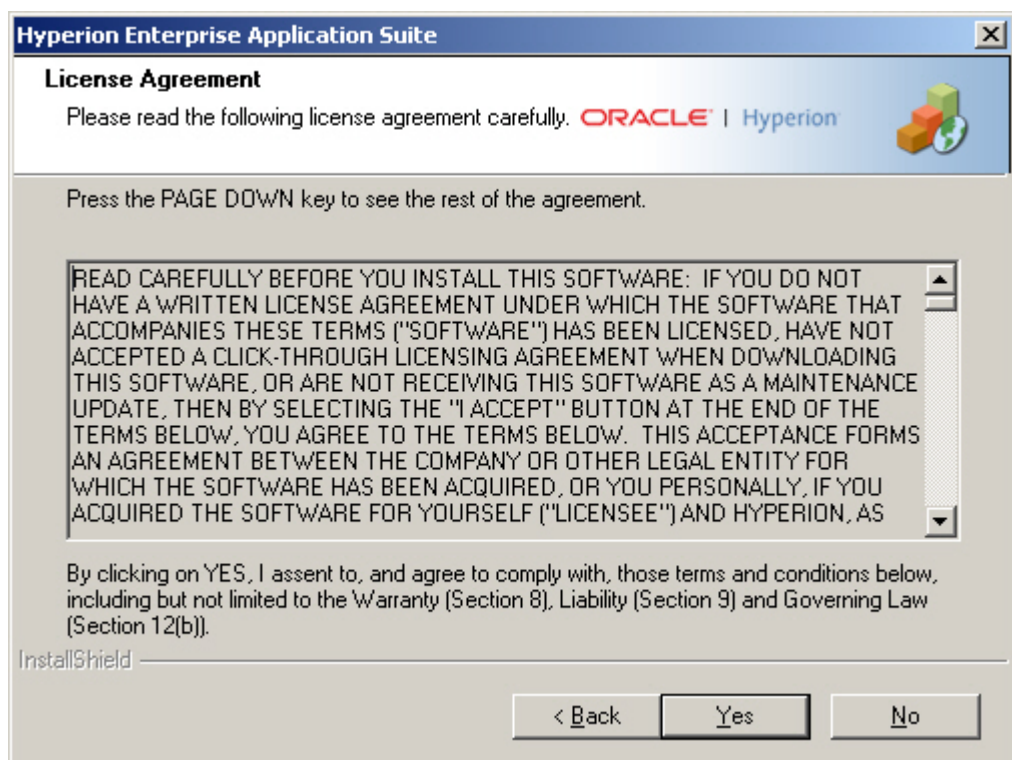
- 2 [Select Install Language] ダイアログボックスで、言語を選択し、[OK] をクリックします。

セットアッププログラムの [ようこそ] 画面が表示されます。



3 [次へ] をクリックします。

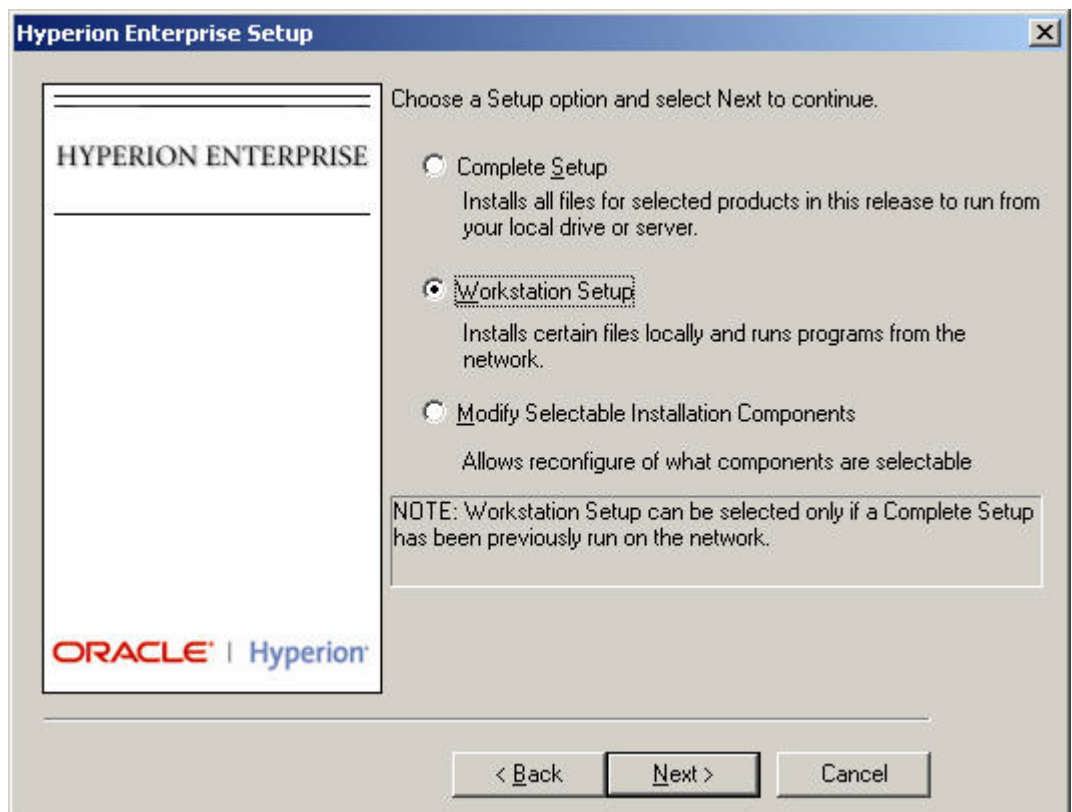
[使用許諾契約] ダイアログボックスが表示されます。



4 使用許諾契約をよく読んで、次のいずれかを選択します。

- 前の画面を表示するには、[戻る] を選択します。
- インストールを継続するには、[はい] を選択します。

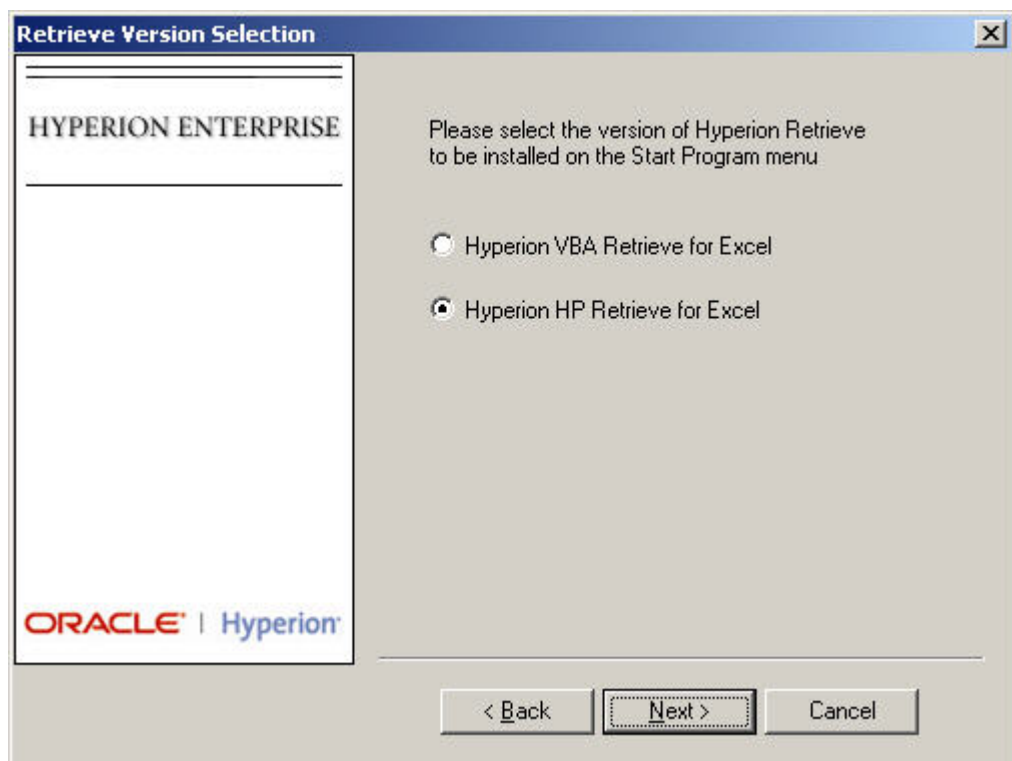
- インストールを終了するには、[いいえ] を選択します。
使用許諾契約に関するダイアログボックスで [はい] を選択した場合は、
[Hyperion Enterprise のセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。



- 5 [ワークステーションセットアップ] をクリックし、[次へ] をクリックします。

注： [選択可能なインストールコンポーネントの修正] オプションは、初期インストールのときにインストールされなかったコンポーネントをインストールするために使用します。

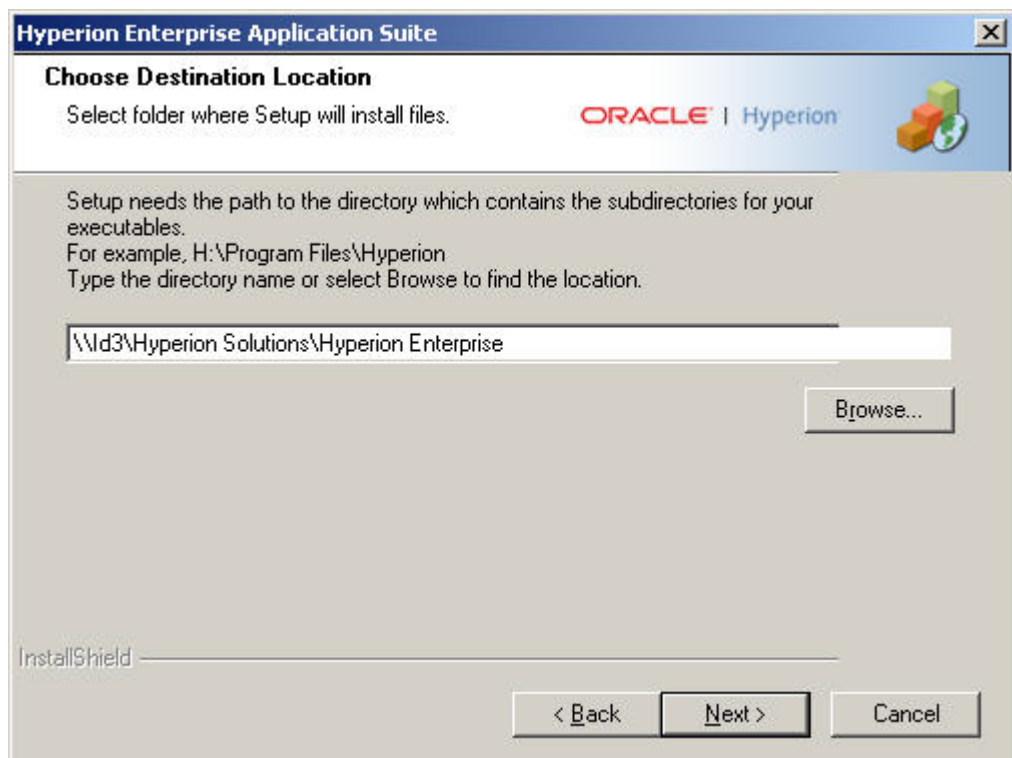
[Retrieve バージョンの選択] ダイアログボックスが開きます。



6 Retrieve のバージョンを選択して、[次へ] をクリックします。

注： システムに Microsoft Excel がインストールされている場合にのみ、[Retrieve shortcut option (Retrieve ショートカットオプション)] ダイアログボックスが表示されます。

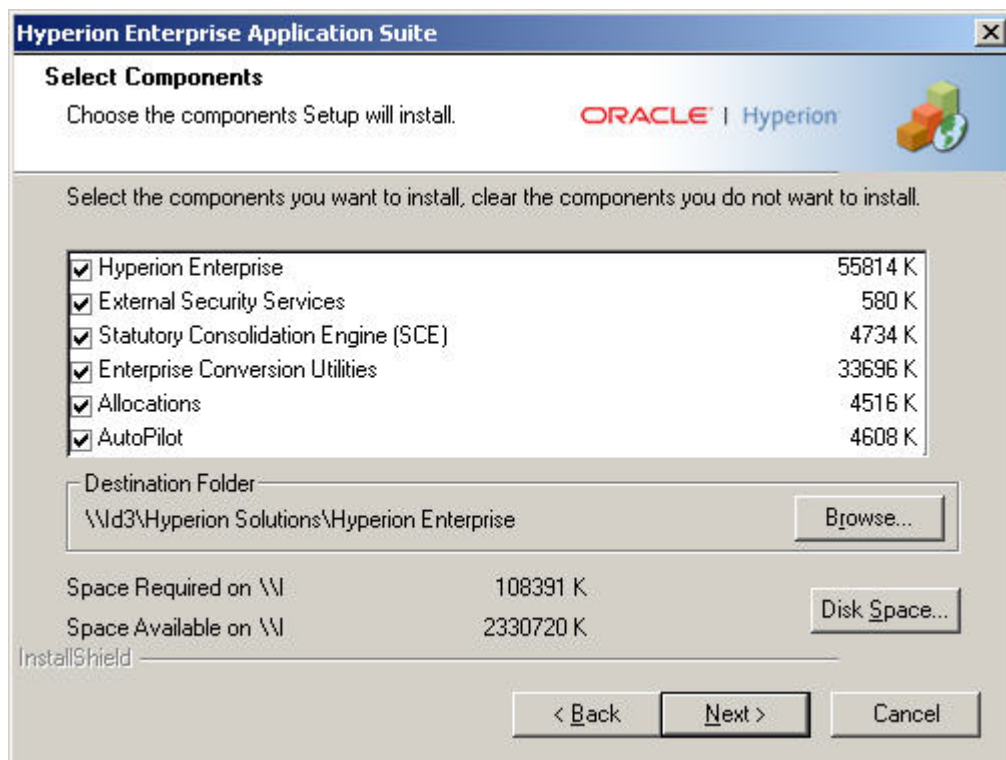
[インストール先の選択] ダイアログボックスが表示されます。



- 7 次のいずれかの方法で、ネットワークの Hyperion Enterprise プログラムファイルのあるサブディレクトリが存在するサーバ上のディレクトリを指定し、[次へ] をクリックします。

- テキストボックスにディレクトリ名を入力します。
- [参照] を使用してディレクトリに移動します。

[コンポーネントの選択] ダイアログボックスが表示されます。[インストール先のフォルダ] ボックスに、指定したネットワークインストールディレクトリが示されます。



- 8 インストールするコンポーネントと、Hyperion Enterprise をインストールするワークステーションのドライブを選択し、[次へ] をクリックします。

1. インストールするすべての製品とユーティリティのチェックボックスをオンにし、インストールしない製品のチェックボックスをオフにします。

注： 外部セキュリティサービスは、コア Hyperion Enterprise セキュリティの代わりに Windows ドメインセキュリティを使用できるようにするユーティリティです。

2. [参照] を使用して Hyperion Enterprise をインストールするワークステーションのドライブを選択します。
3. [必要なディスク容量] の数値が [空きディスク容量] の数値より大きい場合、インストールに必要な容量があるディスクドライブを選択します。

注： 表示される必要なディスク容量の量は、完全インストールでの量です。ワークステーションインストールに必要な実際のディスク容量は、この量より少なくなります。

1. **「ディスク容量」** をクリックします。
「空きディスク容量」 ダイアログボックスが表示されます。



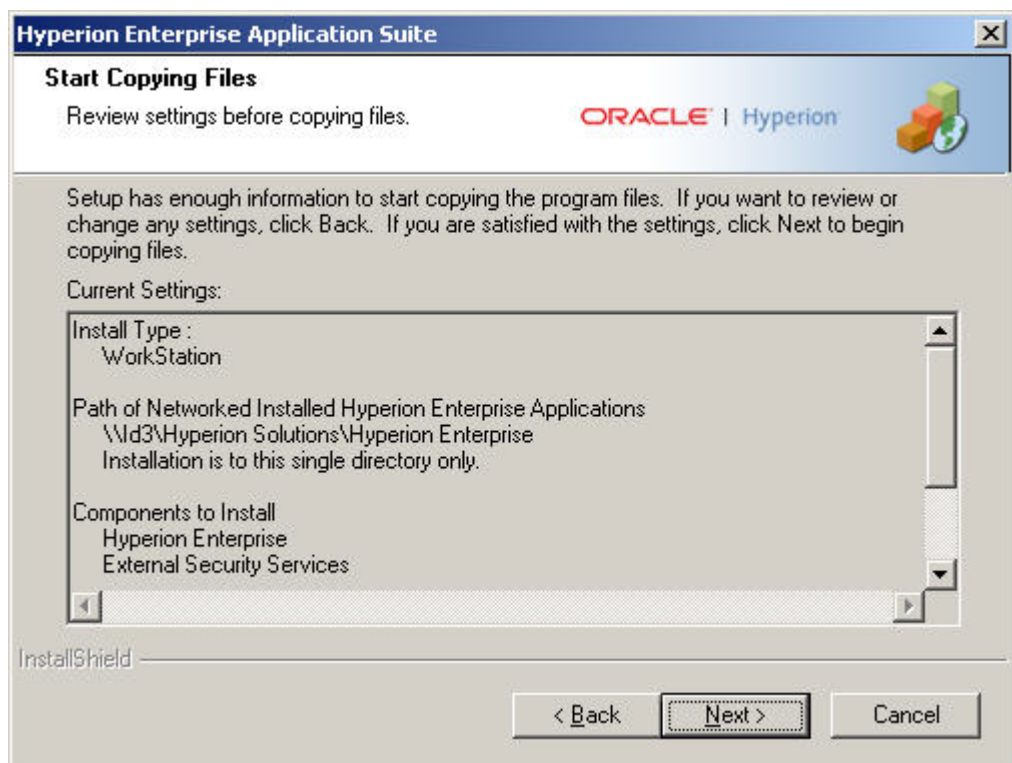
2. **「ドライブ」** ドロップダウンリストで、必要な容量以上の空き容量があるディスクドライブを選択します。
3. **「OK」** をクリックして **「コンポーネントの選択」** ダイアログボックスに戻ります。
4. Hyperion Enterprise をインストールするディレクトリを選択し、**「OK」** をクリックして **「コンポーネントの選択」** ダイアログボックスに戻ります。
「プログラムフォルダの選択」 ダイアログボックスが表示されます。



9 Hyperion Enterprise プログラムアイコンを保存するディレクトリを指定します。

- デフォルトのディレクトリを使用する場合は、**「次へ」** をクリックします。
- デフォルト以外のディレクトリにアイコンを保存するには、**「既存のフォルダ」** リストのディレクトリ名をクリックし、**「次へ」** をクリックします。

ファイルのコピー開始を示すダイアログボックスが表示されます。

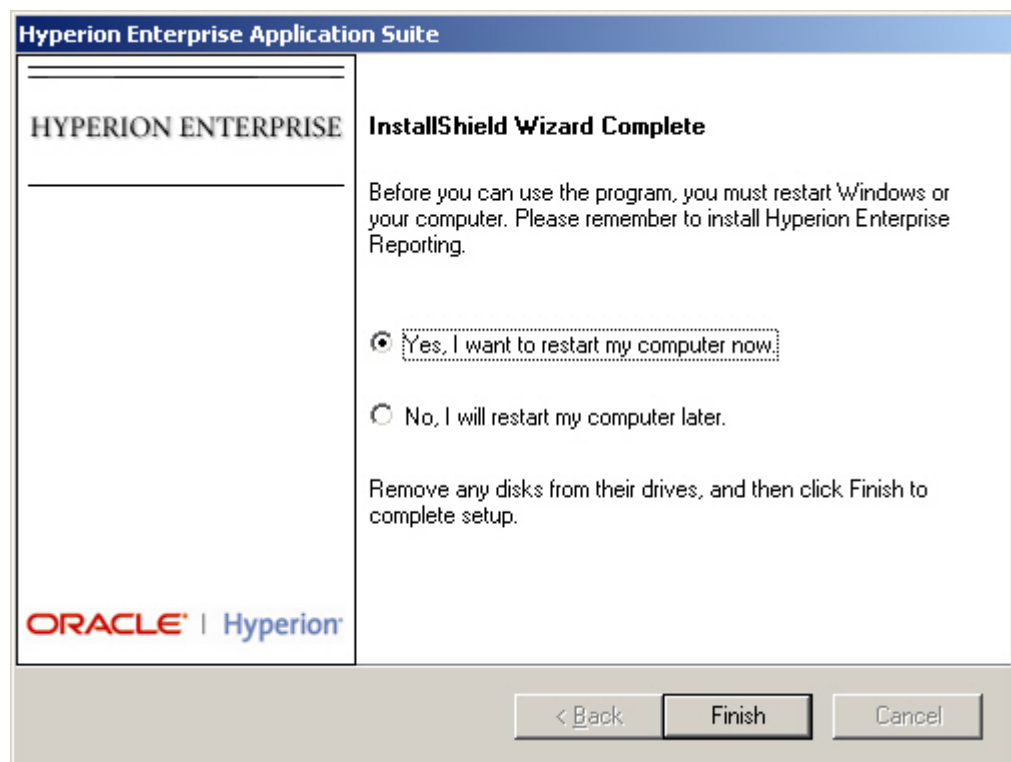


10 インストール時の設定を確認した後、次のいずれかの作業を行います。

- 設定が間違っている場合は、[戻る] をクリックして、その設定を変更するためのダイアログボックスに戻ります。
- 設定が正しい場合は、[次へ] をクリックします。

11 [次へ] をクリックします。

コンピュータを再起動するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。



12 再起動のオプションを選択し、[完了] をクリックします。

アプリケーションサーバコンポーネントの以前のリリースがインストールされたコンピュータでアップグレードのインストールを実行する場合、アップグレードのインストールプログラムにより、アプリケーションサーバコンポーネントはこのリリースに自動的にアップグレードされます。

13 [完了] をクリックします。

外部認証用の Hyperion Enterprise Workstation インストールの設定方法について詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「外部認証の設定」の章を参照してください。

パスの確認

全製品を同じディレクトリにインストールしなかった場合は、Hyperion Enterprise プログラムの実行可能ファイルが含まれているフォルダがパスに含まれている必要があります。ログオンスクリプトを実行する場合は、インストールの過程で選択したメインプログラムのディレクトリでログオンスクリプトを更新する必要があります。ファイルの場所について詳しくは、[20 ページの「コンポーネントとそのディレクトリ」](#)を参照してください。

ドライバカウントの設定

hypent.ini ファイルのドライバカウント HPDRVCNT が HPDRVn 行の数と等しくない場合は、エラーメッセージが表示されることがあります。これを解決するには、hypent.ini ファイルに適切な HPDRVn 行を手動で追加する必要があります。次の例を参照してください。

- Hyperion Enterprise のファイルベースバージョン
HPDRV1=HEFile,HEFileUI,File-based Application

この章の内容

Hyperion Retrieve の設定	61
カスタマイズされたセットアッププログラムの作成	61
カスタマイズされたセットアッププログラムを使用した Hyperion Enterprise のインストール	63
Hyperion Enterprise Web サーバの設定	63
Hyperion Enterprise Web アプリケーションへのアクセスの無効化	65
Hyperion ホームについて	66

Hyperion Retrieve の設定

Hyperion Retrieve は、Microsoft Excel 2003 を併用するときに必要なスプレッドシートアドインです。スプレッドシートを作成する前に、いずれかのアドインを読み込んでおく必要があります。Hyperion Retrieve は、Hyperion Enterprise のインストール時に自動的にインストールされます。

Hyperion Retrieve for Microsoft Excel の設定

Microsoft Excel を使用する場合は、アイコンのコマンド行の入力に応じて、1 つまたは複数のアドインと Microsoft Excel を読み込むアイコンを作成できます。また、[アドイン管理] 機能を使って、Excel を起動するたびに、デフォルトのアドインのセットを読み込むこともできます。Hyperion Retrieve を設定するには、次の作業が必要です。

- Hyperion Retrieve 用の HPPAPP.DAT ファイルの作成
- Hyperion Retrieve の読み込み用アイコンの作成
- Microsoft Excel 用の Hyperion Retrieve アドインの読み込み

Hyperion Retrieve について詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』の「Hyperion Retrieve」の章を参照してください。

カスタマイズされたセットアッププログラムの作成

後続のインストールを行うユーザが特定のコンポーネントをインストールできないように、Hyperion Enterprise のセットアッププログラムをカスタマイズすることができます。

セットアッププログラムをカスタマイズしたら、元のプログラムは保管し、カスタマイズしたバージョンを配布するようにします。

- ▶ Hyperion Enterprise のセットアッププログラムをカスタマイズするには、次の手順に従います。

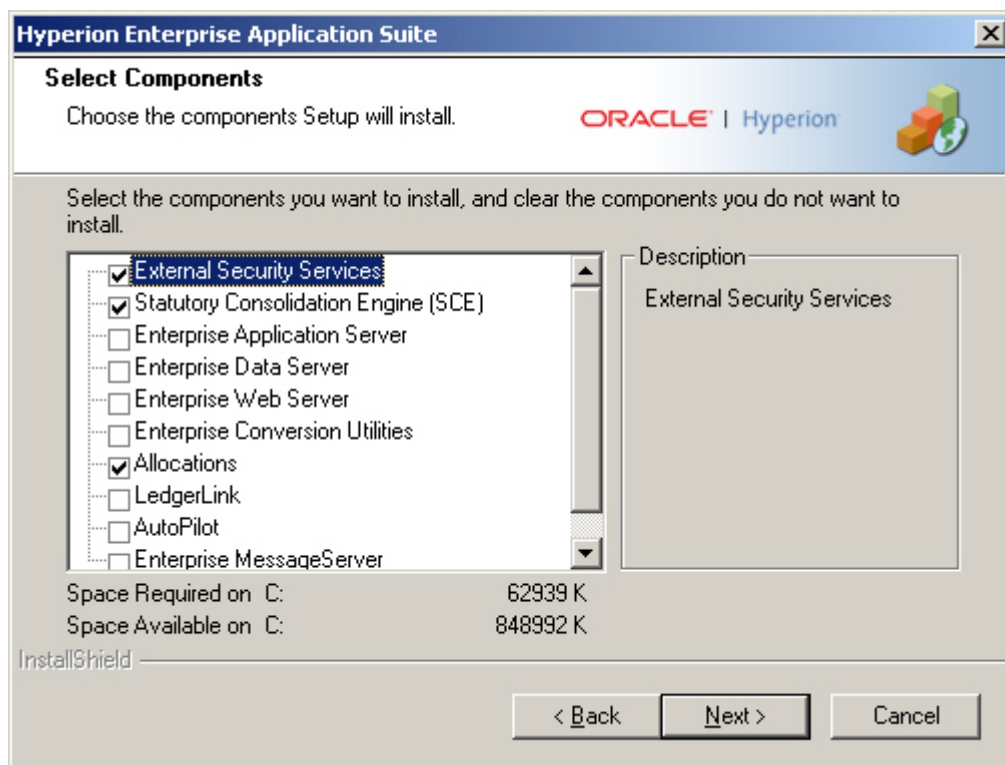
- 1 ネットワークドライブからインストールする場合は、インストールする言語のディレクトリを、ローカルドライブ、同じネットワークドライブの別の場所、または別のネットワークドライブにコピーします。
- 2 ステップ 1 でコピーした言語ディレクトリフォルダから **Setup.exe** ファイルを実行します。

[Hyperion Enterprise のセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。

- 3 [インストールを変更します] を選択してから、[次へ] をクリックします。

[コンポーネントの選択] ダイアログボックスが開きます。

- 4 [インストールの変更] ダイアログボックスで、カスタマイズされたセットアッププログラムに含めるコンポーネントをオンにし、次にセットアッププログラムに含めないコンポーネントのチェックボックスをオフにします。[次へ] をクリックします。



注： [コンポーネントをさらに修正する] オプションを選択すると、カスタマイズされたセットアッププログラムのユーザは、使用可能なコンポーネントの一覧に独自の変更を加えることができます。

- 5 セットアッププログラムを終了するには、[完了] を選択します。

カスタマイズされたセットアッププログラムを使用した Hyperion Enterprise のインストール

カスタマイズされたセットアッププログラムの作成が完了している場合は、[61 ページの「カスタマイズされたセットアッププログラムの作成」](#)を参照してください。カスタマイズされたセットアッププログラムの作成中に選択したコンポーネントを使用して、Hyperion Enterprise をインストールできます。インストールに使用できるのは、カスタマイズされたセットアッププログラムの作成中に選択したコンポーネントだけです。

- ▶ カスタマイズされたセットアッププログラムを使用して Hyperion Enterprise をインストールするには、次の手順に従います。
 - 1 カスタマイズした言語ディレクトリを検索し、**Setup.exe** をクリックします。

インストーラの指示に従って情報を入力し、Hyperion Enterprise をインストールします。
 - 2 セットアッププログラムを終了するには、[完了] を選択します。

Hyperion Enterprise Web サーバの設定

Hyperion Enterprise Web サーバには、次のコンポーネントが含まれます。

- タスクサーバ - Web ベースのアプリケーションに関連する大規模なプロセスをオフロードします。タスクサーバを使用すると、複数のサーバのインストールで、Web を介して送信されるタスクを共有できます。
- セッションマネージャ - 次の Hyperion Enterprise Web アプリケーション情報を追跡します。
 - ログインしているユーザ
 - 実行中のタスク
 - POV とステータス
- Web アプリケーション - Web 用の Hyperion Enterprise アプリケーションを設定または有効にします。

要件

Hyperion Enterprise Web アプリケーションを設定する前に、次の手順に従います。

1. [第2章「インストールの計画」](#)を参照してください。
2. 「インストールの計画」の章で説明されている作業の他に、次の手順に従います。
 1. Hyperion Enterprise は、サーバオペレーティングシステムがインストールされているコンピュータにインストールする必要があります。詳しくは、[第4章「Hyperion Enterprise のインストール」](#)を参照してください。
 2. アプリケーションは Hyperion Enterprise に登録する必要があります。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

3. IIS を設定する必要があります。詳しくは、[付録 A 「Web 環境の手動設定」](#)を参照してください。

Hyperion Enterprise Web アプリケーションの設定

Web ベース環境のユーザが複数の場所から Hyperion Enterprise 内のアプリケーションにアクセスできるよう、Hyperion Enterprise Web アプリケーションを設定します。設定された Hyperion Enterprise アプリケーションへのアクセス権を持つユーザは、Web 上で連結の実行、データ読み込み、および仕訳帳の操作を行うことができます。

- Hyperion Enterprise Web アプリケーションを設定するには、次の手順に従います。

- 1 Web ブラウザウィンドウを開き、次の情報を [アドレス] ボックスに入力します。

http://<Webサーバ>/<仮想ディレクトリ>/Default.aspx (例: http://myserver/HEWeb/default.aspx)

[ログオン] ページが表示されます。

- 2 グローバル選択フレームで、[タスク]、[管理] の順に選択します。

管理モジュールで実行できるタスクがローカル選択フレームに表示されます。

- 3 ローカル選択フレームで、[アプリケーションの設定] を選択します。

Web の [アプリケーションの設定] ページが表示されます。

Application Setup

Application: Demo Web Enabled ☒

User ID:* JohnDoe

Password:*

Session Manager: Localhost

Task Server(s): Localhost

File Upload Location: c:\temp

Hyperion Enterprise Reporting® Web Server: Localhost

Web Application Controller: Localhost

Number of Connections: 12

Select Language: English

*Administrative User ID and Password must be entered for changes to any application settings.

Logon To Enterprise Submit

注： Web 対応にするすべてのアプリケーションに対して次の手順に従い、すべての情報を送信できます。

- 4 [アプリケーション] ドロップダウンリストから、Web 用に設定するアプリケーションを選択し、[Web 使用可能] を選択します。
- 5 [ユーザー名] および [パスワード] のテキストボックスに、Hyperion Enterprise 管理ユーザ名とパスワードを入力します。

- 6 タスクサーバおよびセッションマネージャをインストールするサーバ名を指定する必要があります。
- 7 セッションマネージャおよびタスクサーバのサーバ名または IP アドレスを入力します。
- 8 [ファイルをアップロードする場所] テキストボックスで、データ読み込み用にファイルをアップロードする Web サーバまたはタスクサーバ上のディレクトリを指定します。
- 9 オプション : Hyperion Enterprise Reporting がインストールされている場合は、Hyperion Enterprise Reporting Web サーバのサーバ名または IP アドレスを入力します。
- 10 Web アプリケーションコントローラのサーバ名または IP アドレスを入力します。
- 11 [接続数] ボックスに接続の数を入力します。

Hyperion Enterprise Web アプリケーションでは、デフォルトで 12 の接続をサポートします。
- 12 [言語の選択] ドロップダウンリストから、アプリケーションで使用する言語を選択します。
- 13 [送信] をクリックします。

アプリケーション読み込みのステータスの情報を示す [Web 管理結果] ページが表示されます。
- 14 [Enterprise へのログオン] をクリックします。
- 15 次にログオンする場合は、Web ブラウザで次の URL を入力します。

http://<Webサーバ>/<仮想ディレクトリ>/default.aspx (例 : http://myserver/HEWeb/default.aspx)

Hyperion Enterprise Web アプリケーションへのアクセスの無効化

Hyperion Enterprise Web で次の手順に従い、ユーザが特定の Web アプリケーションにアクセスできないようにします。

- ▶ Web サーバを再起動しないでアクセスを無効にするには、次の手順に従います。
- 1 すべての Web ユーザが Hyperion Enterprise Web アプリケーションからログオフしたことを確認します。

ヒント : すべてのユーザがログオフしたことを確認するには、[アクティブな Web ユーザー一覧] ページに移動します。アプリケーション Web モジュールで、[Hyperion Enterprise タスク]、[アクティブな Web ユーザーを表示] の順に選択します。

- 2 Web ブラウザウィンドウを開き、次の情報を [アドレス] ボックスに入力します。

http://<Webサーバ>/<仮想ディレクトリ>/Default.aspx (例 : http://myserver/HEWeb/default.aspx)

Web の [アプリケーションの設定] ページが表示されます。

- 3 Web の [アプリケーションの設定] ページの [アプリケーション] ドロップダウンリストから、無効にするアプリケーションを選択します。
- 4 [Web 使用可能] オプションの選択を解除します。
- 5 ユーザ名とパスワードを入力します。
- 6 [送信] をクリックします。

Hyperion ホームについて

複数の Hyperion 製品が同じコンピュータにインストールされている場合、製品で使用される共通の内部およびサードパーティ製コンポーネントは Hyperion ホームという単一の場所にインストールされています。Hyperion ホームの場所は、HYPERION_HOME というシステム環境変数で定義されます。

Hyperion Enterprise インストーラから、Hyperion ホームの場所を定義するように指示されます。デフォルトの場所は C:\Hyperion です。インストーラによって、インストール先のコンピュータから HYPERION_HOME 環境変数が検索されます。定義した場所が既に別の Hyperion 製品用に定義されている場合は、その場所が使用され、インストーラから Hyperion ホームの場所を変更することはできません。初めて Hyperion 製品をコンピュータにインストールする際に、Hyperion ホームの場所が指定されていない場合にのみ、インストール時に場所を指定できます。

Hyperion ホームの場所の変更

製品のインストール時に Hyperion ホームを定義した後は、Hyperion ホームの場所を変更するには2つの個別の移行ユーティリティを実行する必要があります。最初のユーティリティでは、Hyperion ホームにインストールしたファイルが新しい場所に移動され、次のユーティリティで古い Hyperion ホームの場所への内部参照がすべて修正されます。どちらのユーティリティも Hyperion Enterprise のインストールに含まれています。

- Hyperion ホームの場所を変更するには、次の手順に従います。

- 1 現在の Hyperion ホームの場所から次のファイルを実行して最初のユーティリティを起動します。

```
Windows : HYPERION_HOME/common/utilities/HyperionHomeTool/1.0.0/bin/  
run.exe
```

移行ユーティリティが起動されます。

- 2 画面に表示される手順に従い、プロンプトが表示されたら、新しい Hyperion ホームの場所を入力するか、[参照] をクリックして目的の場所に移動します。移行ユーティリティでは、Hyperion ホームのディレクトリ全体を新しい場所にコピーし、現在の HYPERION_HOME 環境変数の値を置き換えます。

6

Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 へのアプリケーションの 変換

この章の内容

Hyperion Enterprise SE リリース 4.x との機能の比較	67
Hyperion Enterprise SE の旧リリースと Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 との互換性.....	71
Hyperion Enterprise SE とのシステム要件の比較	76
Hyperion Enterprise 変換ユーティリティ	79
アプリケーションの変換.....	80
変換ユーティリティのインストール.....	81
アプリケーション変換（バージョン 4.7 ～ 6.4 を 6.5.1 に変換）ユーティリティ.....	81
アプリケーション変換（SE から Hyperion Enterprise 6.5.1 に変換）ユーティリティ	87
Hyperion Enterprise SE アプリケーションの Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 への変換	91
変換後の作業と考慮事項.....	96
システム抽出およびロジック変換ユーティリティ	98
ロジックファイルの変換.....	101
連動勘定科目一覧基準のリセット	103
Hyperion Enterprise のデータの視点の設定.....	103

この章では Hyperion Enterprise の旧リリースから Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 への変換に必要なすべての情報を提供します。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 と Hyperion Enterprise SE リリース 4.x の違いを説明するとともに、ソフトウェアの実装に関する要件および考慮事項も説明します。各変換ユーティリティについても詳しく説明します。アプリケーションを Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 に変換する前に、この章をよくお読みください。

Hyperion Enterprise SE リリース 4.x との機能の比較

データをユーロに換算する場合や、記録データを元の入力通貨とユーロで保存する場合に、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 は Hyperion Enterprise SE よりも柔軟に動作します。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 は、より大きなアプリケーションの処理や複数通貨のレポート処理を行うことができ、さらにアプリケーションの変換や追加データの保存をより簡単に行うことができる数多くの他の追加機能を備えています。表 10 に、Hyperion Enterprise SE と Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 の主な違いを示します。

表 10 Hyperion Enterprise SE との機能の比較

モジュール	機能	Hyperion Enterprise SE リリース 4.4	Hyperion Enterprise リリース 6.5.1
勘定科目	勘定科目の最大数	16,000	8,000,000 まで*
勘定科目	勘定科目の説明の最大長	レベルごとに 20	レベルごとに 40
勘定科目	第 2 レベルでサポートされる会社間表	不可	可
勘定科目	サブ勘定科目属性定義のサポート	不可	可
勘定科目	連動デフォルト会社間表の機能	不可	可
勘定科目	第 1 レベルのサブ勘定科目表添付制御のみのサポート	不可	可
勘定科目	下位構造に適用される会社間	不可	可
勘定科目	サブ勘定科目の共有記号のサポート	不可	可
AutoPilot [†]	16 ビットバージョンの提供	可	不可
AutoPilot	32 ビットバージョンの提供	可	可
AutoPilot	[Pause] オプションの提供	不可	可
データ種別	データ種別の最大数	32,000	制限なし
データ種別	月次期別替のサポート	不可	可
連結	データのみを持つエンティティの連結のサポート	不可	可
連結	Statutory Consolidation Engine (SCE) の提供	不可	可
連結	サーバベース連結の実行	不可	可
連結	連結処理のキャンセル	不可	可 [‡]
データベース	派生データの抽出オプションの提供 ^d	可	可
データベース	抽出時における [データなしを非表示] オプションの提供 ^e	可	可
データベース	読み込み時の数学計算のサポート	不可	可

モジュール	機能	Hyperion Enterprise SE リリース 4.4	Hyperion Enterprise リリース 6.5.1
データベース	抽出 DSM 情報のサポート	不可	可
データベース	サーバベース処理を使用したデータ保護のためのオプション	不可	可
データベース	抽出時の数学計算のサポート	不可	可
会社間処理	ユーザ定義の会社間ロジックのサポート	不可	可
会社間処理	カスタマイズされた会社間照合レポートの提供	不可	可
仕訳帳	将来の期間に対する転記動作の制御のサポート	不可	可
仕訳帳	レポート選択の基準の提供	不可	可
仕訳帳	自動番号付けオプションの提供（設定時にはこのオプションの選択が必要）	不可	可 ^f
仕訳帳	YTD データ種別への期別の転記	不可	可
仕訳帳	仕訳帳のサーバベースの抽出と読み込みの実行	不可	可
仕訳帳	Hyperion Retrieve での仕訳帳詳細へのアクセス	不可	可
仕訳帳	親レベルの調整のサポート（設定時にはこのオプションの選択が必要）	不可	可
仕訳帳	転記前のエンティティへのバランス処理	不可	可
ロジック	表示と期間単位に基づく連動表示勘定科目の再計算	不可	可
ロジック	追加のロジック関数	N/A	可
ロジック	ロジックごとのコンパイルされたロジック識別子	不可	可
ロジック	グラフィカルロジックのサポート	不可	可
組織単位／エンティティ	組織の最大数	制限なし	制限なし
組織単位／エンティティ	組織単位／エンティティの最大数	16,000	制限なし ^g
組織単位／エンティティ	親当たりの子の最大数	制限なし	8,000,000 まで

モジュール	機能	Hyperion Enterprise SE リリース 4.4	Hyperion Enterprise リリース 6.5.1
組織単位／エンティティ	エンティティラベルの最大長	レベルごとに 8 文字	レベルごとに 20
組織単位／エンティティ	エンティティの説明の最大長	レベルごとに 8 文字	レベルごとに 40
組織単位／エンティティ	期間およびデータ種別ごとの組織の定義	不可	可
組織単位／エンティティ	期間ごとの換算ロジックの割り当て	不可	可
組織単位／エンティティ	期間ごとの連結ロジックの割り当て	不可	可
組織単位／エンティティ	出資比率、支配比率、および連結比率の追跡	不可	可
組織単位／エンティティ	エンティティ間の共有情報の記憶領域	不可	可
組織単位／エンティティ	ユーザ定義の会社間消去のサポート	不可	可
組織単位／エンティティ	期間ごとのエンティティコードのサポート	不可	可
組織単位／エンティティ	通常または段階的な親子関係の計算のサポート	不可	可
その他	デスクトップ	可	不可 ^h
その他	Oracle データベースストレージのサポート	不可	可
その他	サーバベース処理のサポート	不可	可
データ入力表	データ入力表の検証ロジック (32 ビットサポートのみ)	可	可
セキュリティ	エンティティに割り当て可能な権限	修正、表示、なし	修正、表示、なし、制限
セキュリティ	データ種別に割り当て可能な権限	修正、表示、なし	修正、表示、なし、制限
セキュリティ	勘定科目およびサブ勘定科目に割り当て可能な権限	N/A	修正、表示、なし、制限
セキュリティ	メニューオプションおよびモジュールごとに割り当て可能なセキュリティ	不可	可
セキュリティ	ユーザグループごとに割り当て可能なセキュリティ	不可	可

モジュール	機能	Hyperion Enterprise SE リリース 4.4	Hyperion Enterprise リリース 6.5.1
セキュリティ	要素ごとに割り当て可能なセキュリティ	可	可
セキュリティ	アプリケーションにログインしているユーザの表示	可	可
セキュリティ	セキュリティ定義の抽出と読み込み	不可	可
セキュリティ	ユーザ名とパスワード情報の抽出と再読み込み	不可	可
セキュリティ	アプリケーションからのユーザのロックアウト	可	可

*勘定科目の数は、7,800,000 を超えないようにすることをお勧めします。8,000,000 までの勘定科目を持つことが可能ですが、クライアントには大量の RAM とディスク容量などの十分なリソースが必要です。また、そのように大規模なアプリケーションのパフォーマンスを正確に予測することはできません。

† Hyperion AutoPilot for Hyperion Enterprise SE リリース 4.3 と Hyperion AutoPilot for Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 は別の製品です。

‡ 連結は、最後の連結ノードで終了します。

§ フロー勘定科目が作成される場合、Hyperion Enterprise SE は将来の期間のためにデータを派生します。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 では、その派生データをデータ抽出に含めることができます。

¶ データのない勘定科目の非表示と実際のゼロを持つ勘定科目の非表示に対して、個別の制御を提供します。これによって、保存されるデータのサイズが減り、より効率的な連結が可能となります。これは、オプションの設定です。

⌘ 番号は期間ごとにリセットできます。

Ⓜ 例えば複数の層が 1 つの親に割り当てられているなど、非常に深アプリケーションの場合、140,000 エンティティを超えると性能が悪くなる可能性があります。平均的なアプリケーションでは、10,000 ~ 20,000 エンティティの間です。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 ではエンティティ管理のパフォーマンスが大幅に向上し、より多くのエンティティのサポートが可能になりました。

Ⓝ カスタム関数は CTS から使用可能です。

Hyperion Enterprise SE の旧リリースと Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 との互換性

Hyperion Enterprise SE と Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 で異なる主要機能が 7 つあります。

- 下位構造の使用時における会社間消去の実行方法
- 計算式の記述時にシステムが勘定科目を同等視する方法
- システムによる計算式の計算方法
- 会社間トランザクションの入力方法
- 取得日と売却日の追跡方法
- ユニバーサル命名規則
- システム読み込みの動作

下位構造の使用時における消去の実行

Hyperion Enterprise SE では、システムは会社間エンティティに割り当てられた各サブエンティティに対して、会社間サブ勘定科目を作成します。会社間エンティ

ティの値が組織を介して連結されている間に、システムはこのデータを下位構造より上のレベルで消去します。

Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 では、システムは会社間エンティティに割り当てられたサブエンティティに対して、会社間サブ勘定科目を作成しません。その理由は、会社間サブ勘定科目が第 2 レベルのサブ勘定科目とされており、追加レベルにはシステムが 3 レベルのサブ勘定科目を処理することが必要なためです。

システムは、サブエンティティ詳細ごとではなく、会社間エンティティ全体として会社間消去を実行します。

Hyperion Enterprise SE の旧リリースからの会社間サブエンティティの勘定科目を使用するアプリケーションを変換する場合、これらの会社間サブ勘定科目はサブエンティティには作成されません。すべての会社間データは、会社間エンティティのサブ勘定科目レベルのみで保持されます。従って、会社間サブ組織単位を持つアプリケーションを変換する前に、オリジナルのアプリケーションで次の作業を完了する必要があります。

1. 各会社間サブ組織単位に会社間組織単位を作成します。
2. 元の会社間サブ勘定科目からデータを抽出します。
3. 作成した新しい会社間サブ勘定科目にデータを読み込みます。
4. 会社間サブ組織単位を除去します。

注： 変換処理を行うためにオリジナルのアプリケーションで設定を変更する前に、アプリケーションとそのデータをバックアップする必要があります。

主要勘定科目の同等視によるサブ勘定科目への計算式の割り当て

Hyperion Enterprise SE では、第 2 主要勘定科目と第 1 主要勘定科目を同等視することによって、サブ勘定科目のあるセットに作成された計算式をサブ勘定科目の別のセットに割り当てることができます。例えば、ACCOUNT1 のサブ勘定科目に計算式を定義し、それを ACCOUNT2 サブ勘定科目にも使用する場合は、次の計算式が使用できます。

#ACCOUNT2=#ACCOUNT1

Hyperion Enterprise SE を使用して作成されたアプリケーションでは、主要勘定科目に割り当てられたサブ勘定科目表が異なる場合でも、上記のように実行することができます。この作業を正しく行うには、これらのサブ勘定科目の記号順は変更できません。ただし、勘定科目を追加または削除すると、勘定科目表の記号順が変更され、予測できない不正な結果が生成される可能性があります。

Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 では、同じ ID を持つサブ勘定科目に一意な記号を使用するようアプリケーションを定義できます。一意なサブ勘定科目記号を使用する場合、主要勘定科目の同等視による計算式の割り当ては動作しません。主要勘定科目を同等視する場合、システムは計算式のチェック時に警告を表示し、配賦先サブ勘定科目に計算式を作成しません。ただし、サブ勘定科目の共有記号を使用する場合、システムは配賦元サブ勘定科目と同じ ID を持つ配賦先サブ勘定

科目に計算式を作成します。これは、2つの主要勘定科目に割り当てられたサブ勘定科目表のIDが異なる場合でも作成されます。

Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 アプリケーションで一意的記号を使用するときは、作成するサブ勘定科目それぞれに対して計算式を記述する必要があります。

計算式の実行

Hyperion Enterprise SE では、データ種別のデータ表示形式に関係なく、入力ロジックに定義される全範囲集計関数（TOT、DTO、DSU、SUB など）が、すべての勘定科目のデータ種別累計値を使用して実行されます。これら以外のすべての関数は、データ種別のデフォルトのデータ表示形式に応じて実行されます。

Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 では、入力ロジックに定義されるすべての計算式がデータ種別のデータ表示形式に従って実行されます。アプリケーションに期別データ種別が含まれている場合、旧リリースとは異なる結果が生成される可能性があります。入力ロジック計算式が、データ種別のデータ表示定義を使用してより一貫して計算されるように、動作が変更されました。

会社間トランザクションの入力

Hyperion Enterprise SE では、システムは会社間エンティティ自身の会社間サブ勘定科目への入力を許可しません。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 では、会社間エンティティ自身の会社間サブ勘定科目にデータを入力することができます。システムは、他の会社間残高であるかのように、この残高を消去します。

取得日と売却日の追跡

Hyperion Enterprise SE では、組織において組織単位の取得および売却に日付を指定できます。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 では、[データ種別と期間ごとの組織] アプリケーション設定を選択して、組織での変更を追跡できます。オリジナルアプリケーションの組織単位が組織構造において取得日と売却日を使用している場合は、アプリケーションを変換して取得日と売却日に応じた期間固有の組織を作成する際に、[データ種別と期間ごとの組織] アプリケーション設定を選択する必要があります。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

注意 アプリケーションの変換時に [データ種別と期間ごとの組織] 設定を選択しないと、すべての取得日および売却日の情報が失われます。

ユニバーサル命名規則

Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 はユニバーサル命名規則（UNC）の書式で内部的にファイル名を保存するため、ユーザは独自のドライブマッピング選択できます。UNC パスのサポートによって、アプリケーションはネットワーク環境においてシームレスに動作することができます。UNC のパスでは、ネットワークドライブを表す文字を参照せずにネットワークデバイスへの論理接続が可能です。シス

テムは、モデム接続であっても、UNC 名によってネットワークサーバとパスを探すことができます。UNC は、ネットワークサーバとそれらのサーバの共有点を記述します。

UNC に基づいて付けられた名前は 2 つの円記号 (\\) で始まり、その後にサーバ名が続きます。名前にある他のすべてのフィールドは、1 つの円記号で区切ります。例えば、\\USER1\\C:\\filename.dat は、USER1 コンピュータ上の C ドライブにある filename.dat ファイルを示します。

UNC は、Hyperion Enterprise の [アプリケーションの追加] ダイアログボックスや、[アプリケーションの読込] と [アプリケーションの抽出]、[仕訳帳の読込] と [仕訳帳の抽出]、[計算式の読込] と [計算式の抽出]、[セキュリティの読込] と [セキュリティの抽出]、[株式の読込] と [株式の抽出]、および [データの読込] と [データの抽出] などの読み込みと抽出ダイアログボックスで使用されます。

ファイルの場所は、UNC 書式またはマップされたドライブ表記のいずれかで入力できます。システムは、マップされたドライブ表記を UNC 書式に変換します。ただし、他のワークステーションをアクセスするローカルコンピュータ上にアプリケーションを作成する場合は、新しいアプリケーションのパスとしてドライブマップパスを使用するのではなく、UNC パスを入力するか、共有ディレクトリを指定する必要があります。

システム読み込みファイルの動作

Hyperion Enterprise SE と Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 におけるデータとメタデータの読み込み方法の違いに注意する必要があります。違いは表 11 と表 12 を比較することで確認できます。

表 11 に、Hyperion Enterprise SE における各表のシステム読み込みファイルの動作を示します。

表 11 Hyperion Enterprise SE のシステム読み込み動作

セクション	動作
[ACCTLIST]	一覧の追加、固定一覧の行項目の追加
[ACONV]	表の追加、行項目の上書き
[BOOK]	上書き
[CATEGORY]	上書き
[CURRENCY]	上書き
[FORMAT]	上書き
[GROUP]	グループの追加、グループの勘定科目の上書き
[INTCACCT]	上書き
[LOGIC]	追加
[NAME]	上書き

セクション	動作
[NAMELIST]	一覧の追加、固定一覧の行項目の追加
[NCONV]	表の追加、行項目の上書き
[ORGANIZATION]	追加
[OWNERSHIP]	上書き
[ROLLOVER]	上書き
[SCHEDULE]	上書き
[SET]	セットの追加、行項目（レポート）の上書き
[SUBACCT]	表の追加、行項目の上書き
[SUBNAME]	上書き
[SUBOWN]	上書き
[SUBSTRUCTURE]	追加

表 12 に、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 における各表のシステム読み込みファイルの動作を示します。

表 12 Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 のシステム読み込み動作

セクション	動作
[ACCTLIST]	一覧の追加、固定一覧の行項目の追加
[ACONV]	表の追加、行項目の上書き
[APPLICATION]	上書き
[BOOKSET]	セットの追加、行項目（パッケージ）の上書き
[CATEGORY]	上書き
[CODES]	上書き
[CONSOLASSIGN]	上書き
[CURRENCY]	上書き
[ECONV]	表の追加、行項目の上書き
[ENTITY]	上書き
[ENTITYCODE]	上書き
[ENTITYLIST]	一覧の追加、固定一覧の行項目の追加
[FORMAT]	上書き
[FORMULAS]	上書き

セクション	動作
[GROUP]	グループの追加、グループの勘定科目の上書き
[ICDEPEND]	上書き
[INTCACCT]	表の追加、行項目の上書き
[ORGANIZATION]	上書き
[OWNERSHIP]	上書き
[REPORTSET]	セットの追加、行項目（レポート）の上書き
[ROLLSET]	表の追加、行項目の上書き
[SCHEDULE]	上書き
[SUBACCT]	上書き
[SUBENTITY]	上書き
[SUBOWN]	上書き
[SUBSTRUCTURE]	上書き
[SUBTABLE]	追加

Hyperion Enterprise SE とのシステム要件の比較

Hyperion Enterprise SE と Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 のシステム要件は、非常に異なっています。

Hyperion Enterprise SE アーキテクチャ

Hyperion Enterprise SE は、専用のファイルベースのデータ書式を持つ 16 ビットおよび 32 ビットアーキテクチャで使用できます。すべてのアドオンは、Hyperion Enterprise SE リリース 4.4 の 32 ビットバージョンで使用可能です。

Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 のアーキテクチャ

Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 は 32 ビットアーキテクチャで使用でき、次のオプションがあります。

- Hyperion Enterprise Release 6.5.1（基本ソフト） - 32 ビットアーキテクチャ、専用のファイルベースのデータ書式、アプリケーションサーバ、データサーバ、メッセージサーバおよび Web サーバありまたはなし
- Hyperion Enterprise Release 6.5.1 アプリケーションサーバ - 一定の処理をアプリケーションサーバで実行するための設定オプション
- Hyperion Enterprise Release 6.5.1 データサーバ - アプリケーションの性能を向上させる設定オプション

- Hyperion Enterprise Web サーバ - ファイルベースのアプリケーションを Web 対応にする設定オプション
- Hyperion Enterprise メッセージサーバ - Hyperion Enterprise アプリケーションのユーザにメッセージを送信できる設定オプション

表 13 に、Hyperion Enterprise SE と Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 のシステム要件を示します。

表 13 要件

	Hyperion Enterprise SE	Hyperion Enterprise リリース 6.5.1
クライアントワークステーション		
プロセッサ	<ul style="list-style-type: none"> ● 最低 - 486 33 MHz ● 推奨 - 486 66 MHz 以上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 最低 - Pentium 133 ● 推奨 - Pentium 200 以上
メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ● 最低 - 16 MB ● 推奨 - 32 MB 	<ul style="list-style-type: none"> ● 最低 - 256 MB ● 推奨 - 512 MB 以上、特にシステム管理用の場合
ディスク容量	<ul style="list-style-type: none"> ● システムファイルとアプリケーションデータがファイルサーバに置かれている場合は 1 MB を推奨 ● システムおよびデータファイルがローカルに置かれている場合は 15 ~ 35 MB とアプリケーションデータに必要な容量 	<ul style="list-style-type: none"> ● システムファイルとアプリケーションデータがファイルサーバに置かれている場合は 10 MB を推奨 ● システムおよびデータファイルがローカルに置かれている場合は 75 MB とアプリケーションデータに必要な容量
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ● Windows 3.1x ● Windows 95 	<ul style="list-style-type: none"> ● Windows 2003 Server (Service Pack 2) ● Windows XP Professional (Service Pack 2) ● Windows 2008 Server ● Windows Vista
モニタおよび他の周辺装置	<ul style="list-style-type: none"> ● 最低 - VGA ● 推奨 - SVGA 600 x 800 	<ul style="list-style-type: none"> ● 最低 - SVGA 1024 x 768 解像度
ネットワーク転送プロトコル	使用しているネットワークファイルサーバをサポートする任意のプロトコル	<ul style="list-style-type: none"> ● Hyperion Enterprise Release 6.5.1 (基本ソフト) - ネットワークファイルサーバをサポートする任意のプロトコル。単一のプロトコルを使用することをお勧めします。 ● Hyperion Enterprise Release 6.5.1 Server - TCP/IP
データベース接続	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> ● Hyperion Enterprise Release 6.5.1 (基本ソフト) - 該当なし
ファイルサーバ		
専用	必要なし	必要なし

	Hyperion Enterprise SE	Hyperion Enterprise リリース 6.5.1
プロセッサ	クライアントワークステーションにファイルサービスサポートを提供するプロセッサ	Pentium II - IV (500 MHz 以上)
オペレーティングシステム	クライアントワークステーションにファイルサービスサポートを提供するネットワークオペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ● Windows 2003 Server (Service Pack 2) ● Windows 2008 Server ● Novell Netware 4.12 および 5.x 以降 ● クライアントワークステーションへのファイルサービスをサポートする必要がある。
ネットワーク通信ソフトウェア		<ul style="list-style-type: none"> ● Windows 2003 Terminal Server ● Windows 2008 Server または Advanced Server (Service Pack 4) ● Windows 2008 Terminal Server ● Novell Netware 4.12 または 5.x 以降
メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ● 最低 - 32 MB ● 推奨 - 64 MB 	<ul style="list-style-type: none"> ● 最低 - 256 MB ● 推奨 - 512 MB
ディスク容量	<ul style="list-style-type: none"> ● 標準的な容量 - システムファイルを含め、アプリケーションのサイズによって 100 ~ 500 MB ● システムファイル - インストールされるアドインモジュールによって 15 ~ 35 MB 	<ul style="list-style-type: none"> ● 最低 - 100 MB ● 推奨 - システムファイルを含め、アプリケーションのサイズによって 100 ~ 500 MB ● システムファイル - すべてのアドオンモジュールを含め、75 MB
データベース		
サポートされるデータベース	専用	<ul style="list-style-type: none"> ● Base - 専用
プロセッサ	クライアントワークステーションにファイルサービスサポートを提供するプロセッサ	<ul style="list-style-type: none"> ● Base - ファイルサーバと同じプロセッサ
オペレーティングシステム	クライアントワークステーションにファイルサービスサポートを提供するネットワークオペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ● Base - ファイルサーバと同じオペレーティングシステム
メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ● 最低 32 MB ● 64 MB 推奨 	<ul style="list-style-type: none"> ● Base - ファイルサーバと同じメモリ
ディスク容量	<ul style="list-style-type: none"> ● 標準的な容量 - システムファイルを含め、アプリケーションのサイズによって 100 ~ 500 MB ● システムファイル - インストールされるアドインモジュールによって 15 ~ 35 MB 	<ul style="list-style-type: none"> ● 最低 100 MB ● 標準的な容量 - システムファイルを含め、アプリケーションのサイズによって 100 ~ 1000 MB ファイルサーバのメーカーによって設定されているガイドラインを参照。

	Hyperion Enterprise SE	Hyperion Enterprise リリース 6.5.1
		<ul style="list-style-type: none"> ● システムファイル - すべてのアドインモジュールを含め、75 MB
ネットワーク転送プロトコル	ネットワークファイルサーバをサポートするためのプロトコルが必要	<ul style="list-style-type: none"> ● Base - ネットワークファイルサーバをサポートするためのプロトコルが必要
データベースベンダのコネクティビティソフトウェア	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本ソフト - 該当なし
パフォーマンスの調整の要件	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本ソフト - 該当なし
アプリケーションサーバ	該当なし	オプション (XA Server)
プロセッサ	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> ● 最低 Pentium プロセッサ ● 200 MHz を推奨
オペレーティングシステム	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> ● TCP/IP
メモリ	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> ● 128 MB 以上 ● 256 MB 以上を推奨
ディスク容量	該当なし	最低 500 MB*

*より多くのディスク容量を推奨。最適なパフォーマンスを得るには、アプリケーションを複数のドライブとディスクコントロールに配置することをお勧めします。

Hyperion Enterprise 変換ユーティリティ

Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 には、旧リリースで作成したアプリケーションを Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 で使用するためのアプリケーション変換ユーティリティが含まれています。次の変換ユーティリティがあります。

- アプリケーション変換 (SE からバージョン 6.5.1 に変換) ユーティリティ。
Hyperion Enterprise SE で作成されたアプリケーションを Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 に変換します。
- アプリケーション変換 (バージョン 4.7 から 6.4 を 6.5.1 に変換) ユーティリティ。
Hyperion Enterprise XA 4.7 から 6.2.2 で作成されたアプリケーションを Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 に変換します。
- システム抽出変換 (SE からバージョン 6.5.1 に変換) ユーティリティ。
Hyperion Enterprise SE のシステム抽出を変換して、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 で使用できるようにします。
- ロジック変換 (SE からバージョン 6.5.1 に変換) ユーティリティ。
Hyperion Enterprise SE のロジックファイルを変換して、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 で使用できるようにします。

注： Hyperion Enterprise 4.6x アプリケーションを再構築するか、4.6x アプリケーションを Hyperion Enterprise XA 4.7、5.0、5.1、5.5、6.0、6.1.1、6.2.2

アプリケーションに変換してから、それらのアプリケーションを Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 に変換する必要があります。

アプリケーションの変換

注： アプリケーションを変換するには、まずそのアプリケーションを hypent.ini ファイルに追加する必要があります。追加しないと、変換ユーティリティでこのアプリケーションを参照できません。

アプリケーション変換（バージョン 4.7 ～ 6.4 を 6.5.1 に変換）ユーティリティ

このユーティリティは、Hyperion Enterprise リリース 4.7 ～ 6.4 で作成されたアプリケーションを Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 に変換する場合にのみ使用します。

アプリケーション変換（SE からリリース 6.5.1 に変換）ユーティリティ

使用する変換ツールは、変換後に実行する処理に応じて決定します。例えば、アプリケーションの変換のみを行い、新しい Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 の機能を使用するためにアプリケーションを再編成しない場合は、1 つの変換ツールを使用します。新しい Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 の機能の一部またはすべてを使用する場合は、異なる変換ツール、および古いアプリケーションの全体または一部の再設計が必要になります。Hyperion Enterprise SE アプリケーションの完全な複製を作成し、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 で使用する目的で財務データを変換する場合は、アプリケーション変換（SE からバージョン 6.5.1 に変換）ユーティリティを使用します。

この変換ユーティリティは、Hyperion Enterprise SE でのアプリケーションと同じ構造で新しいアプリケーションを作成するので、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 の多くの新機能を使用することはできません。

例えば、Hyperion Enterprise SE での出資比率表の値は、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 での連結比率表の値と同じ役割を持ちます。したがって、Hyperion Enterprise SE の出資比率表からのデータは、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 の連結比率表にコピーされます。連結ロジックや比率を決定する Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 の他の表（出資比率表と支配比率表）には、この変換ユーティリティの使用時にデフォルト値の 100 パーセントが挿入されます。物理的および機能的に Hyperion Enterprise SE アプリケーションを複製して、新しい機能を使用しない場合は、この変換ユーティリティを使用します。

この変換ユーティリティを使用すると、Hyperion Enterprise SE の [出資比率] フィールドの値は、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 の [支配比率]、[出資比率]、および [連結比率] フィールドに移動します。この値は、Hyperion Enterprise

リリース 6.5.1 アプリケーションでの出資比率と連結比率の関係により、すべてのフィールドにコピーされます。

Hyperion Enterprise SE システム抽出およびロジック変換ユーティリティ

アプリケーションを再設計して、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 の新しい機能を利用するためには、システム抽出およびロジック変換ユーティリティを使用します。システム抽出およびロジック変換ユーティリティは、新しいアプリケーションに読み込めるファイルのセットを作成します。新しいファイルを読み込む前に、新しいアプリケーションを作成しておく必要があります。

注： Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 アプリケーションを作成するためにこれらのユーティリティを使用する場合は、アプリケーションの属性を設定する必要があります。この情報は、Hyperion Enterprise SE アプリケーションからは継承されません。

変換ユーティリティのインストール

変換ユーティリティは、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 のインストール時にデフォルトではインストールされません。インストール処理時に変換ユーティリティを選択する必要があります。

- ▶ 変換ユーティリティをインストールするには、次の手順に従います。
- 1 27 ページの「完全インストールの実行」のステップ 1 ～ 8 を実行します。
- 2 [コンポーネントの選択] ダイアログボックスで、[Enterprise 変換ユーティリティ] オプションを、インストールする他のコンポーネントとともに選択します。
- 3 ステップ 8 ～ 11 を実行し、インストール手順を完了します。

アプリケーション変換（バージョン 4.7 ～ 6.4 を 6.5.1 に変換）ユーティリティ

アプリケーション変換（リリース 4.7 ～ 6.4 を 6.5.1 に変換）ユーティリティは、Hyperion Enterprise 4.7 ～ 6.4 のファイルベースのアプリケーションを 6.5.1 に変換するために使用します。

また、この変換ユーティリティを使用して、Statutory Consolidation Engine (SCE) リリース 4.7 ～ 6.4 のアプリケーションをリリース 6.5.1 に変換することもできます。Hyperion Enterprise 変換ユーティリティは SCE のコンパイルを再実行しません。SCE 管理を開き、デフォルトの CONSOL および TRANS ロジックをコンパイルする必要があります。

注： SCE アプリケーションを変換した後、SCE ロジックの古いファイル名は SCE 管理モジュールと Hyperion Enterprise [計算式] モジュールに保存されます。

SCE 管理モジュールまたは Hyperion Enterprise [計算式] モジュールを使用して、古いファイル名をコンパイルできます。

以下の要件を満たしていることが特に重要です。

- Hyperion Enterprise XA リリース 4.7 からアプリケーションを変換する場合は、メモリとディスク容量が十分にあることを確認してください。変換するアプリケーションのバックアップ、ファイルの抽出、および新しいアプリケーションのために十分な容量が必要です。最低でも、既存アプリケーションのディスク容量の 1.5 倍を用意することをお勧めします。
- ACE という名前のディレクトリに SCE ロジックが保存されている場合は、SCE アプリケーションを変換する前に、このディレクトリの名前を SCE に変更する必要があります。

アプリケーションを変換すると、元のアプリケーションファイルはそのまま残り、変換済みのアプリケーションファイルが新たに作成されます。古いアプリケーションファイルは、管理者の判断で削除できます。元のアプリケーションは、削除する前にアーカイブすることをお勧めします。

変換ユーティリティは、アプリケーションの `error.log` ファイルにエラーメッセージを書き込みます。エラーログを参照すると、変換中に検出したエラーの詳細を確認できます。変換中にエラーメッセージを受け取っても、それが常に変換の失敗を意味するとは限りません。アプリケーションのある要素がエラーメッセージを生成したとしても、アプリケーション全体での変換は失敗していない可能性があります。例えば、削除されたメンバーが固定勘定科目一覧とエンティティ一覧の変換を妨げることがあります。この例では、ログファイルで各エラーメッセージを調べた後、アプリケーションを編集して再度変換を実行できます。

変換が失敗した場合は、再度変換を実行する必要があります。再度変換を実行する前に、部分的に変換されたアプリケーションを削除します。サブ勘定科目表に割り当てられた会社間勘定科目を含むアプリケーションは変換されず、特定のエラーメッセージがエラーログに表示されます。

変換ユーティリティは、Hyperion Enterprise XA 4.7 アプリケーションから数種類の抽出ファイルを作成します。表 14 に、変換されたアプリケーションディレクトリに作成される各抽出ファイルを説明します。

表 14 変換されたアプリケーションディレクトリに作成される抽出ファイル

ファイルの拡張子	ファイルの説明
.sce	SCE 抽出。アプリケーションが SCE を使用している場合にのみ作成されます。
.all	配賦抽出。アプリケーションに配賦ファイルが含まれている場合にのみ作成されます。
.app	アプリケーション抽出。常に作成されます。
.bar	パッケージおよびレポート抽出。アプリケーションにパッケージまたはレポートが含まれている場合にのみ作成されます。
.cda	データ抽出。常に作成されます。 注： アプリケーションの各データ種別に 1 つの .cda ファイルが作成されます。

ファイル の拡張子	ファイルの説明
.ilk	LedgerLink 抽出。常に作成されます。

Hyperion Enterprise XA からの変換の考慮事項

Hyperion EnterpriseXA からの変換を決定するときには、次の項目を考慮してください。

- アプリケーションを Hyperion Enterprise XA リリース 4.5 から Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 に変換できるユーティリティはありません。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 を使用して、アプリケーションを完全に再構築する必要があります。

注： Hyperion Enterprise リリース 4.6x アプリケーションを再構築するか、4.6x アプリケーションを Hyperion Enterprise XA 4.7、5.x、または 6.x アプリケーションに変換してから、それらのアプリケーションを Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 に変換する必要があります。

- Hyperion Enterprise XA リリース 4.7 から Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 に変換する場合は、次の事項を考慮してください。
 - セキュリティ、ロジック、およびルールは、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 で大幅に変更されました。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』と [101 ページの「ロジックファイルの変換」](#) を参照してください。
 - アプリケーションが [期間ごとの組織] および [会社間の子] 機能を使用している場合は、[親子関係] 表の値に [会社間の子] 表と同じ値が含まれているかどうかを適切な時期に確認します。旧リリースでは、[親子関係] 表と [会社間の子] 表で存在する必要のあった [支配比率]、[連結比率]、[出資比率]、および [ロジック] の同期化は、常に正確であるとは限りませんでした。例えば、ASCII 読み込みファイルから [会社間の子] セクションを読み込み、それと同時に [親子関係] セクションを読み込まないと、同期化されない可能性があります。ユーザインターフェースを介して直接変更を行った場合にのみ、完全に信頼性がありました。これに関しては今後は問題とはなりませんが、表が同期されていることを確認するために、次の作業を完了する必要があります。表の同期がとれているかどうか不明な場合は、[親子関係] 表と [会社間の子] 表を抽出してその値を比較し、それらが一致していることを確認します。
 - システムに他のユーザが存在しないときに、管理者が次の作業を実行することをお勧めします。
 - [エンティティの親子関係] セクションを抽出します。
 - 抽出ファイルで、[連結比率]、[出資比率]、または [支配比率] フィールドの値!-1.#R!または負の値を検索します。これらの値が見つかったら、適切な値を入力して値を修正します。
 - [エンティティの親子関係] セクションを再読み込みします。
 - [会社間の子] セクションを抽出します。
 - [会社間の子] セクションを再読み込みします。

- エラーログをチェックします。アプリケーションが不正な値を検出すると、正常な読み込みを完了する前に修正する必要のある抽出ファイルまたは読み込みファイルの行番号が表示されます。適切な値を入力するか、値が不要な場合は空白にします。

例

修正前：

```
1!12!CORP      !DIV1      !      !-1.#R!-1.#R!-1.#R
```

修正後：

```
1!12!CORP      !DIV1      !      !50!50!50
```

または

```
1!12!CORP      !DIV1      !      !!!
```

- Hyperion Enterprise XA リリース 4.7 から 6.4 アプリケーションの変換には、hypent.ini ファイル内にそのエントリが必要です。変換ユーティリティは、このアプリケーションの情報を読み込み、変換できる XA リリース 4.7 アプリケーションの名前を表示します。
- アプリケーション内の連結ステータスや保護期間などのステータスや設定は、変換時には保持されます。変換の前に、すべてのアプリケーションのステータスを [OK] にしておくことをお勧めします。
- SCE を使用した期間ごとの組織アプリケーションでは、できるだけすべてのステータスが [OK] の場合にのみ変換することを強くお勧めします。[OK] 以外のステータスでアプリケーションを変換した場合は、変換後に [データの あるものすべての連結] または [すべての連結] を実行する必要があります。

Hyperion Enterprise リリース 4.7 ～ 6.4 アプリケーションのリリース 6.5.1 への変換

Hyperion Enterprise リリース 4.7 ～ 6.4 アプリケーションを Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 に変換する前に、ディスク容量が十分にあることを確認する必要があります。また、[83 ページの「Hyperion Enterprise XA からの変換の考慮事項」](#)に記載されている、変換前の注意事項を確認してください。

SCE アプリケーションを変換した後、SCE ロジックの古いファイル名は SCE 管理モジュールと Hyperion Enterprise [計算式] モジュールに保存されます。SCE 管理モジュールまたは Hyperion Enterprise [計算式] モジュールを使用して、古いファイル名をコンパイルできます。

Hyperion LedgerLink をインストールした場合は、Hyperion Enterprise の標準ラベルの長さに合わせて、データ種別 ID とユーザ名のラベルの列サイズが 8 文字から 20 文字（半角）に拡張されます。

SCE を使用している場合は、Hyperion Enterprise 変換ユーティリティは SCE のコンパイルを再実行しません。SCE 管理を開き、デフォルトの CONSOL および TRANS ロジックをコンパイルする必要があります。

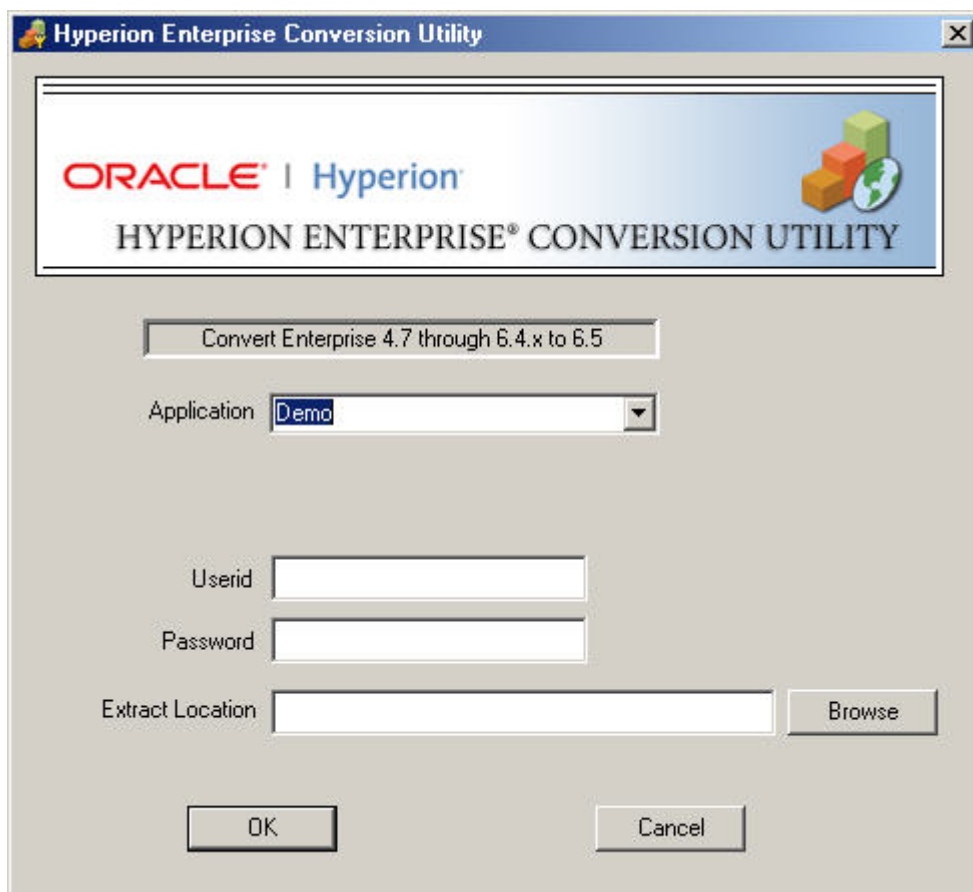
新しいアプリケーションの名前を変換前と同じにする場合は、元のアプリケーションを変換後に削除するか、別のディレクトリに移動するか、変換済みのアプリケーションを別のディレクトリに作成する必要があります。

アプリケーションの説明は、変換過程で入力した内容に関係なく、元のアプリケーションから継承されます。アプリケーションの説明は、変換が完了してから Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 アプリケーションで編集することができます。

- ▶ Hyperion Enterprise リリース 4.7 ～ 6.4 アプリケーションを Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 に変換するには、次の手順に従います。

- 1 Windows の [スタート] メニューから、[プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise]、[変換ユーティリティ]、[アプリケーション変換(バージョン 4.7 から 6.4 を 6.5.1 に変換)] の順に選択します。

Hyperion Enterprise 4.7 から 6.4 を 6.5.1 に変換するためのダイアログボックスが表示されます。



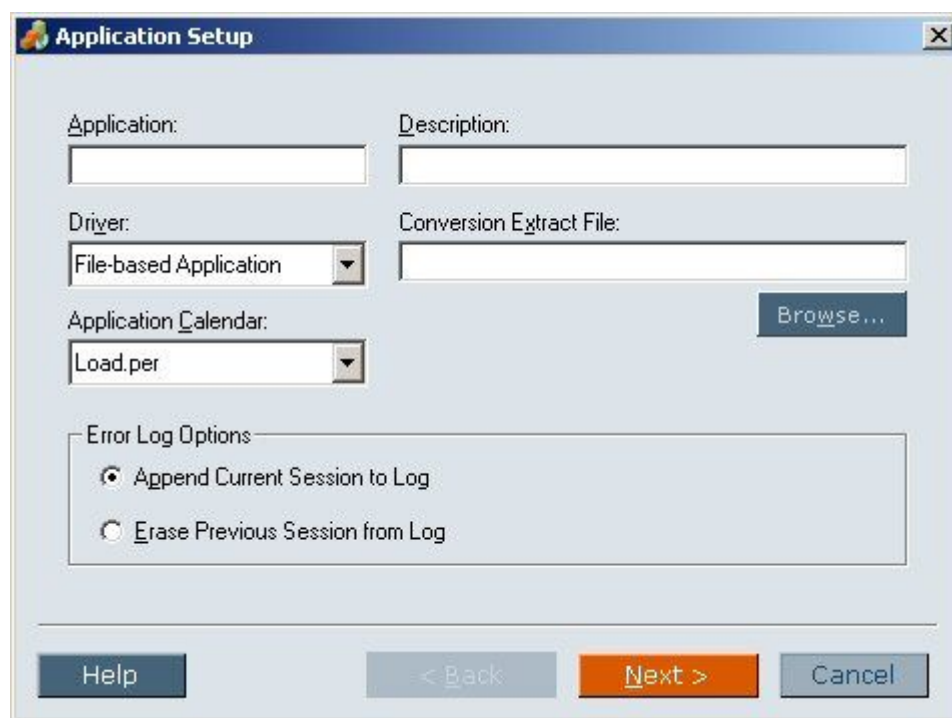
- 2 [アプリケーション] ドロップダウンリストで、リリース 6.5.1 に変換するアプリケーションを選択します。
- 3 [ユーザー名] および [パスワード] ボックスに、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 [抽出場所] ボックスに、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 変換抽出ファイルが新しいアプリケーションに読み込まれる前に、変換抽出ファイルを保存するディレクトリへのパスを入力するか、または [参照] をクリックしてそのディレクトリに移動します。

変換が完了したことを示すメッセージが表示されます。

変換抽出ファイルは、表 14 に一覧されています。これらのファイルを使用して、新しいアプリケーション（まだ存在していません）を構築します。

- 5 Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 を起動し、[ファイル]、[新規アプリケーション] の順に選択します。ユーザ名とパスワードを入力し、[次へ] をクリックします。

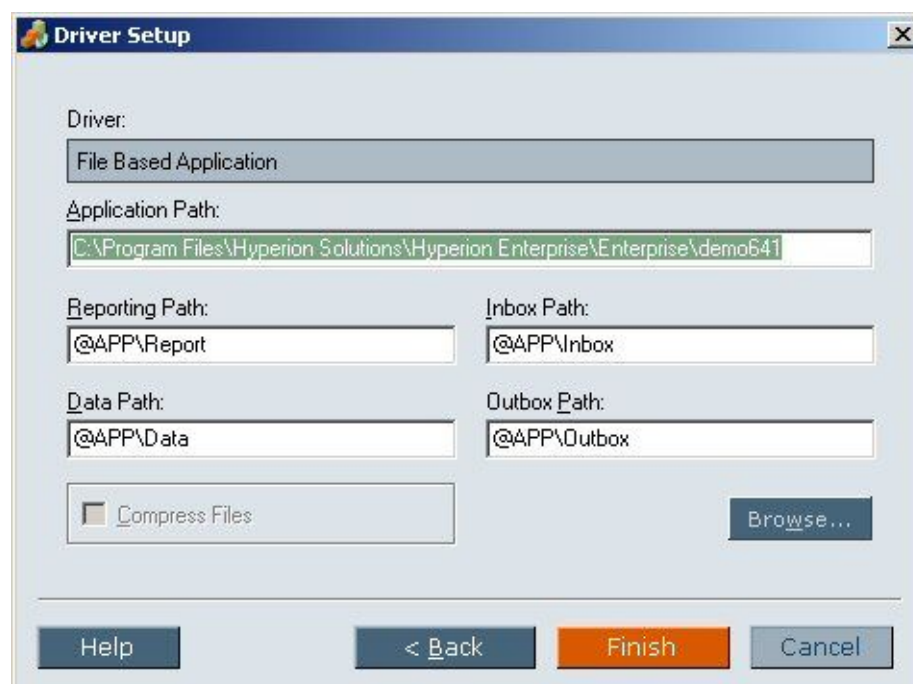
[アプリケーションの設定] ダイアログボックスが表示されます。



- 6 次の手順を完了し、[次へ] をクリックします。

1. [アプリケーション] および [説明] ボックスに、アプリケーション名と説明をそれぞれ入力します。
2. 変換抽出ファイル名を入力するか、または [参照] をクリックしてそのファイルに移動します。このファイル名は、ステップ 2 で作成したディレクトリにある、.app 拡張子の付いたファイル名です。
3. エラーログオプションを選択します。

[ドライバの設定] ダイアログボックスが表示されます。



7 適切なパス情報を入力し、[終了] をクリックします。

新しいアプリケーションのファイルが読み込まれます。

注： 変換済みのファイルを読み込む時間は、アプリケーションに含まれているファイルの数とそれらのサイズによって異なります。

アプリケーション変換（SE から Hyperion Enterprise 6.5.1 に変換）ユーティリティ

次の方法のいずれかを使用して、Hyperion Enterprise SE 1.8 または Hyperion Enterprise リリース 4.x アプリケーションを変換できます。

- レポートおよびパッケージ以外のすべてのアプリケーション要素を変換するには、アプリケーション変換（SE から Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 に変換）ユーティリティを使用します。
- 抽出したアプリケーション読み込みファイルを変換するにはシステム抽出変換ユーティリティを使用し、ロジックファイルを変換するにはロジックファイル変換ユーティリティを使用します。詳しくは、[98 ページの「システム抽出およびロジック変換ユーティリティ」](#)を参照してください。

Hyperion Enterprise SE アプリケーションを複製する場合は、アプリケーション変換（SE からリリース 6.5.1 に変換）ユーティリティを使用します。この場合、[支配比率] と [出資比率] フィールドがアプリケーション内で使用されることはなく、アプリケーションのデフォルトが設定されるこれらのフィールドを更新する方がより適切です。SE の [出資比率] フィールドは、リリース 6.5.1 への変換時に [支配比率] フィールドにのみ挿入されます。[支配比率] および [出資比率] は、デフォルトの 100 パーセントに設定されます。

変換する前に

アプリケーションを Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 に変換する前に、以下の作業を行います。

- 変換前に、アプリケーションをバックアップします。
- 最低限の推奨ハードウェア要件を満たしていることを確認します。
- すべてのコンピュータが 32 ビットで、最低 128 MB の RAM があることを確認します。
- 十分なディスク容量があることを確認します（最低でも既存アプリケーションサイズの 1.5 倍）。
- 十分なメモリとスワップファイルサイズがあることを確認します（アプリケーションサイズの 2.5 倍）。
- カスタム関数を書き留めておきます。
- Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 で'予約済'の名前／ラベルが、Hyperion Enterprise SE アプリケーションで使用されていないことを確認します。例えば、CURR（Hyperion Enterprise SE ユーザが通貨表のラベルとしてよく使用）および Intercompany（Hyperion Enterprise SE の会社間処理に使用されるサブ勘定科目表のラベルとして使用）は、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 の予約名です。予約名の一覧は、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』に記載されています。
- スクリーンセーバープログラムを無効にします。
- **オプション**：将来にビジネス単位を取得したり、それらのレポート構造を変更する場合は、アプリケーションの設定時に「期間ごとの組織」オプションを選択します。
- **オプション**：エンティティの親子関係が変更される場合は、アプリケーションの設定中に「期間ごとの組織」オプションを選択します。
- **オプション**：データ密度の低い複雑なアプリケーションを使用する場合は、SCE を使用します。
- 標準の load.per ファイルを使用しない場合は、Hyperion Enterprise SE プログラムディレクトリから、カスタマイズしたファイルを Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 のプログラムディレクトリにコピーする必要があります。
- Hyperion Enterprise SE では使用できなかったオプションで、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 で利用するオプションを決定します。
- 新しいアプリケーションの名前を変更しない場合は、古いアプリケーションを別のディレクトリに保存します。これらのアプリケーションを同じディレクトリに置き、同じ名前を使用すると、両方のアプリケーションにアクセスできなくなる可能性があります。
- 新しい機能、データの保存方法、および既存の機能の動作の差異などを含む、リリース間での多くの機能の変更に注意してください。詳しくは、[67 ページの「Hyperion Enterprise SE リリース 4.x との機能の比較」](#)を参照してください。例えば、Hyperion Enterprise SE と Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 でのロジックの実行方法の違いに注意してください。

- 必要に応じてセキュリティ要素とパスワードを再構築します。変換ユーティリティは、セキュリティアプリケーションからユーザ名、パスワード、およびユーザグループのみを変換します。すべてのグループは、デフォルトのセキュリティクラスである「Maximum」が割り当てられます。
- コンパイル済ロジックファイル（.lgx）は Hyperion Enterprise ではサポートされていないため、システム抽出変換ユーティリティを実行する前に、既存のアプリケーションのロジックをチェックして、最新のロジックファイルを変換していることを確認する必要があります。
- 例えば#CASH++#PETTY_CASHのように、Hyperion Enterprise の以前のリリースでは、二重プラス記号（++）を含むロジックステートメントをコンパイルでき、二重プラス記号はステートメントの結果には影響を与えませんでした。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 では、計算式のチェック時にこれらのステートメントが正しくコンパイルされません。二重プラス記号（++）がロジックに存在する場合は、変換ユーティリティを実行する前に、アプリケーションでそのファイルを編集します。編集するには、各ロジックファイルを開き、二重プラス記号を検索して一重プラス記号に置き換えた後、変換します。
- 例えば、#INCOME/+#INCOME2のように、Hyperion Enterprise の旧リリースでは、除算記号（/）の後にプラス記号（+）を含んでいるロジックステートメントをコンパイルでき、プラス記号（+）はステートメントの結果には影響を与えませんでした。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 では、計算式のチェック時にこれらのステートメントが正しくコンパイルされません。この記号の組み合わせがロジックに存在する場合は、変換ユーティリティを実行する前に、アプリケーションでそのファイルを編集します。編集するには、各ロジックファイルを開き、除算記号の後のプラス記号を検索して除算記号に置き換えた後、変換します。
- 例えば<filename & CHART ロジックのように、Hyperion Enterprise の旧リリースでは、コメントセクションにアンパサンド（&）を含むロジックステートメントをコンパイルできました。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 では、計算式のチェック時にこれらのステートメントが正しくコンパイルされません。変換ユーティリティを実行する前に、アプリケーションのコメントセクション内のすべてのアンパサンドを削除する必要があります。編集するには、各ロジックファイルを開き、コメントセクションのアンパサンドを検索して他の文字に置き換えた後、変換します。
- 変換ユーティリティは、Hyperion Enterprise 固有の設定オプションが設定されているかどうかにかかわらず、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 アプリケーションを構築します。変換されたアプリケーションには、すべての勘定科目、組織単位（Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 ではエンティティと呼ぶ）、データ種別、ロジック（Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 でもロジックと呼ぶ）、データ、仕訳帳、セキュリティグループ、セキュリティ ID、および連結とロジックのステータスが含まれます。すべてのレポートおよびパッケージを変換するには、Report 変換ユーティリティを使用する必要があります。
- 期別連結は、[設定オプション] 画面でデフォルトで選択される唯一のオプションです。[設定オプション] 画面でデフォルト設定を使用してアプリケーションを変換する場合、連結とロジックのステータスはそのまま維持されます。次のいずれかのオプションを選択すると、新しい Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 アプリケーションのすべての保護解除期間のデータが影響を受け、アプリケーションの変換後に再連結する必要があります。オプションの 1 つ

を変更し、前期を連結しない場合は、前期を保護する必要があります。変換前に保護しなかった期間は、新しいアプリケーションで連結する必要があります。

- [データ種別累計] 連結を使用するために、[期別連結] オプションの選択を解除した場合。
- [換算の詳細] を選択した場合。
- [比率と消去の詳細] を選択した場合。
- [子のレート勘定科目を使用] を選択した場合。
- 変換しているアプリケーションにカスタムアプリケーションカレンダーファイルが含まれている場合は、アプリケーション変換する前に、新しい Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 アプリケーションディレクトリに .per ファイルをコピーする必要があります。

また、変換する前に次の点を考慮する必要があります。

- 複数のアプリケーションを 1 つの新しいアプリケーションに結合する予定の場合は、より多くのディスク容量、メモリなどが必要になる可能性があります。
- [仕訳帳ヒストリーレポート] の仕訳帳情報は、変換されたアプリケーションでは保持されません。
- 変換ユーティリティは、DEF ロジック関数を使用して作成されたすべてのユーザ定義関数をカスタム関数に変換します。これらのカスタム関数は、アプリケーションのすべてのロジックで使用可能になります。
- アプリケーションを変換するには、「Admin」権限が必要です。「Admin」権限を持っていない場合、変換ユーティリティは中断し、エラーメッセージが表示されます。
- レポートおよびパッケージの変換時、それらの名前は 8 文字を超えることはできません。
- アプリケーションの変換時に [共有記号] を選択し、サブ勘定科目に計算式を割り当てるために 2 つの主要勘定科目を同等視していた場合、これらの計算式は変換されたアプリケーションでは動作しません。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「システムの設定」の章にある「主要勘定科目の同等視によるサブ勘定科目への計算式の割り当て」を参照してください。

変換をテストするためのデータの収集

変換が正常に実行されたことを確認するために実行できるテストがいくつかあります。

注： データ抽出を伴うテストを行う前に、すべてのステータスが [OK] であることを確認してください。

- 変換前に親レベルでデータ抽出を実行し、変換および連結の終了後直ちにこの手順をレポートします。

- 変換前に最下位レベルでデータ抽出を実行し、変換および連結の終了後直ちにこの手順をレポートします。
- 変換の前と後に、同じ範囲の仕訳帳で仕訳帳の「あらかじめ準備されたレポート」を実行し、詳細を比較します。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 のあらかじめ準備されたレポートにはさらに詳細が含まれていることに注意してください。
- 変換を実行する前と後に、Hyperion Retrieve（Retrieve for Hyperion Enterprise Reporting ではない）を使用してレポートを実行します。
- 変換を実行する前と後に、部分的なシステム抽出を実行し、Microsoft Access データベースのメタデータを確認します。

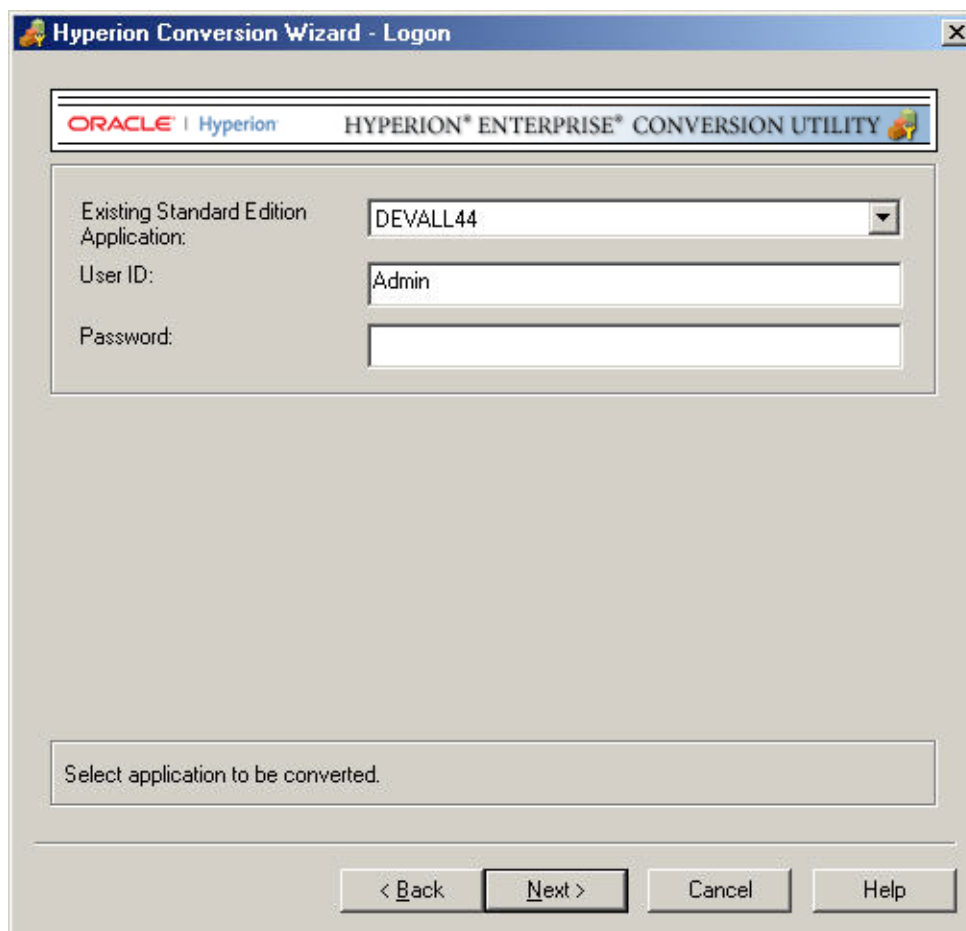
Hyperion Enterprise SE アプリケーションの Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 への変換

アプリケーション変換（SE から 6.5.1 への変換）ユーティリティは、アプリケーションのすべてのステータスを保持し、アプリケーションを自動的に変換します。システム抽出およびロジック変換ユーティリティを使用する場合はステータスは保持されず、Hyperion Enterprise アプリケーションを作成した後にすべてのデータを再連結する必要があります。

注： 変換処理中に検出したエラーはすべて変換ログファイルの error.log に書き込まれます。このファイルは、Hyperion Enterprise プログラムディレクトリにあります。

- Hyperion Enterprise SE アプリケーションを Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 に変換するには、次の手に従います。
- 1 [スタート] メニューから、[プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise]、[変換ユーティリティ]、[アプリケーション変換（SE からリリース 6.5.1 に変換）] の順に選択します。

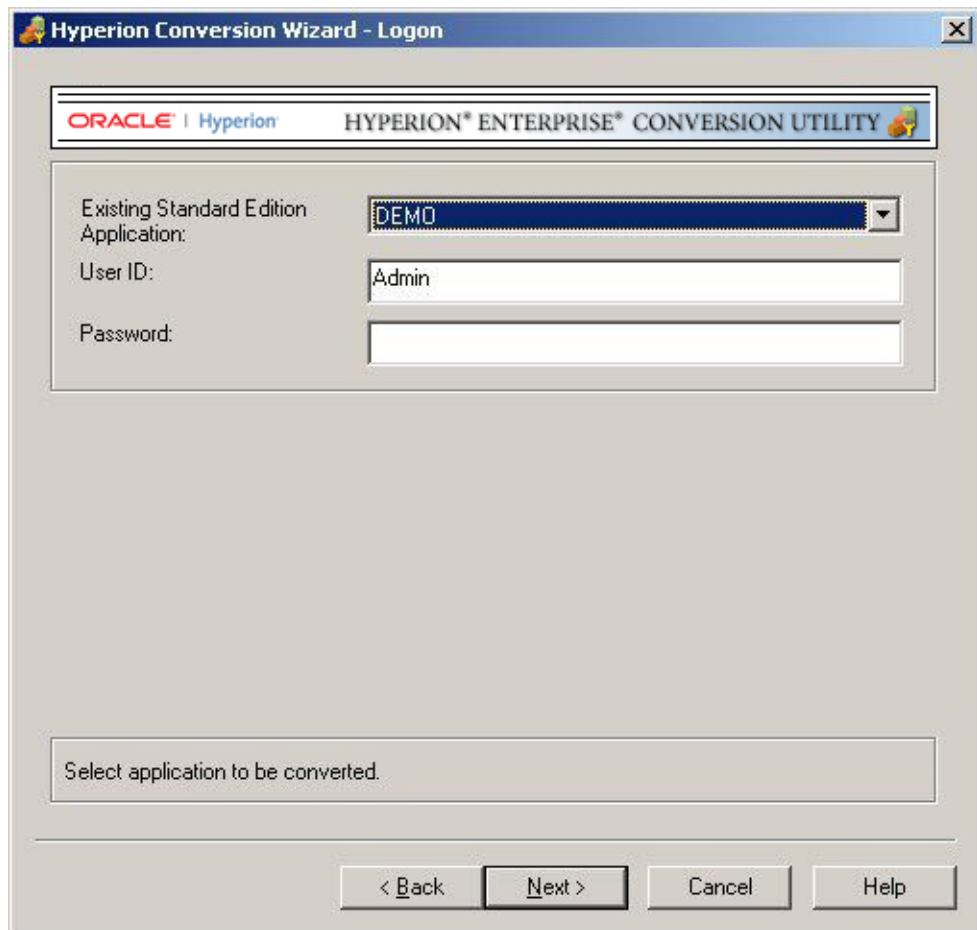
Hyperion Enterprise Conversion Wizard が表示されます。



The image shows a Windows-style dialog box titled "Hyperion Conversion Wizard - Logon". The dialog has a blue title bar with a close button (X) in the top right corner. Below the title bar is a header area with the Oracle Hyperion logo on the left and the text "HYPERION® ENTERPRISE® CONVERSION UTILITY" on the right. The main area of the dialog contains three input fields: "Existing Standard Edition Application:" with a dropdown menu showing "DEVALL44", "User ID:" with a text box containing "Admin", and "Password:" with an empty text box. Below these fields is a large, empty rectangular box with the text "Select application to be converted." inside. At the bottom of the dialog are four buttons: "< Back", "Next >", "Cancel", and "Help". The "Next >" button is highlighted with a black border.

2 [次へ] をクリックします。

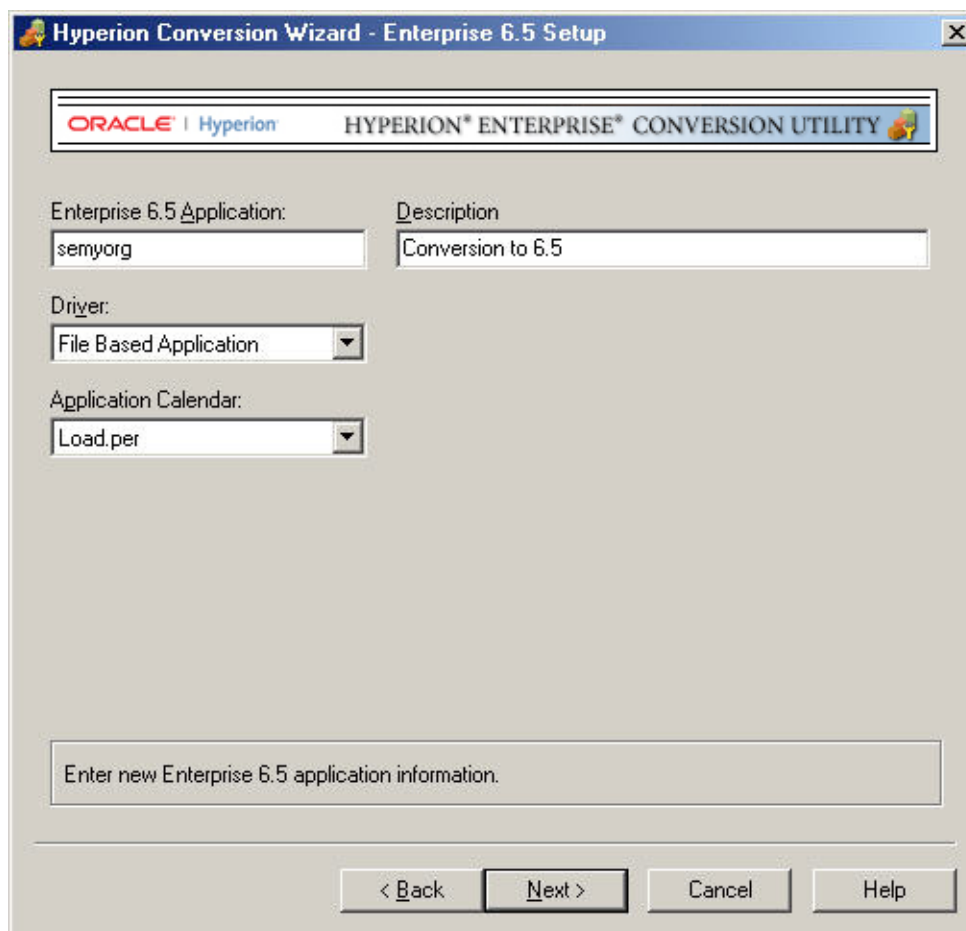
[Hyperion Conversion Wizard - ログオン] ダイアログボックスが表示されます。



The image shows a Windows-style dialog box titled "Hyperion Conversion Wizard - Logon". The dialog has a header bar with the Oracle Hyperion logo and the text "HYPERION® ENTERPRISE® CONVERSION UTILITY". Below the header, there is a section for login information. It includes a label "Existing Standard Edition Application:" followed by a dropdown menu showing "DEMO". Below this is a "User ID:" label followed by a text box containing "Admin". Below that is a "Password:" label followed by an empty text box. At the bottom of the dialog, there is a button labeled "< Back" and a button labeled "Next >" which is highlighted. To the right of these are "Cancel" and "Help" buttons. There is also a text box with the placeholder "Select application to be converted." located above the "Next >" button.

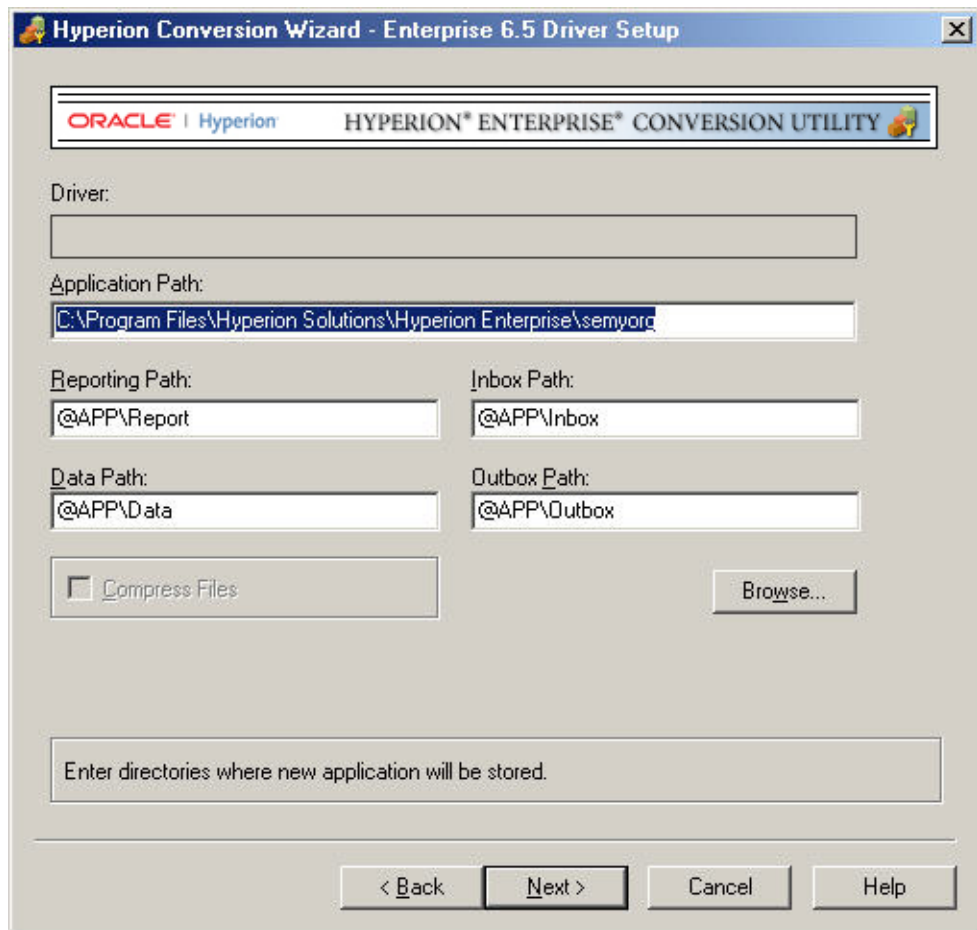
- 3 [既存の SE アプリケーション] ドロップダウンリストから変換するアプリケーションを選択し、次に [ユーザー名] および [パスワード] ボックスにユーザ名とパスワードを入力して [Next (次へ)] をクリックします。

[Hyperion Conversion Wizard - Hyperion Enterprise 6.5.1 の設定] ダイアログボックスが表示されます。



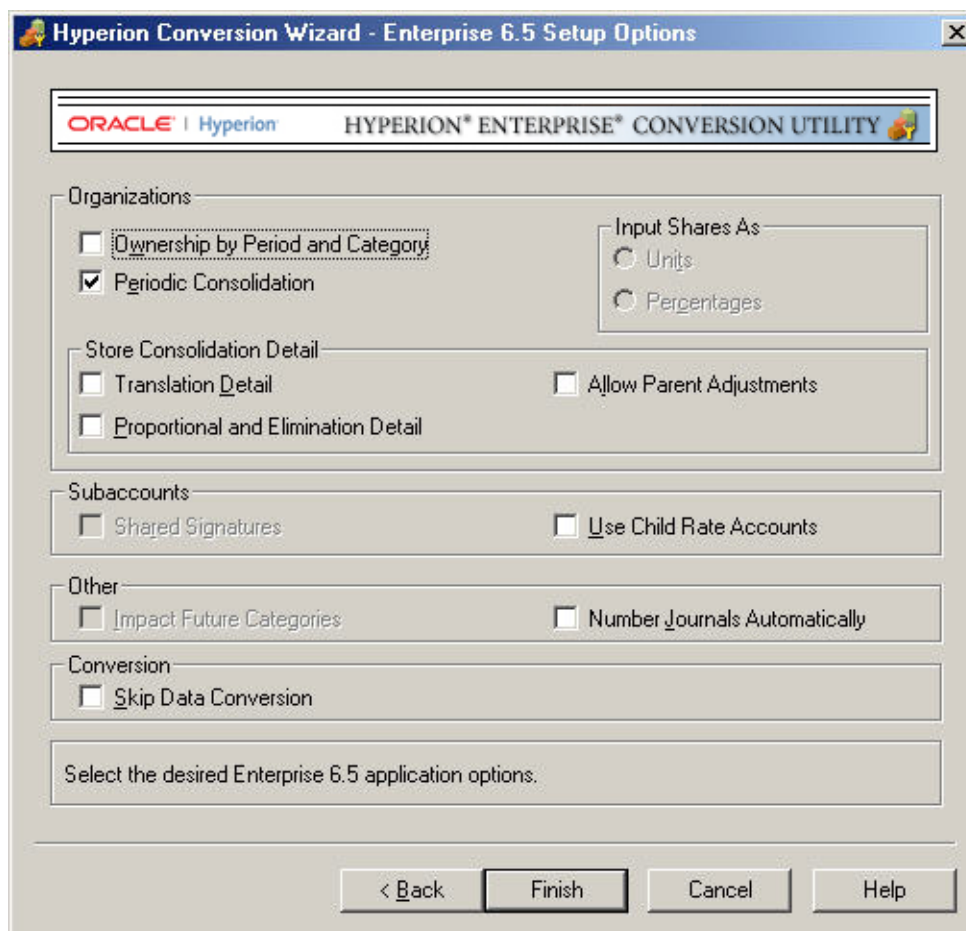
4 新しいアプリケーションの適切な設定を選択します。

[Hyperion Conversion Wizard - Hyperion Enterprise 6.5.1 の設定] ダイアログボックスが表示されます。



- 5 適切な設定オプションを選択し、[次へ] をクリックします。

[Hyperion Conversion Wizard - Hyperion Enterprise 6.5.1 の設定] ダイアログボックスが表示されます。



6 適切な設定オプションを選択し、[完了] をクリックします。

変換後の作業と考慮事項

アプリケーションの変換後、次の作業を行う必要があります。

- アプリケーションの変換時に DSM オプションを選択した場合、DSM 詳細を生成するために、[すべてを連結] または [データのあるものすべての連結] を実行する必要があります。
- 以前にサブエンティティを使用してアプリケーションに換算詳細を保存し、現在は DSM を使用している場合は、データ記憶領域の冗長を防ぐために、アプリケーションを変換した後、サブエンティティを削除します。
- Hyperion Enterprise エラーログをチェックします。
- すべてのステータスが正しく継承され、仕訳帳保護やデータ保護などの必要なすべての保護がアクティブになっていることを確認します。
- すべての仕訳帳と適切な詳細が変換されていることを確認します。
- セキュリティの設定
- ID とパスワードが有効になっていることを確認します。

注： Hyperion Enterprise SE の ID とパスワードは、大文字と小文字が区別されませんでした。例えば、Jsmith という ID と HeLLo というパスワードが設定されていた場合、Hyperion Enterprise SE は jsmith と hello のパスワード

ドで正常にログオン可能でした。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 のセキュリティでは大文字と小文字が区別されるため、作成したものと同じ ID とパスワードを入力する必要があります。

- すべての勘定科目コードとエンティティコードをチェックします。
- Hyperion Reporting 2.6 以降を使用していて、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 でレポートを使用する場合は、それらのレポートを使用する前にコンパイルを再実行する必要があります。Hyperion Enterprise Reporting Windows Client の旧リリースで作成されたレポートは、Reporting 変換ユーティリティを使用して変換する必要があります。
- Hyperion Enterprise SE アプリケーションを Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 の期間ごとの組織アプリケーションに変換した場合、変換後に再連結し、新しいアプリケーションの最初の期間でレポートを実行します。YTD 表示の Hyperion Enterprise SE アプリケーションにおいて、最後の期間で実行した同じレポートと結果を比較します。新しいアプリケーションにおける最初の期間の期首残高は、古い期末残高と一致するはずです。このレポートは、古いアプリケーションに存在していた、データ種別のデータを持つエンティティの親子関係が 100 パーセントである場合にのみ有効です。
- アプリケーションを Hyperion Enterprise SE から変換する場合、レポートとパッケージは自動的に変換されません。アプリケーションを変換した後、レポートとパッケージのファイルを Hyperion Enterprise SE アプリケーションから、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 アプリケーションの Report ディレクトリにコピーします。レポートとパッケージを実行する前に、これらのファイルを Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 で再コンパイルします。

注： Hyperion Enterprise SE 1.8.2 から変換した場合は、リリース 6.5.1 のインストール前に、Hyperion Enterprise 1.8.2 レポート変換ユーティリティを手入れする必要があります。顧客サポートにお問い合わせください。このユーティリティは、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 のインストールメディアには含まれていません。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 をインストールする前に、レポートとパッケージを変換することは重要です。

また、変換後は次の点を考慮する必要があります。

- Hyperion Enterprise SE には、連結ロジックのみが存在します。Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 は、連結ロジックと換算ロジックを別々に派生します。Hyperion Enterprise SE の連結ロジックに換算ロジックが存在する場合、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 ではすべてのロジックが換算ロジックに配置されるため、これらを手動で分ける必要があります。
- Hyperion Enterprise SE の DEF 関数は、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 のカスタム関数に自動的に変換されます。
- 連動表示勘定科目一覧を含む Hyperion Enterprise SE アプリケーションを Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 に変換し、システムに「詳細」を含まないよう指定した場合、変換されたアプリケーションには主要勘定科目に加えてサブ勘定科目が含まれます。これを防ぐには、第 1 レベルと第 2 レベルのサブ勘定科目の選択を解除し、主要勘定科目を選択して、一覧を更新します。
- アプリケーションの変換時に、Hyperion Enterprise SE の設定オプションで「期別連結」を選択していない場合、変換済みのアプリケーションでは仕訳帳の

保護が表示されません。これを防ぐには、仕訳帳を転記前の状態にしてから再転記し、その後、仕訳帳の保護を再度適用します。

- Hyperion Enterprise SE アプリケーションを変換した後、application.ini ファイルのアプリケーションパスがハードコーディングされます。アプリケーションを移動した場合にこのパスが自動的に更新されるようにするには、application.ini を直接編集し、Data、Inbox、Outbox、Report の各パスを"@APP"を使って置き換えます。例えば、次のように変更します。

APP_DATA="E:\apps\Data"からAPP_DATA="@APP\Data"

システム抽出およびロジック変換ユーティリティ

アプリケーションを再設計して、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 の新しい機能を利用するには、システム抽出およびロジック変換ユーティリティを使用します。これは、既存のアプリケーションを再設計する場合に、システムファイルやロジックの情報などの共通の要素を維持する場合に最適な方法です。例えば、Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 で親子関係の機能を活用する場合に、これらの変換ユーティリティを使用します。

アプリケーション読み込みファイル変換の考慮事項

読み込みファイルからアプリケーションを変換する前に、次の点を考慮してください。

- システム抽出ファイルを変換し、ASCII ファイルとすべてのロジックファイルをそれぞれ読み込みます。
- データと仕訳帳を抽出し、変換済みアプリケーションに手動で読み込みます。
- 変換済みアプリケーションに読み込む前に、データや仕訳帳を変換する必要はありません。ただし、データおよび仕訳帳は、一度に 1 つのデータ種別からしか抽出できません。
- アプリケーションを変換した後で連結する必要があります。
- データを抽出するときは、仕訳帳のすべての相手科目および他のすべての入力エンティティがデータファイルに含まれている必要があります。アプリケーションのロジックによっては、親エンティティに入力勘定科目が含まれる場合があります。
- 保護されたデータを読み込むことはできません。
- 変換済みのアプリケーションに仕訳帳を読み込む前に、仕訳帳に関係のあるエンティティのデータを読み込んでおく必要があります。Hyperion Enterprise では、転記済仕訳帳を読み込むことができます。最初に仕訳帳を読み込むと、影響のあるエンティティにデータが読み込まれなくなります。
- 変換済みのアプリケーションに自動逆仕訳帳を読み込むには、テキストエディタを使用して、仕訳帳の読み込みファイルを編集する必要があります。これを行うには、読み込みファイルをテキストエディタで開き、自動逆仕訳帳の ID を R（通常仕訳帳）から AR（自動逆仕訳帳）に変えます。

- 旧リリースの Hyperion Enterprise からセキュリティを抽出することはできません。セキュリティ要素を変換するには、変換ウィザードを使用する必要があります。読み込みファイルおよび抽出ファイルを使用してアプリケーションを変換する場合は、すべてのセキュリティ要素を再構築する必要があります。

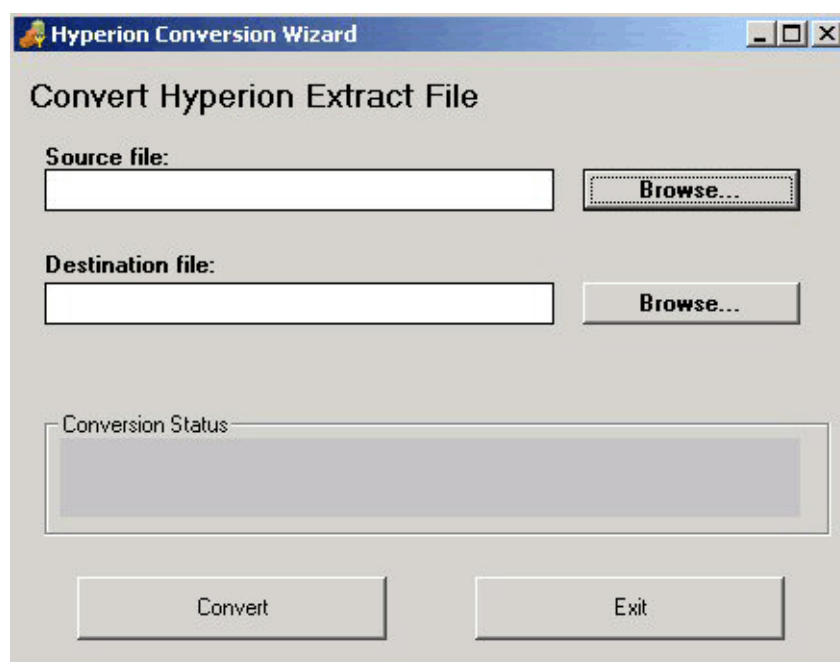
システム抽出および読み込みファイルの変換

システム抽出および読み込みファイルを変換する前に、同じラベルの勘定科目および勘定科目グループが存在しないことを確認してください。例えば、Income というラベルの勘定科目グループと、Income というラベルの勘定科目とをファイルに共存させることはできません。重複する名前のラベルを持つファイルを変換した場合、エラーログにエラーメッセージが記録されます。重複するラベルを見つけた場合は、名前の末尾に文字を追加することをお勧めします。例えば、勘定科目グループラベルの場合は末尾に「_GRP」などを追加し、新しいラベルであることがすぐに分かるようにしておきます。

▶ システム抽出および読み込みファイルを変換するには、次の手順に従います。

- 1 [スタート] メニューから、[プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise]、[変換ユーティリティ]、[システム抽出変換 (SE からバージョン 6.5.1 に変換)] の順に選択します。

[Convert Hyperion Extract File (Hyperion 抽出ファイルの変換)] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [Source file (変換元ファイル)] および [Destination file (変換先ファイル)] ボックスに、システムファイルのソースパスと対象パスを入力します。[参照] をクリックすると、ファイルに移動できます。
- 3 [変換] をクリックします。
- 4 次のいずれかの操作を行います。
 - 別のファイルを変換する場合は、ステップ 2 と 3 を繰り返します。

- ユーティリティを終了するには、[終了] をクリックします。
- 5 データ種別と期間により組織が異なるアプリケーションを作成するには、テキストエディタを使用して、CATEGORY ヘッダーとその情報を ENTITY ヘッダーの前に移動します。時間の経過により組織が変化するアプリケーションについては、asciifmt.xls を参照して Ownership セクションの書式を確認するか、コンサルタントまでお問い合わせください。

Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 システムファイル構文については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の付録「ファイル書式」を参照してください。

変換済みシステムファイルの読み込み

システムファイルの変換後、新しい Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 アプリケーションに読み込む必要があります。

- ▶ 変換済みシステムファイルを読み込むには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 で新しいアプリケーションを作成します。正しいアプリケーションカレンダーファイル (.per) を選択してください。元のアプリケーションを構築するときに使用されたアプリケーションカレンダーファイルを確認するには、アプリケーションのデータ種別モジュールを開き、最初の空白行をハイライトします。[開始期間] に表示されるデフォルトの月が、アプリケーションの作成に使用されたアプリケーションカレンダーファイルです。例えば、この値が 1 月の場合、アプリケーションカレンダーファイルは loadjan.per になります。カスタムファイル load.per を使用した場合、新しいアプリケーションを手動で読み込む必要があります。
- 2 アプリケーションモジュール内の新規アプリケーションでシステム読み込みを実行し、変換済みの 1.8.1 または SE のシステム読み込み (.asc) ファイルを読み込みます。詳しくは、99 ページの「システム抽出および読み込みファイルの変換」を参照してください。アプリケーションの読み込み処理時は、エラーメッセージを逐一確認してください。例えば、固定勘定科目一覧または固定名前一覧に、削除済みの勘定科目や名前が含まれている場合、エラーが表示されます。

注： 読み込みファイルの [FORMULAS] セクションで、USE 関数で参照されるロジックを、アプリケーションで使用されるロジックよりも先に列記します。

- 3 変換済みの各チャートおよび連結ロジック (.log ファイル) を Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 にインポートします。

注： Hyperion Enterprise 1.8.1 の連結ロジックファイルで PVA、VAL、LOC の変換関数が使用されている場合は、これらのファイルを連結ロジックとしてではなく、換算ロジックとして Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 アプリケーションに読み込む必要があります。

- 4 必要に応じて、各ロジックをチェック（再コンパイル）します。
- 5 Hyperion Enterprise 変換ユーティリティを使用してレポートを変換し、変換済みのアプリケーションにそれらをコンパイルします。

- 6 Hyperion Enterprise SE または 1.8.x アプリケーションからデータをインポートします。
- 7 Hyperion Enterprise SE または 1.8.x アプリケーションから仕訳帳データをインポートします。変換が正しく行われなかった場合は、最寄りのクオリティエンジニアまたはコンサルタントにお問い合わせいただき、問題の発生した領域を分析してください。

注： 元のアプリケーションの仕訳帳記録に存在していた仕訳帳情報は、新しいアプリケーションには保持されません。

ロジックファイルの変換

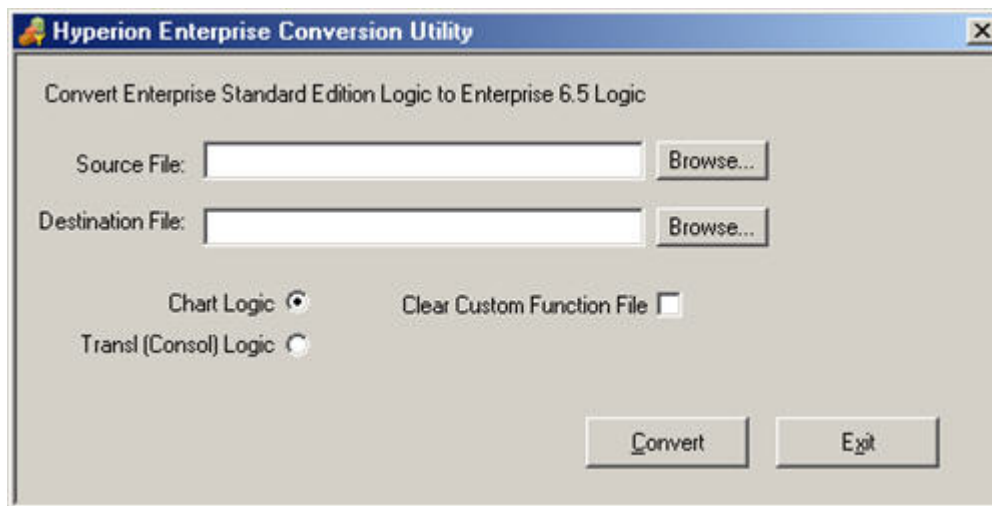
ロジックファイルの変換前に、次の点を考慮してください。

- ロジックファイルコンバータは、64K を超える .log ファイルは処理できません。64K を超えるファイルを変換するには、64K より小さいファイルに分割してください。それぞれのファイルを変換し、その後、個々のファイルを 1 つのファイルに結合します。
 - この変換方法は、変換済みのアプリケーションにデータを読み込んだ後、すべての期間を再度連結する必要があるため、ロジックまたはアプリケーションの属性が変更された場合、アプリケーションからのデータが変換後が変わってしまう場合があります。これを防ぐには、ロジックファイルを変換した後でそれらを変換済みのアプリケーションに読み込み、すべてのロジックをデータ種別に一意なものにします。データの変更対象の履歴期間についてのみ計算式を実行します。これらのデータ種別の入力権限は、システム管理者にのみ割り当てるようにしてください。また、変換済みの Hyperion Enterprise アプリケーションでデータ種別を保護してください。
 - .log ファイルのすべてのコメントは、ステートメントの右側に入力し、変換後の Hyperion Enterprise アプリケーションにもインポートする場合は先頭に感嘆符を追加する必要があります。
 - Hyperion Enterprise では、DEF 関数はカスタム関数の機能に置き換わります。アプリケーションの入力ロジックまたは連結ロジックに DEF 関数が存在していた場合は、入力ロジックまたは連結ロジックのカスタム関数に変換されます。旧リリースの Hyperion Enterprise の連結ロジックは、換算ロジックに変換されます。DEF 関数で LOC、PVA、VAL のいずれかの関数（換算ロジックでのみ動作）が使用されていた場合、ロジックの再コンパイル時にエラーメッセージが表示されます。
- ▶ ロジック再コンパイル時の障害を DEF 関数を使って修正するには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Enterprise 計算式モジュールにアクセスし、任意のロジックを開きます。
 - 2 [タスク] から [カスタム関数] を選択します。
 - 3 [種別] の領域で、[連結] だけをクリックします。
 - 4 [換算] をクリックし、関数を保存して終了します。

▶ ロジックファイルを変換するには、次の手順に従います。

- 1 [スタート] メニューから、[プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise]、[変換ユーティリティ]、[ロジック変換 (SE からリリース 6.5.1 に変換)] の順に選択します。

[Convert Enterprise Standard Edition Logic to Hyperion Enterprise 6.5.1 Logic (Enterprise 標準版のロジックを Hyperion Enterprise 6.5.1 のロジックに変換)] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [Source File (変換元ファイル)] および [Destination File (変換先ファイル)] ボックスに、ロジックファイルのソースパスと対象パスを入力します。[参照] をクリックすると、ファイルに移動できます。
- 3 次のロジックオプションのいずれかを選択します。
 - 入力ロジックファイルを変換するには、[Chart Logic (入力ロジック)] を選択します。
 - 連結ロジックファイルを変換するには、[Transl (Consol) Logic (連結ロジック)] を選択します。

注： 変換時に大半の連結ロジックファイルは、換算ロジックに変換されます。これは、大半のファイルが換算ステートメントを含んでいるからです。このため、変換ユーティリティはこれらのファイルを換算ロジックとみなします。

- 4 このユーティリティを以前に実行したことがある場合は、[Clear Custom Function File (カスタム関数ファイルをクリア)] チェックボックスをオンにして、作成済みのすべてのカスタム関数をクリアします。

注： カスタム関数ファイル customfn.log には、ロジックファイルの各 DEF 関数に対応するカスタム関数が記録されます。Hyperion Enterprise によって、対象ファイルと同じディレクトリにこのファイルが生成されます。アプリケーションで DEF 関数をいっさい作成していない場合でもファイルは作成されますが、カスタム関数は記録されません。

- 5 [変換] をクリックします。
- 6 次のいずれかの操作を行います。

- 別のファイルを変換する場合は、ステップ 2～5 を繰り返します。
- ユーティリティを終了するには、[終了] をクリックします。

連動勘定科目一覧基準のリセット

Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 では、連動勘定科目一覧基準の動作に大きな変更が加えられています。変換後のアプリケーションでも同じ結果を得るためには、連動勘定科目一覧の基準をリセットしなければならないことがあります。これは変換プロセスでは自動的に行われません。新規に作成されたアプリケーションも新しい動作の対象となります。

Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 は、3 つのレベルの勘定科目（主要勘定科目、第 1 レベルのサブ勘定科目、および第 2 レベルのサブ勘定科目）ごとに、勘定科目一覧の基準をチェックします。旧リリースでは、基準が上位のレベルに合致しない場合、それより低い勘定科目レベルにおける基準の一致はチェックされませんでした。勘定科目一覧について詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』を参照してください。

Hyperion Enterprise のデータの視点の設定

Hyperion Enterprise をインストールし、すべてのアプリケーション、読み込みファイル、ロジックファイル、レポート、およびパッケージを旧リリースから変換した後、データの視点を設定する必要があります。データの視点を完全に設定しないと、レポートとパッケージモジュールにはアクセスできません。データの視点の設定手順については、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』を参照してください。

この章の内容

Hyperion Enterprise のアンインストール.....	105
------------------------------------	-----

この章では、Hyperion Enterprise のアンインストールについて説明します。

Hyperion Enterprise のアンインストール

次のいずれかの場合、Hyperion Enterprise をアンインストールする必要があります。

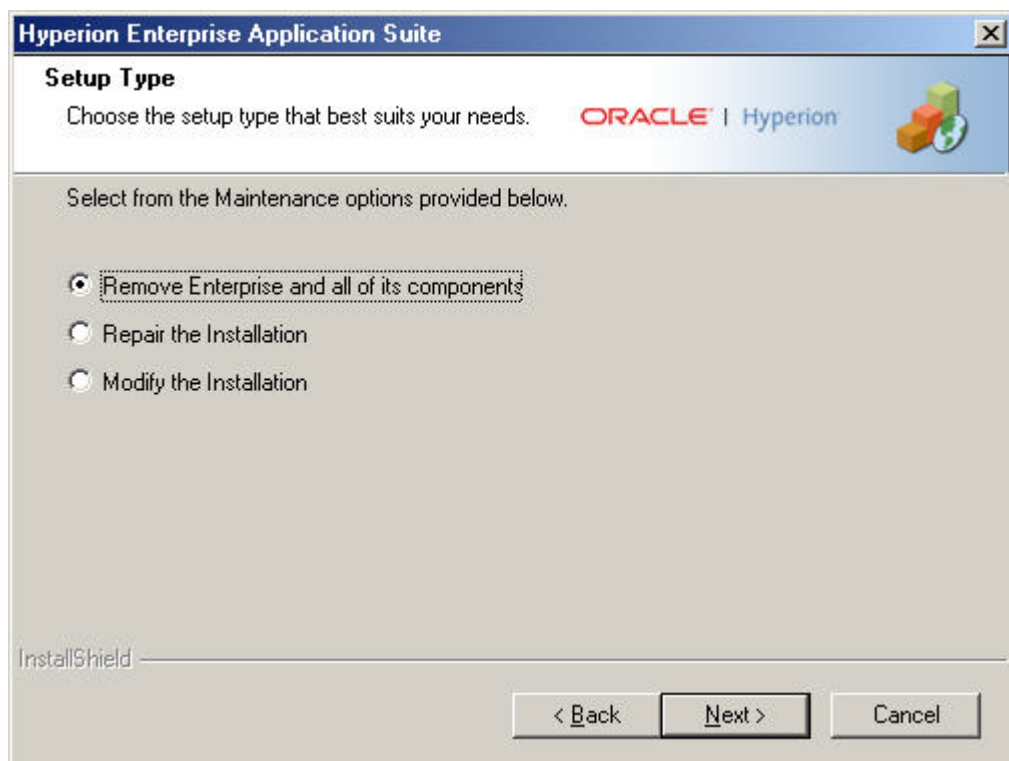
- インストール中にエラーメッセージが表示された場合。
- Hyperion Enterprise のプログラムファイルの場所を変更する場合。
- 旧リリースの Hyperion Enterprise を削除する場合。リリース 6.5.1 にアップグレードする前に、Hyperion Enterprise の旧リリースを削除する必要があります。リリース 6.5.1 へのアップグレードはリリース 6.4.x のみがサポートされています。

注： Hyperion Enterprise のアンインストールまたはインストールを行う前に、Hyperion Enterprise アプリケーションサーバ、データサーバ、および Web サーバを終了してください。データサーバが終了していない場合は、コンポーネント移動データエラーが発生したことを示すエラーメッセージが表示されます。

► Hyperion Enterprise をアンインストールするには、次の手順に従います。

- 1 Windows の [スタート] メニューから、[設定]、[コントロールパネル]、[アプリケーションの追加と削除] の順に選択します。
- 2 [アプリケーションの追加と削除] で、[Hyperion Enterprise] を選択し、[変更と削除] をクリックします。

[セットアップタイプ] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 [Enterprise とそのコンポーネントをすべて削除します] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 確認のためのメッセージボックスで、[OK] をクリックします。

注： アンインストールしても、Hyperion Enterprise フォルダは削除されません。Hyperion Enterprise フォルダには、HSvrCtrl.dat ファイルおよび2つのログファイルがあります。このフォルダは、手動で削除する必要があります。

この章の内容

アップグレードの方法.....	107
インストールしてアップグレード.....	107
変更によるアップグレード.....	110
アップグレードと修復.....	112

アップグレードの方法

Hyperion Enterprise の今回のリリースでは、Hyperion Enterprise リリース 6.4 をすばやく簡単にアップグレードできます。Hyperion Solutions Corporation では、この機能によって以前のソフトウェアリリースに対する効果的且つ効率よいサービス修正の提供が可能になっています。

以前にインストールしなかったコンポーネントを追加することにより、インストール内容を変更できます。

インストールの修復もできます。

Hyperion Enterprise のアップグレードでは次のインストール方法から選択します。

1. インストール
2. 修正
3. 修復

インストールしてアップグレード

インストールの更新によってアップグレードできるのは、Hyperion Enterprise リリース 6.4 以降のみです。既にインストールされている Hyperion Enterprise コンポーネントだけがアップグレードされます。次の種類のインストールでは完全インストールを実行できます。

1. ワークステーションのインストール
2. Hyperion Enterprise Windows 32 ビットと次のコンポーネントの任意の組み合わせのインストール
 1. アプリケーションサーバ
 2. データサーバ
 3. Web サーバ

4. メッセージサーバ
5. アドオンモジュール
6. ユーティリティ
7. アプリケーションサーバ、データサーバ、Web サーバ、メッセージサーバ、アドオンモジュール、ユーティリティの組み合わせ

注： システムに Hyperion Enterprise 6.4 以降がインストールされている場合にのみ、以降のバージョンにアップグレードできます。システムに旧バージョンがインストールされている場合は、これをアンインストールしてから、Hyperion Enterprise をインストールする必要があります。

➤ Hyperion Enterprise をインストールするには、次の手順を実行します。

1 次のいずれかの操作を行います。

- Hyperion Enterprise ソフトウェアを Oracle E-Delivery からダウンロードした場合は、次のいずれかの操作を行います。
 - インストールプログラムをダウンロードしたディレクトリに移動し、install.exe をダブルクリックします。
 - Windows の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、次のコマンドを [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスに入力して、[OK] をクリックします。

Drive\directory\install.exe

ここで、Drive および directory は、Hyperion Enterprise インストーラがあるドライブとフォルダです。

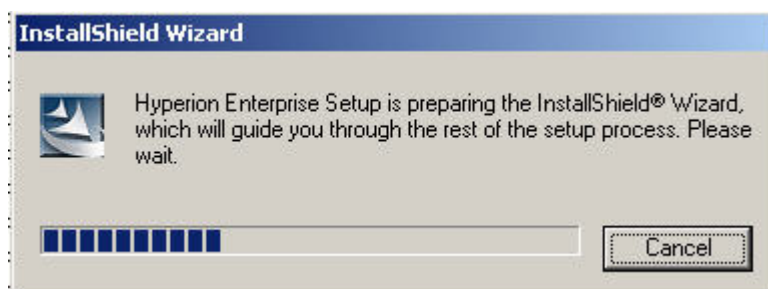
[Select Install Language] ダイアログボックスが表示されます。



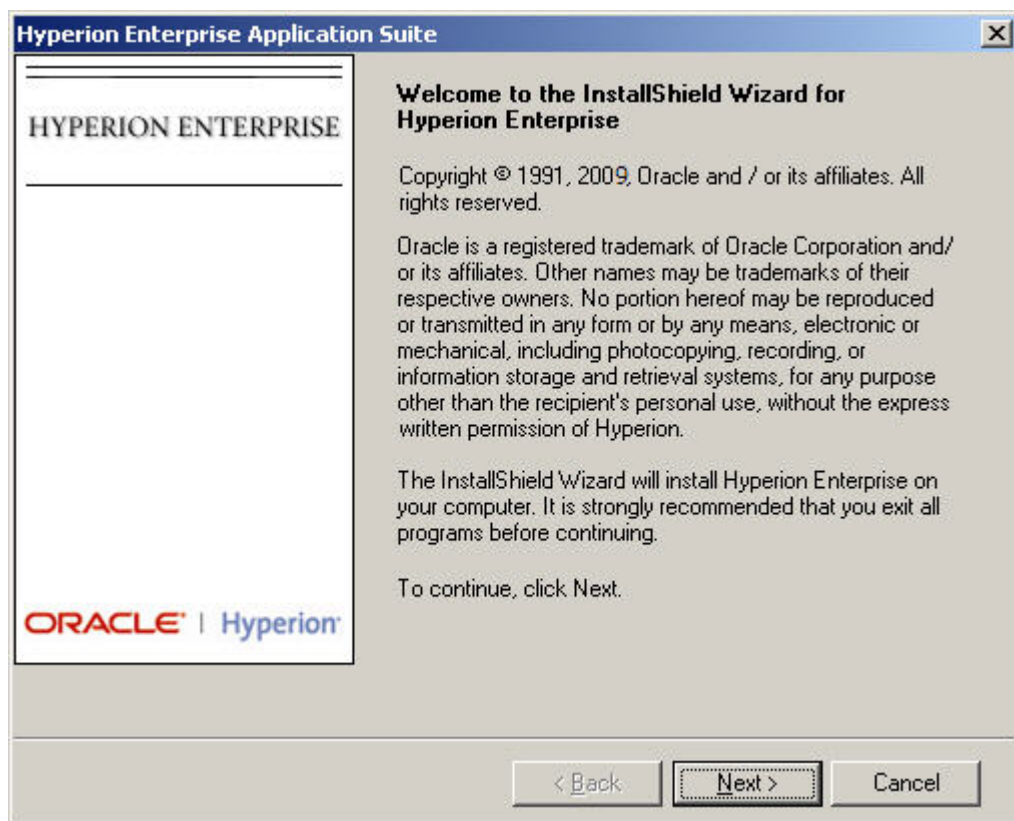
- 2 [Select Install Language] ダイアログボックスで、言語を選択し、[OK] をクリックします。

注： 言語はデフォルトで英語に設定されています。

セットアッププログラムの準備状況を示すメッセージが表示されます。

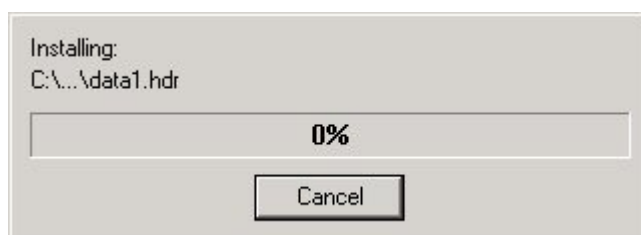


セットアッププログラムの準備が完了すると、[ようこそ] 画面が表示されます。



3 [次へ] をクリックします。

Hyperion Enterprise のインストール状況を示すメッセージが表示されます。



注： Hyperion Enterprise Web サーバの 6.4 以降のリリースがインストールされている場合、[Hyperion Enterprise Web サーバーセットアップ] ダイアログボックスが開きます。パスおよびユーザ情報を指定し、[OK] をクリックして、インストールを続行します。

4 インストーラの要求に応じて情報を指定して、アップグレードを続行します。

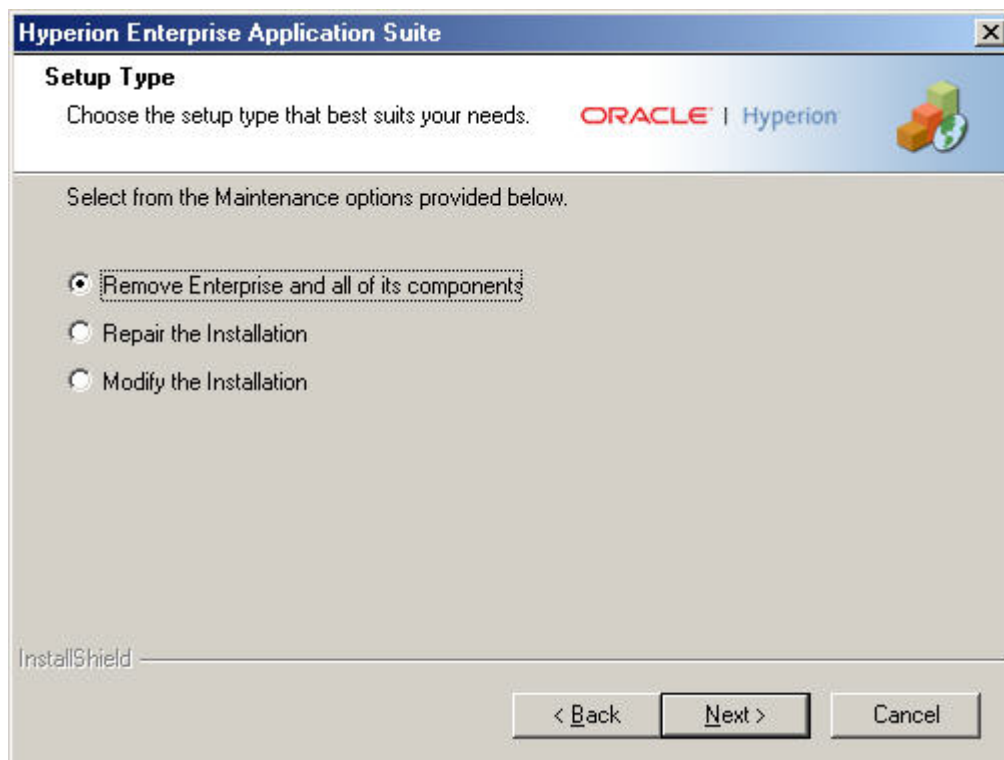
変更によるアップグレード

Hyperion Enterprise のインストール内容を変更できます。ただし、変更する前にアップグレードする必要があります。

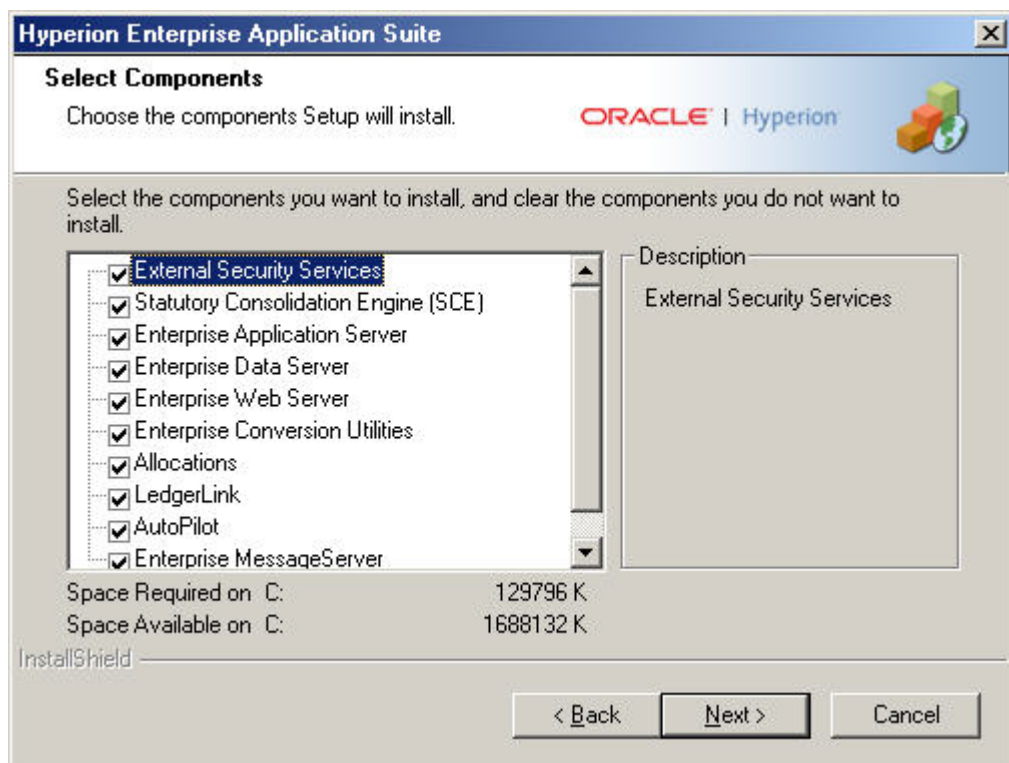
アップグレード手順については、[107 ページの「インストールしてアップグレード」](#)を参照してください。

➤ Hyperion Enterprise のインストール内容を変更するには、次の手順に従います。

- 1 Windows のデスクトップで、[スタート] メニューから、[設定]、[コントロールパネル] の順に選択します。
- 2 [コントロールパネル] で、[アプリケーションの追加と削除] を選択します。
- 3 [アプリケーションの追加と削除] で、Hyperion Enterprise の [変更と削除] をクリックします。



- 4 [インストールを変更します] を選択して、[次へ] をクリックします。
[コンポーネントの選択] ダイアログボックスが表示されます。



- 5 コンポーネントを選択して、[次へ] をクリックします。

Enterprise アプリケーションサーバ、データサーバ、および Web サーバを選択した場合は、[40 ページの「サーバコンポーネントの設定」](#)を参照してください。

アップグレードと修復

インストール内容を修復できます。ただし、修復する前にアップグレードする必要があります。

アップグレード手順については、[107 ページの「インストールしてアップグレード」](#)を参照してください。

- Hyperion Enterprise のインストール内容を修復するには、次の手順に従います。
 - 1 Windows のデスクトップで、[スタート] メニューから、[設定]、[コントロールパネル] の順に選択します。
 - 2 [コントロールパネル] で、[アプリケーションの追加と削除] を選択します。
 - 3 [アプリケーションの追加と削除] で、Hyperion Enterprise の [変更と削除] をクリックします。
 - 4 [インストールを修復します] を選択し、[次へ] をクリックします。
 - 5 再起動のオプションを選択し、[完了] をクリックします。



Web環境の手動設定

この付録の内容

Microsoft IIS Server のインストールと設定.....	113
パフォーマンスの調整.....	117

この章では、手動による Web の実装手順の詳細について説明します。

Microsoft IIS Server のインストールと設定

Web で Hyperion Enterprise リリース 6.5.1 を使用するには、Hyperion Enterprise Web Server で Microsoft Internet Information Server (IIS) 6.0 以降を設定する必要があります。Hyperion Enterprise の Web Server コンポーネント実行専用のコンピュータを使用する場合、そのコンピュータで IIS を設定しなければなりません。

Hyperion Enterprise Web Server は、Windows 2003 Server および Windows 2008 Server でサポートされています。IIS を Web Server にインストールした後、Web アプリケーションのコンポーネントをインストールできます。

注： IIS は、Windows 2003 または Windows 2008 Server コンピュータにのみインストールできます。Windows 2003 Web Edition または Enterprise Edition の場合は、そのインストールのときに IIS のインストールと設定が自動的に行われます。Windows 2008 Standard Edition の場合は、IIS を別にインストールし、ASP.NET と IIS 6 Management Compatibility を有効にする必要があります。

- ▶ Hyperion Enterprise Web Server に IIS をインストールして設定するには、次の手順に従います。
- 1 World Wide Web Publishing Service が実行されていることを確認します。これを行うには、[スタート]、[設定]、[コントロールパネル]、[サービス] の順に選択し、このサービスの状態が「開始」になっていることを確認します。
- 2 使用している Windows オペレーティングシステムに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - Windows 2003 Server で、Active Server Pages がインストールされていない場合は、[スタート] メニューから、[コントロールパネル]、[プログラムの追加と削除]、[Windows コンポーネントの追加と削除]、[アプリケーションサーバー]、[Internet Information Services (IIS)]、[World Wide Web Service]、[Active Server Pages のインストール] の順に選択します。

- Windows 2008 Server で、Internet Information Services (IIS) の状態を確認するには、次のタスクを実行します。
 1. [すべてのプログラム]、[管理ツール]、[サーバーマネージャ]、[役割] の順に選択します。
 2. [役割] 右クリックして、[役割の追加] を選択します。
 3. [Web サーバー (IIS)] を選択し、[次へ] をクリックします。
 4. [Web サーバー (IIS) について] ページが表示されたら、[次へ] をクリックして続行します。
 5. [Web サーバー (IIS)] をインストールする [役割サービス] パネルで、[ASP.NET] および [IIS 6 と互換性のある管理] のオプションを選択し、[次へ] をクリックします。
 6. Web サーバ (IIS) のインストール内容を確認し、[インストール] をクリックしてウィンドウを閉じます。

IIS インストールの確認

- ▶ IIS のインストールを検証するには、次の手順に従います。
 - 1 使用している Windows オペレーティングシステムに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - Windows 2008 Server の場合、[スタート] メニューから [すべてのプログラム]、[管理ツール]、[サーバーマネージャ]、[設定] の順に選択します。
 - Windows 2003 Server の場合、[スタート] メニューから、[プログラム]、[管理ツール] の順に選択します。
 - 2 [サービス] アイコンをダブルクリックします。
[サービス] ダイアログボックスが表示されます。
 - 3 [サービス] の一覧から [IIS Admin Service] を選択します。
 - 4 次のいずれかの操作を行います。
 - サービスの状態が「開始」となっている場合は、[停止] をクリックします。次に [OK] をクリックして、サービスを停止します。IIS Admin Service が終了したら、[開始] をクリックします。
 - サービスの状態が「開始」になっていない場合は、[開始] をクリックします。

注： IIS Admin Service を終了すると、FTP Publishing Service、Microsoft SMTP Service、および World Wide Web Publishing Services も自動的に終了します。

 - 5 World Wide Web Publishing Service についてもステップ 3 ～ 4 を繰り返します。
 - 6 [閉じる] をクリックして [サービス] ダイアログボックスを閉じます。
 - 7 [コントロールパネル] を閉じます。

IIS の設定の要件

IIS を設定するには、次の要件を満たす必要があります。

- 匿名ユーザのユーザおよびパスワードの情報が指定されていること。
ディレクトリおよびユーザ値の指定方法については、[40 ページの「サーバーコンポーネントの設定」](#)を参照してください。
- 匿名ユーザがローカル管理者のグループに属していること。
- メタデータがアプリケーションに読み込まれていること。

IIS の設定のチェック

Hyperion Enterprise および Hyperion Enterprise Reporting にアクセスするための Enterprise Web サーバの設定については、[64 ページの「Hyperion Enterprise Web アプリケーションの設定」](#)を参照してください。

▶ Windows 2003 Server で IIS の設定をチェックするには、次の手順に従います。

- 1 Windows のデスクトップで、[スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、[名前] ボックスに **inetmgr** と入力します。

[インターネットインフォメーションサービス (IIS)] マネージャダイアログボックスが表示されます。

- 2 [インターネットインフォメーションサービス] ダイアログボックスの左側のウィンドウで、HEWeb 仮想ディレクトリまたは Hyperion Enterprise のインストール時に指定した仮想ディレクトリに移動します。

- 3 仮想ディレクトリを右クリックし、ドロップダウンメニューから [プロパティ] を選択します。

[<仮想ディレクトリ名>のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

- 4 [仮想ディレクトリ] タブで、次の手順に従います。

1. [読み取り] チェックボックスをオンにします。
2. [アプリケーションの設定] グループボックスに、[アプリケーション名] フィールドで指定した仮想ディレクトリの名前を入力します。
3. [実行アクセス許可] ドロップダウンリストで、[スクリプトのみ] を選択します。

注： [実行アクセス許可] ドロップダウンリストの値を [なし] に設定しないでください。

4. [アプリケーション保護] ドロップダウンリストで、[低 (IIS プロセス)] を選択します。

- 5 [ディレクトリセキュリティ] タブで、次の手順に従います。

1. [認証とアクセス制御] グループボックスで、[編集] を選択します。
[認証方法] ダイアログボックスが表示されます。
2. [認証方法] ダイアログボックスで、[匿名アクセスを有効にする] チェックボックスをオンにします。

[匿名アクセスを有効にする] グループボックスの [ユーザー名] および [パスワード] ボックスが編集可能になります。

3. [匿名アクセスを有効にする] グループボックスで、ユーザ名を入力するか、[参照] をクリックします。

[ユーザーの選択] ダイアログボックスが表示されます。

4. [ユーザーの選択] ダイアログボックスからユーザ名を選択し、パスワードを入力します。
5. [OK] をクリックし、[認証方法] ダイアログボックスで値を保存します。

- 6 [適用] をクリックし、[<仮想ディレクトリ名>のプロパティ] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

➤ Windows 2008 Server で IIS の設定をチェックするには、次のタスクを実行します。

- 1 Windows のデスクトップで、[スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、[名前] ボックスに **inetmgr** と入力します。

[インターネットインフォメーションサービス (IIS)] マネージャダイアログボックスが表示されます。

- 2 [インターネットインフォメーションサービス] ダイアログボックスの左側のウィンドウで、**HEWeb** 仮想ディレクトリまたは Hyperion Enterprise のインストール時に指定した仮想ディレクトリに移動します。

- 3 仮想ディレクトリの右ペインにある [IIS] セクションで、[Handler Mappings (ハンドラマッピング)] アイコンをダブルクリックします。

[Handler Mappings (ハンドラマッピング)] ダイアログボックスが表示されます。

- 4 アクションペインで、[Edit Feature Permissions (機能のアクセス許可の編集)] を選択します。

- 5 [読み取り]、[Script (スクリプト)] と [Execute (実行)] のチェックボックスをオンにし、[OK] をクリックします。

- 6 仮想ディレクトリの右ペインにある [IIS] セクションで、[Authentication (認証)] アイコンをダブルクリックします。

[Authentication (認証)] ダイアログボックスが表示されます。

- 7 [Authentication (認証)] ダイアログボックスで、[Anonymous Authentication (匿名認証)] を選択します。

- 8 匿名認証を有効にするには、次のタスクを実行します。

- ・ アクションペインで、匿名認証の [Enable (有効にする)] オプションを選択します。

- 9 匿名認証の詳細を編集するには、次のタスクを実行します。

1. アクションペインで、[編集] を選択します。

[Edit Anonymous Authentication Credentials (匿名認証資格情報の編集)] ダイアログボックスが表示されます。

2. [Specific user (特定ユーザー)] オプションを選択し、[Set (設定)] をクリックします。

- [Set Credentials (資格情報の設定)] ボックスの [ユーザー名] および [パスワード] ボックスが編集可能になります。
3. [Set Credentials (資格情報の設定)] ボックスで、ユーザー名とパスワードを入力します。
 4. [OK] をクリックし、[Authentication (認証)] ダイアログボックスで値を保存します。
 5. [OK] をクリックして、[Edit Anonymous Authentication Credentials (匿名認証資格情報の編集)] ダイアログボックスを閉じます。

パフォーマンスの調整

Windows でサーバのパフォーマンス調整を行うことをお勧めします。この調整により、内部システムがフォアグラウンドで実行するアプリケーションの優先順位を下げるすることができます。

- ▶ パフォーマンスを調整するには、次の手順に従います。
- 1 Windows の [スタート] メニューから、[設定]、[コントロールパネル] を選択します。
 - 2 [コントロールパネル] の [システム] アイコンをダブルクリックします。
 - 3 [システムのプロパティ] ダイアログボックスで [パフォーマンス] タブを選択します。
 - 4 [アプリケーションの処理優先度] のスライダを [なし] の位置までドラッグします。

パフォーマンス向上のために、次に示すサーバの更新を検討してください。

- RAID コントローラの読み取りと書き込みの比率は、50/50 に設定します。
- ハイパースレッディングをオフにします。
- バックエンドのファイルサーバで Terminal Services\Citrix が使用されている場合は、すべてのサーバの NIC をフルデュプレックスに設定します。
- ウイルス対策ソフトウェアのリアルタイムスキャンを行う場合は、アプリケーションフォルダとプログラムフォルダをスキャンの対象から除外します。計画的なダウンタイムのときに、リアルタイムスキャンを無効にして、システムのフルスキャンを実行します。



Hyperion Enterprise マニュアル

この付録の内容

ブラウザベースのヘルプ（Hyperion Enterprise Windows 32 ビットクライアントおよび Web 用）	119
PDF ファイルの表示と印刷	120

Hyperion Enterprise のマニュアルには、Hyperion Enterprise Windows 32 ビットクライアントおよび Web 用のブラウザベースのオンラインヘルプと、PDF ファイルがあります。この付録では、マニュアルとその内容について説明します。

ブラウザベースのヘルプ（Hyperion Enterprise Windows 32 ビットクライアントおよび Web 用）

Hyperion Enterprise Windows 32 ビットクライアントおよび Web 用のブラウザベースのヘルプでは、一般的な質問に対する答えをすぐに見つけることができます。特定のダイアログボックスや Web ページに関する情報が必要な場合は、そのダイアログボックスまたは Web ページが選択されていることを確認してください。

ブラウザベースのヘルプ（Hyperion Enterprise Windows 32 ビットクライアント用）

Hyperion Enterprise の各製品は、ブラウザベースのヘルプとともにインストールされます。

ブラウザベースのヘルプには、次のような情報が含まれています。

- Hyperion Enterprise でタスクを完了するために必要な手順
 - ウィンドウとダイアログボックスに関する説明
- オンラインヘルプにアクセスするには、次のいずれかの方法を使用します。
- 製品を使用するときに、[ヘルプ] メニューの [目次] を選択します。
 - 製品を使用するときに、F1 キーを押します。
 - ダイアログボックスで [ヘルプ] ボタンをクリックします。

ブラウザベースのヘルプへのアクセス

- ▶ ブラウザベースのヘルプにアクセスするには、Web ページの [ヘルプ] をクリックします。
- ▶ ブラウザベースのヘルプトピックを印刷するには、トピックを表示してから、トピック内で右クリックして [印刷] をクリックします。

PDF ファイルの表示と印刷

PDF ファイルは、Hyperion Enterprise のマニュアルの電子ファイルです。これらのファイルには、Hyperion Enterprise を使いこなすための概念、手順、例などが記載されています。

Adobe Acrobat Reader を使用して PDF 文書の表示や印刷を行います。インストールされる PDF 文書は、Adobe Acrobat Reader 7.0 以降とのみ互換性があります。旧バージョンの Acrobat Reader を使用している場合は、Adobe の Web サイト (<http://www.adobe.co.jp>) から新しいリリースをインストールする必要があります。

- ▶ PDF ファイルを表示および印刷するには、次の手順に従います。
 - 1 ファイルを次のいずれかの方法で開きます。
 - Windows から、[Acrobat Reader] アイコンをクリックして起動し、Hyperion Solutions ディレクトリから PDF ファイルを開きます。
 - 『Hyperion Enterprise セットアップガイド』、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』、『Hyperion Enterprise ユーザーズガイド』、『Hyperion Enterprise API リファレンスガイド』、および『Statutory Consolidation Engine ユーザーズガイド』の PDF ファイルにアクセスするためのリンク
 - 2 マニュアルを印刷するには、[ファイル] メニューの [印刷] を選択し、印刷するページと部数を選択または入力して、[OK] をクリックします。

Hyperion Enterprise の PDF ファイル

セットアッププログラムによって、表 15 に示す Hyperion Enterprise の PDF ファイルがインストールされます。

表 15 Hyperion Enterprise の PDF ファイル

ファイル名	マニュアル
Ace.pdf	『Hyperion Enterprise Statutory Consolidation Engine ガイド』
Admin.pdf	『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』
Api.pdf	Hyperion Enterprise API リファレンスガイド
GetStart.pdf	『Hyperion Enterprise セットアップガイド』
User.pdf	『Hyperion Enterprise ユーザガイド』



プログラムファイル一覧

この付録の内容

Windows システムファイル	121
Windows レジストリファイル	122
Windows Crystal ファイル	123
Windows Crescent ファイル	124

この付録では、インストール時に Windows のシステムディレクトリにインストールされるプログラムファイルを示します。インストールされるファイルは、使用しているオペレーティングシステムによって異なります。

Windows システムファイル

Filename 日付 時刻 サイズ バージョン

Vbscript.dll 09/13/1999 07:59:34 426,256 5.0.0.3715
Cmpsfx32.dll 10/12/2000 11:12:48 75,264 4.0.0.26
Co2c40en.dll 11/18/1996 00:00:00 748,160 4.6.3.106
Comppl32.dll 10/12/2000 11:12:48 239,616 4.1.0.9
Crpe32.dll 06/21/1999 05:00:00 5,797,888 7.0.100.15
Implode.dll 11/18/1996 00:00:00 18,944 1.0.0.1
Mfcans32.dll 10/12/2000 11:12:50 133,904 3.2.2.0
Mfcuia32.dll 07/11/1995 09:50:00 5,632 3.0.0.0
msvcirt.dll 06/17/1998 12:00:00 77,878 6.0.8168.0
Msvcrt.dll 02/02/1999 12:00:00 266,293 6.0.8397.0
msvcrt20.dll 10/12/2000 11:12:50 253,952 2.11.0.0
msvcrt40.dll 02/08/1999 12:00:00 326,656 4.22.0.0
P2bbnd.dll 11/18/1996 00:00:00 36,352 4.6.3.106
P2bdao.dll 11/20/1996 00:00:00 87,040 4.6.3.112
P2ctdao.dll 11/18/1996 00:00:00 50,176 4.6.3.106
P2irdao.dll 11/18/1996 00:00:00 54,272 4.6.3.106

P2sodbc.dll 11/18/1996 00:00:00 131,072 4.6.3.106
Pg32.dll 11/18/1996 00:00:00 979,456 1.0.0.11
qpro32.dll 10/12/2000 11:12:52 118,272 4.20.0.0
vbamap32.dll 10/12/2000 11:12:52 14,848 2.1.0.0
Vb5stkit.dll 01/16/1997 00:00:00 29,696 5.0.37.16
vbajet32.dll 01/22/1999 12:00:00 30,992 6.0.1.8268
Asycfilt.dll 10/12/2000 11:12:48 147,728 2.40.4275.1
Book.abx 10/12/2000 11:12:48 1,558
Mapsm32x.dll 10/12/2000 11:12:50 921,600 2.0.0.5
Mavim32x.dll 10/12/2000 11:12:50 505,344 2.0.0.5
Cp5dll32.dll 10/12/2000 11:12:48 216,064 5.0.0.112
Roboex32.dll 10/27/1998 11:08:04 317,952 7.0.142.0
Msvcp60.dll 06/17/1998 12:00:00 401,462 6.0.8168.0
Apigid32.dll 10/12/2000 11:12:48 113,664 4.0.0.0
Compobj.dll 10/12/2000 11:12:48 30,400 2.10.35.35
Dzip32.dll 10/12/2000 11:12:48 124,416 3.0.0.15
Gapi32.dll 10/12/2000 11:12:48 98,304 5.5.1960.0
Idsnotes.dll 10/12/2000 11:12:50 45,056 1.0.0.1
Ole2.dll 10/12/2000 11:12:50 39,744 2.10.35.35
Ole2disp.dll 10/12/2000 11:12:50 169,520 2.10.3029.1
Ole2nls.dll 10/12/2000 11:12:52 153008 2.10.3029.1
Stdole2.tlb 10/12/2000 11:12:52 17,920 2.40.4275.1
Storage.dll 10/12/2000 11:12:52 4,208 2.10.35.35
Typelib.dll 10/12/2000 11:12:52 177,856 2.10.3029.1

Windows レジストリファイル

Filename Date 時間 サイズ バージョン

Wrapmail.ocx 10/12/2000 11:12:58 398,848 1.1.0.36
Comcat.dll 10/12/2000 11:12:52 22,288 4.71.1441.1
Comct232.ocx 07/19/1997 16:00:18 155,920 5.1.43.19
Comctl32.ocx 07/19/1997 16:00:28 604,432 5.1.43.19
Comdlg32.ocx 05/07/1999 12:00:00 140,288 6.0.84.18
Dao2535.tlb 12/05/1996 00:00:00 73,184

Spr32x30.ocx 09/21/1999 02:32:10 992,968 3.0.0.16
Mfc40.dll 04/29/1999 12:04:00 924,432 4.1.0.6140
Mfc42.dll 04/27/1999 12:00:00 995,383 6.0.8447.0
Mscomm32.ocx 06/24/1998 12:00:00 103,744 6.0.81.69
Msvbvm50.dll 07/19/1997 15:55:40 1,347,344 5.1.43.19
Oleaut32.dll 10/12/2000 11:12:56 598,288 2.40.4275.11
Olepro32.dll 10/12/2000 11:12:56 164,112 5.0.4275.1
Ss32x25.ocx 10/12/2000 11:12:56 703,984 2.5.0.20
Stdole2.tlb 03/08/1999 12:02:26 17,920 2.40.4275.1
Tdbg6.ocx 10/12/2000 11:12:58 819,688 6.0.0.235
Threed32.ocx 10/12/2000 11:12:58 200,704 1.0.41.0
Vsocx32.ocx 10/12/2000 11:12:58 151,552 5.0.5.50
Atl.dll 03/25/1999 07:42:10 73,785 3.0.8449.0
Cp5ocx32.ocx 10/12/2000 11:12:52 93,696 5.0.0.105
Tabctl32.ocx 05/07/1999 12:00:00 209,408 6.0.84.18
Mscmct2.ocx 05/07/1999 12:00:00 645,616 6.0.84.18
Mscmctl.ocx 05/13/1999 12:00:00 1,064,456 6.0.84.98
Msvbvm60.dll 05/10/1999 12:00:00 1,384,448 6.0.84.95
Dssock32.ocx 10/12/2000 11:12:54 48,640 1.65.0.1
Filename Date 時間 サイズ バージョン
Dzocx32.ocx 10/12/2000 11:12:54 73,216 1.0.0.5
Oc30.dll 10/12/2000 11:12:56 640,512 3.20.0.0
Olemsg32.dll 10/12/2000 11:12:56 285,968 5.0.1460.8
Idsmail32.exe 10/12/2000 11:12:54 1,161,728 6.3.0.0

Windows Crystal ファイル

Filename Date 時間 サイズ バージョン
U2fxls.dll 11/18/1996 00:00:00 69,632 4.6.3.106
U2ddisk.dll 11/18/1996 00:00:00 45,056 4.6.3.106
U2dmapi.dll 11/18/1996 00:00:00 124,256 4.6.3.106
U2fcr.dll 11/18/1996 00:00:00 97,489 4.6.3.106
U2fdif.dll 11/18/1996 00:00:00 49,152 4.6.3.106
U2fhtml.dll 11/18/1996 00:00:00 109,568 4.6.3.106

U2frec.dll 11/18/1996 00:00:00 49,152 4.6.3.106
U2frtf.dll 11/18/1996 00:00:00 153,761 4.6.3.106
U2fsepv.dll 11/18/1996 00:00:00 53,248 4.6.3.106
U2ftext.dll 11/18/1996 00:00:00 53,248 4.6.3.106
U2fwks.dll 11/18/1996 00:00:00 53,248 4.6.3.106
U2fwordw.dll 11/18/1996 00:00:00 69,632 4.6.3.106
Crxlat32.dll 11/18/1996 00:00:00 39,936 4.6.3.106

Windows Crescent ファイル

Filename Date 時間 サイズ バージョン

csvlst32.ocx 07/08/1999 16:44:54 91,648 4.40.0.0
cschk32.ocx 07/08/1999 16:44:22 100,864 4.40.0.0
cscmd32.ocx 07/08/1999 16:47:04 100,864 4.41.0.0
cscomb32.ocx 07/08/1999 16:44:22 111,104 4.40.0.0
csform32.ocx 07/08/1999 16:44:22 91,136 4.40.0.0
cslist32.ocx 07/08/1999 16:44:38 83,456 4.40.0.0
csmete32.ocx 07/08/1999 16:44:38 68,608 4.40.0.0
csopt32.ocx 07/08/1999 16:44:38 96,768 4.40.0.0
cspict32.ocx 07/08/1999 16:44:54 81,408 4.40.0.0
csplst32.ocx 07/08/1999 16:44:54 100,864 4.40.0.0
csspin32.ocx 07/08/1999 16:44:54 79,360 4.40.0.0
cstext32.ocx 05/28/1999 10:43:40 399,360 4.42.0.0
Crystl32.ocx 06/21/1999 05:00:00 993,996 6.3.0.609



製品一覧

この付録の内容

Hyperion Enterprise	125
Hyperion Enterprise API リファレンスガイド	125
Hyperion Allocations	125
Hyperion LedgerLink	126
Statutory Consolidation Engine (SCE)	126
Hyperion Retrieve	126
Hyperion AutoPilot	126
アプリケーション変換 (SE からリリース 6.5.1 に変換) ウィザード	126
アプリケーション変換 (バージョン 4.7 ~ 6.3 を 6.5.1 に変換)	126
Load File Conversion ユーティリティ	127
Logic File Conversion ユーティリティ	127
Hyperion Home Migration ユーティリティ	127

この付録では、今回のリリースで出荷される製品について説明します。

Hyperion Enterprise

Hyperion Enterprise はレポート作成および連結用の高度な財務管理システムです。Hyperion Enterprise は、企業内の複数のソースやさまざまな総勘定元帳のデータを連結し、一貫した総括的な情報を提供します。

Hyperion Enterprise API リファレンスガイド

『Hyperion Enterprise API リファレンスガイド』には、どのプログラムからでも Hyperion Enterprise アプリケーションプログラムインターフェース (API) にアクセスできる関数のセットが用意されています。

Hyperion Allocations

Hyperion Allocations には、Hyperion Enterprise アプリケーション内で直接データを操作できる配賦方法のセットが用意されています。エンティティ、期間、および勘定科目間の配賦が可能で、設計者はグラフィカルな配賦ビルダを使用して配賦のルールやロジックを定義することができます。

Hyperion LedgerLink

Hyperion LedgerLink は、重要なデータを変換して Hyperion Enterprise にインポートする処理を自動化します。特定のベンダのアプリケーションに適用できるテンプレートを使用して、他社の総勘定元帳や追加フィードシステムのデータを統合します。

Statutory Consolidation Engine (SCE)

SCE は、Hyperion Enterprise と併用できるアドオン製品で、法定アプリケーションの連結パフォーマンスと機能を向上させます。

Hyperion Retrieve

Hyperion Retrieve は、Microsoft Excel のアドインで、Hyperion Enterprise 製品のアプリケーションと Excel のワークシート間でデータを移動する場合に使用します。例えば、Excel のワークシートで作業中に、Hyperion Enterprise のアプリケーションからデータを抽出してワークシートに含めることができます。

Hyperion AutoPilot

Hyperion AutoPilot は、データファイルの読み込み、連結、パッケージやレポートの作成など、Hyperion Solutions 製品のタスクを 1 つのタスクフローにまとめて自動化するためのグラフィカルなツールです。

アプリケーション変換 (SE からリリース 6.5.1 に変換) ウィザード

このウィザードは、Hyperion Enterprise SE で作成されたアプリケーションをリリース 6.5.1 に変換します。

アプリケーション変換 (バージョン 4.7 ~ 6.3 を 6.5.1 に変換)

リリース 4.6 から 5.x 用の変換ウィザードはありません。リリース 6.5.1 でリリース 4.6 アプリケーションを再構築するか、またはリリース 4.7 変換ユーティリティを使用してリリース 4.6 アプリケーションをリリース 4.7 に変換してから、リリース 6.5.1 の変換ユーティリティを使用してリリース 4.7 からリリース 6.5.1 に変換する必要があります。

Load File Conversion ユーティリティ

Load File Conversion ユーティリティは、読み込みファイルを Hyperion Enterprise SE リリース 1.8.x または Hyperion Enterprise SE リリース 4.x からリリース 6.3 に変換します。

Logic File Conversion ユーティリティ

Logic File Conversion ユーティリティは、ロジックファイルを Hyperion Enterprise SE リリース 1.8.x または Hyperion Enterprise(R) SE リリース 4.x からリリース 6.5.1 に変換します。

Hyperion Home Migration ユーティリティ

Hyperion Home Migration ユーティリティを使用すると、共通ディレクトリの Hyperion ホームの場所を移動できます。



ポート

この付録の内容

デフォルトのポートについて	129
Shared Services ポート	129
Essbase - System 9 のポート	130
Reporting and Analysis のポート	135
Financial Performance Management アプリケーションのポート	140
Data Management のポート	146

デフォルトのポートについて

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System 製品を導入するときに、アプリケーションサーバが使用するデフォルトポート番号が自動的に割り当てられます。このデフォルト番号は、設定の過程で変更できます。各ポート番号は一意でなければなりません。「既に使用されているポート」や「バインドエラー」という意味のエラーメッセージが表示される場合は、ポート番号が競合している可能性があります。

デフォルトポート番号を変更しない場合、ソフトウェアはデフォルト値で設定されます。

Shared Services ポート

表 16 Shared Services Web アプリケーションのポート

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
待ち受けポート	58080	オラクル社の Hyperion Enterprise Performance Management System Configurator
SSL 待ち受けポート	NA	アプリケーションサーバの管理コンソール（手動設定）
Apache Tomcat のシャットダウンポート	58081	アプリケーションサーバの管理コンソール（手動設定）
AJP コネクタポート	58082	アプリケーションサーバの管理コンソール（手動設定）

表 17 Shared Services のデフォルトサービスのポート

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
オラクル社の Hyperion(R) Remote Authentication Module	58000	オラクル社の Hyperion(R) Remote Authentication Module の インストールプログラム
	追加のダイナミックポート (1)	設定不可
OpenLDAP	58089	<ul style="list-style-type: none"> ● UNIX : <HSS_HOME>/ openLDAP/ startOpenLDAP.sh ● Windows : slapd -d 1 -f slapd.conf -h ldap:// hostname:portnumber を 実行 ● UNIX および Windows : CSS.xml : <pre> <hub location="http:// localhost:HSS Port"> <dirPort>openLDAP Port</dirPort> </hub> </pre>

Essbase - System 9 のポート

- 130 ページの「Essbase のポート」。
- 131 ページの「Administration Services のポート」。
- 133 ページの「Provider Services のポート」。
- 135 ページの「Smart Search のポート」。

Essbase のポート

表 18 Essbase のデフォルトサービスのポート

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
Oracle Essbase エージェント	1423	<ul style="list-style-type: none"> ● EPM System Configurator ● Essbase 設定ファイル (ARBORPATH\bin \Essbase.cfg) <p>AgentPort を含めるように ファイルを変更します。</p> <p>手順については、 『Essbase Technical Reference</p>

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
		(Essbase テクニカルリファレンス)』の Essbase.cfg の設定に関する説明を参照してください。
Essbase サーバアプリケーション (ESSSVR)	32768 ~ 33768 (プロセスごとに 2 つのポート)	<p>Oracle Essbase 設定ファイル (ARBORPATH\bin\Essbase.cfg)</p> <p>範囲を制限し、これらのポートのインクリメントを設定するには、ServerPortBegin、ServerPortEnd、および PortInc の設定を含めるようにファイルを変更します。</p> <p>手順については、『Essbase Technical Reference (Essbase テクニカルリファレンス)』の Essbase.cfg の設定に関する説明を参照してください。</p>
Oracle Essbase Integration Services サーバ	3388	<p><AIS_HOME>/bin/ais.cfg</p> <p>-Pportnumber を追加します</p>

Administration Services のポート

表 19 Administration Services Web アプリケーションのポート

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
待ち受けポート	10080	<ul style="list-style-type: none"> ● EPM System Configurator ● デフォルトの Tomcat を導入する場合 : <aas_home>/deployments/tomcat/5.0.2.8/conf/server.xml パラメータ : Connector port ● 展開された Tomcat を導入する場合 (EPM System Configurator を使用) : <Hyperion_Home>/deployments/<AppServNameAndVersion>/aas/conf/server.xml パラメータ : Connector port ● WebLogic および WebSphere の場合 : アプリケーションサーバの管理コンソール

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
SSL 待ち受けポート	10090	<ul style="list-style-type: none"> ● デフォルトの Tomcat を導入する場合 : <aas_home>/deployments/tomcat/5.0.28/conf/server.xml パラメータ : Connector port ● 展開された Tomcat を導入する場合 (EPM System Configurator を使用) : <Hyperion_Home>/deployments/<AppServNameAndVersion>/aas/conf/server.xml パラメータ : Connector port ● WebLogic および WebSphere の場合 : アプリケーションサーバの管理コンソール
Apache Tomcat のシャットダウンポート	10081 デフォルトの Tomcat を導入する場合のみ : 10005	<ul style="list-style-type: none"> ● 展開された Tomcat を導入する場合 (EPM System Configurator を使用) : <Hyperion_Home>/deployments/<AppServNameAndVersion>/aas/conf/server.xml パラメータ : Connector port ● デフォルトの Tomcat を導入する場合 : <aas_home>/deployments/tomcat/5.0.28/conf/server.xml パラメータ : Connector port ● WebLogic および WebSphere の場合 : アプリケーションサーバの管理コンソール
AJP コネクタポート	10082 デフォルトの Tomcat を導入する場合のみ : NA	<ul style="list-style-type: none"> ● 展開された Tomcat を導入する場合 (EPM System Configurator を使用) : <Hyperion_Home>/deployments/<AppServNameAndVersion>/aas/conf/server.xml

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
		パラメータ : Connector port <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルトの Tomcat を導入する場合 : NA ● WebLogic および WebSphere の場合 : アプリケーションサーバの管理コンソール

Provider Services のポート

表 20 Provider Services Web アプリケーションのポート

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
待ち受けポート	13080	<ul style="list-style-type: none"> ● EPM System Configurator ● デフォルトの Tomcat を導入する場合 : <aps_home>/deployments/tomcat/5.0.28/conf/server.xml パラメータ : Connector port ● 展開された Tomcat を導入する場合 (EPM System Configurator を使用) : <Hyperion_Home>/deployments/<AppServNameAndVersion>/aps/conf/server.xml パラメータ : Connector port ● WebLogic および WebSphere の場合 : アプリケーションサーバの管理コンソール
SSL 待ち受けポート	13090	<ul style="list-style-type: none"> ● デフォルトの Tomcat を導入する場合 : <aps_home>/deployments/tomcat/5.0.28/conf/server.xml パラメータ : Connector port ● 展開された Tomcat を導入する場合 (EPM System Configurator を使用) : <Hyperion_Home>/deployments/<AppServNameAndVersion>

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
		<p>n>/aps/conf/ server.xml</p> <p>パラメータ : Connector port</p> <ul style="list-style-type: none"> ● WebLogic および WebSphere の場合 : アプリケーショ ンサーバの管理コンソ ール
Apache Tomcat のシャットダウ ンポート	<p>13081</p> <p>デフォルトの Tomcat を導入す る場合のみ : 13005</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 展開された Tomcat を導入 する場合 (EPM System Configurator を使用) : <Hyperion_Home>/ deployments/ <AppServNameAndVersio n>/aps/conf/ server.xml <p>パラメータ : Connector port</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルトの Tomcat を導 入する場合 : <aps_ home>/deployments/ tomcat/5.0.28/conf/ server.xml <p>パラメータ : Connector port</p> <ul style="list-style-type: none"> ● WebLogic および WebSphere の場合 : アプリケーショ ンサーバの管理コンソ ール
AJP コネクタポート	<p>13082</p> <p>デフォルトの Tomcat を導入す る場合のみ : NA</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 展開された Tomcat を導入 する場合 (EPM System Configurator を使用) : <Hyperion_Home>/ deployments/ <AppServNameAndVersio n>/aps/conf/ server.xml <p>パラメータ : Connector port</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルトの Tomcat を導 入する場合 : NA ● WebLogic および WebSphere の場合 : アプリケーショ ンサーバの管理コンソ ール

Smart Search のポート

表 21 Smart Search Web アプリケーションのポート

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
待ち受けポート	16080	デフォルトの Tomcat を導入する場合 : <Hyperion_Home>/deployments/tomcat5/conf/server.xml パラメータ : Connector port
SSL 待ち受けポート	NA	NA
Apache Tomcat のシャットダウンポート	16081	デフォルトの Tomcat を導入する場合 : <Hyperion_Home>/deployments/tomcat5/conf/server.xml パラメータ : Server port
AJP コネクタポート	NA	NA

Reporting and Analysis のポート

- 135 ページの「Foundation のポート」。
- 136 ページの「Financial Reporting のポート」。
- 137 ページの「Interactive Reporting のポート」。
- 138 ページの「Web Analysis のポート」。
- 139 ページの「EPM Workspace のポート」。
- 139 ページの「Application Builder for J2EE のポート」。
- 140 ページの「Application Builder for .NET のポート」。

Foundation のポート

表 22 Reporting and Analysis のデフォルトサービスのポート

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
Foundation	6790 – 6810	各ポートの詳細については以下を参照してください。
Global Services Manager (GSM)	6800	● EPM System Configurator
Core Service	6801	● <BIPLUS_HOME>/common/config/server.xml <host>machine.domain</host>

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
		<port>portNumber</port>
Name Service	6798	<ul style="list-style-type: none"> EPM System Configurator Remote Service Configurator。『Hyperion Workspace 管理者用ガイド』を参照してください。 <BIPLUS_HOME>/common/config/config.dat パラメータ : Port 『Hyperion Workspace 管理者用ガイド』を参照してください。
<ul style="list-style-type: none"> Service Broker Job Service Event Service Repository Service 	<ul style="list-style-type: none"> 6797 6796 6794 6795 	Remote Service Configurator。 『Hyperion Workspace 管理者用ガイド』を参照してください。

表 23 Reporting and Analysis Web サーバのポート

Server	デフォルトサーバのポート	設定可能なアプリケーション
Apache および IBM	19000	<APACHE_HOME>/conf/httpd.conf
IIS および Oracle HTTP サーバ	80	Microsoft Internet Information Services (IIS) 管理コンソール (TCP ポート値の設定を変更します)。

Financial Reporting のポート

表 24 Financial Reporting Web アプリケーションのポート

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
待ち受けポート	8200	EPM System Configurator
SSL 待ち受けポート	NA	アプリケーションサーバの管理コンソール (手動設定)
Apache Tomcat のシャットダウンポート	8201	アプリケーションサーバの管理コンソール (手動設定)。 注: ポート番号は待ち受けポートによって異なります (待ち受けポート+ 1)。
AJP コネクタポート	8202	<HYPERION_HOME>/common/httpserver/Apache/2.0.

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
		52/conf/ HYSLWorkers.properties worker.Financial_ Reporting.host=hostna me.company.com worker.Financial_ Reporting.port=portNu mber worker.Financial_ Reporting.type=ajp13 注： ポート番号は待ち受け ポートによって異なります (待ち受けポート+2)。

表 25 Financial Reporting のデフォルトサービスのポート

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
Oracle Hyperion Financial Reporting, Fusion Edition レポートサービス	連動 (2)	<BIPLUS_HOME>/lib/fr_ repserver.properties パラメータ : HRRepSvrPort1, HRRepSvrPort2
Financial Reporting スケジューラサービス	Dynamic	<BIPLUS_HOME>/lib/fr_ scheduler.properties パラメータ : HRSchdSvrPort
Financial Reporting プリントサービス	Dynamic	<BIPLUS_HOME>/lib/fr_ printserver.properties パラメータ : HRPrintSvrPort
Oracle Hyperion Financial Reporting, Fusion Edition 通信サービス	8299	<BIPLUS_HOME>/lib/fr_ global.properties パラメータ : RMIPort
	追加のダイナミックポート (1)	設定不可

Interactive Reporting のポート

表 26 Interactive Reporting のデフォルトサービスのポート

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
Data Access Service (DAS)	6811, 6812	<BIPLUS_HOME>/common/ config/irmconfig.xml Default Ports = portNumber,portNumber

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
オラクル社の Hyperion(R) Interactive Reporting サービス	6813, 6814	<BIPLUS_HOME>/common/ config/irmconfig.xml Default Ports = portNumber,portNumber
Job Service	6815	<BIPLUS_HOME>/common/ config/irmconfig.xml Default Ports = portNumber
Log Service	6810	<BIPLUS_HOME>/common/ config/irmconfig.xml Default Ports = portNumber

Web Analysis のポート

表 27 Web Analysis Web アプリケーションのポート

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
待ち受けポート	16000	EPM System Configurator
追加の待ち受けポート (2)	Dynamic	設定不可
SSL 待ち受けポート	NA	アプリケーションサーバの管理 コンソール (手動設定)
Apache Tomcat のシャットダウン ポート	16001	アプリケーションサーバの管理 コンソール (手動設定)。 注： ポート番号は待ち受け ポートによって異なります (待ち受けポート+1)。
AJP コネクタポート	16002	<HYPERION_HOME>/common/ httpserver/Apache/2.0. 52/conf/ HYSLWorkers.properties worker.Web_ Analysis.host=hostnam e.company.com worker.Web_ Analysis.port=portNum ber worker.Web_ Analysis.type=ajp13 注： ポート番号は待ち受け ポートによって異なります (待ち受けポート+2)。

EPM Workspace のポート

表 28 EPM Workspace Web アプリケーションのポート

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
待ち受けポート	45000	EPM System Configurator
追加の待ち受けポート (1)	Dynamic	設定不可
SSL 待ち受けポート	NA	アプリケーションサーバの管理コンソール (手動設定)
Apache Tomcat のシャットダウンポート	45001	<pre><BIPLUS_HOME>/AppServer/ InstalledApps/Tomcat/5. 0.28/Workspace/conf/ server.xml <Server port="portNumber" shutdown="SHUTDOWN"></pre> <p>注： ポート番号は待ち受けポートによって異なります (待ち受けポート+1)。</p>
AJP コネクタポート	45002	<pre><HYPERION_HOME>/common/ httpserver/Apache/2.0. 59/conf/ HYSLWorkers.properties worker.Workspace.host =hostname.company.com worker.Workspace.port =portNumber worker.Workspace.type =ajp13</pre> <p>注： ポート番号は待ち受けポートによって異なります (待ち受けポート+2)。</p>

Application Builder for J2EE のポート

表 29 Application Builder for J2EE Web アプリケーションのポート

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
待ち受けポート	22080	アプリケーションサーバの管理コンソール (手動設定)
SSL 待ち受けポート	22090	アプリケーションサーバの管理コンソール (手動設定)
Apache Tomcat のシャットダウンポート	22005	<pre><HAB_INSTALL_DIR>/ AppServer/InstalledApps/ Tomcat/5.0.28/</pre>

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
		<pre>ApplicationBuilder/conf/ server.xml <Server port=" portNumber" shutdown=" SHUTDOWN" ></pre>
AJP コネクタポート	NA	NA

Application Builder for .NET のポート

表 30 Application Builder for .NET Web アプリケーションのポート

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
待ち受けポート	22080	EPM System Configurator
SSL 待ち受けポート	22082	アプリケーションサーバの管理コンソール（手動設定）
Apache Tomcat のシャットダウンポート	22081	アプリケーションサーバの管理コンソール（手動設定）
AJP コネクタポート	NA	NA

Financial Performance Management アプリケーションのポート

- 140 ページの「Financial Management のポート」。
- 141 ページの「Performance Scorecard のポート」。
- 142 ページの「Planning のポート」。
- 142 ページの「Strategic Finance のポート」。
- 143 ページの「Performance Management Architect のポート」。

Financial Management のポート

表 31 Financial Management のデフォルトサービスのポート

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition アプリケーションサーバ	135 +高範囲の一時ポート (1024-65536)	<p>Windows の設定 - Fix DCOM 一時ポート</p> <p>DCOM によって使用されるポートの設定方法については、Microsoft のサポートに関する記事 (http://support.microsoft.com) を参照してください。「DCOM</p>

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
		ポートの制限」で検索してください。

表 32 Financial Management Web サーバのポート

Web サーバのポート	設定可能なアプリケーション
80 (HTTP) または 443 (SSL 有効時)	Microsoft Internet Information Services (IIS) 管理コンソールで、TCP ポート値の設定を変更します。

Performance Scorecard のポート

表 33 Performance Scorecard Web アプリケーションのポート

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
待ち受けポート	18080	<ul style="list-style-type: none"> EPM System Configurator アプリケーションサーバの管理コンソール (手動設定)
SSL 待ち受けポート	NA	アプリケーションサーバの管理コンソール (手動設定)
Apache Tomcat のシャットダウンポート	18081	<ul style="list-style-type: none"> EPM System Configurator アプリケーションサーバの管理コンソール (手動設定) <p>注: ポート番号は待ち受けポートによって異なります (待ち受けポート+1)。</p>
AJP コネクタポート	18082	<p>EPM System Configurator</p> <p>注: ポート番号は待ち受けポートによって異なります (待ち受けポート+2)。</p>

表 34 Performance Scorecard Alerter Web アプリケーションのポート

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
待ち受けポート	18090	<ul style="list-style-type: none"> EPM System Configurator アプリケーションサーバの管理コンソール
SSL 待ち受けポート	NA	アプリケーションサーバの管理コンソール (手動設定)
Apache Tomcat のシャットダウンポート	18091	<ul style="list-style-type: none"> EPM System Configurator アプリケーションサーバの管理コンソール (手動設定)

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
		注： ポート番号は待ち受けポートによって異なります（待ち受けポート+1）。
AJP コネクタポート	18092	EPM System Configurator 注： ポート番号は待ち受けポートによって異なります（待ち受けポート+2）。

Planning のポート

表 35 Planning Web アプリケーションのポート

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
待ち受けポート	8300	EPM System Configurator
追加の待ち受けポート（1）	Dynamic	設定不可
SSL 待ち受けポート	8303	アプリケーションサーバの管理コンソール（手動設定）
Apache Tomcat のシャットダウンポート	8301	アプリケーションサーバの管理コンソール（手動設定）
AJP コネクタポート	8302	アプリケーションサーバの管理コンソール（手動設定）

表 36 Planning のデフォルトサービスのポート

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition RMI サーバ	11333	<HYPERION_HOME>/common/RMI/1.0.0/HyperionRMI_Port.properties パラメータ：registryPort 注： ポートを変更する場合は、 uninstallHyperionNTServiceRMI.cmd を実行してから installHyperionNTServiceRMI.cmd を実行する必要があります。

Strategic Finance のポート

表 37 Strategic Finance のデフォルトサービスのポート

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
Oracle Hyperion Strategic Finance, Fusion Edition サーバ	7750	Oracle Hyperion Strategic Finance, Fusion Edition 管理ツール

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
		<p>デフォルトのポート値はレジストリにあります。キーは HKEY_LOCAL_MACHINE Software\Hyperion Solutions\HSFService RPCPort にあります。値は、 ポート番号をテキストとして 含んでいる文字列項目です。 各クライアントのプログラム には、通信相手のコンピュ ータごとにポート番号を設定 するためのレジストリ項目 （[[接続] ダイアログボックス を使用してアクセスできま す）が含まれています。クラ イアントのプログラムがサー バに接続するためのキーは、 HKEY_CURRENT_USER Software\Hyperion Solutions\Hyperion Strategic Finance Servers\<machinename> NetworkPort です。この キーも数値を含む文字列で す。</p>

Performance Management Architect のポート

表 38 Performance Management Architect Web アプリケーションのポート

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
Oracle Hyperion EPM Architect, Fusion Edition UI		
待ち受けポート	19091（SSL について設定可 能）	EPM System Configurator
SSL 待ち受けポート	19094	<pre><HYPERION_HOME>/ deployments/Tomcat5/ EPMAWebTier/conf/ server.xml <Connector port=" <ssl_ port>portNumber" disableUploadTimeout=" t rue" acceptCount=" 100" debug=" 0" scheme=" https" secure=" true" clientAuth=" false" sslProtocol=" TLS" algorithm=" " keystoreFile=" " keystorePass=" JKS" keystoreType=" "/></pre> <p>パラメータ :</p>

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
		<ul style="list-style-type: none"> ● algorithm : 証明アルゴリズム ● keystoreFile : keystore ファイルの完全なパス ● keystorePass : keystore パスワード ● keystoreType : keystore の種類。通常、JKS がデフォルトです。
Apache Tomcat のシャットダウンポート	19092	<ul style="list-style-type: none"> ● EPM System Configurator ● <HYPERION_HOME>/deployments/Tomcat5/EPMAWebTier/conf/server.xml <p>パラメータについては、アプリケーションサーバのマニュアルを参照してください。</p>
AJP コネクタポート	19093	<ul style="list-style-type: none"> ● EPM System Configurator ● <HYPERION_HOME>/Deployments/Tomcat5/EPMAWebTier/conf/server.xml <pre><Connector port=" <ajp_ port>portNumber" protocol=" AJP/1.3" enableLookups=" false " debug=" 0" /></pre> <p>注： コネクタタグを Server->Service タグの子として追加する必要があります。</p>

Data Synchronizer Web サービス (Performance Management Architect)

待ち受けポート	19101 (SSL 設定可能)	EPM System Configurator
SSL 待ち受けポート	19104	<HYPERION_HOME>/deployments/Tomcat5/EPMADataSynchronizer/conf/server.xml <Connector port=" <ssl_port>portNumber" disableUploadTimeout=" true" acceptCount=" 100" debug=" 0" scheme=" https" secure=" true" clientAuth=" false" sslProtocol=" TLS" algorithm=" "

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
		<pre>keystoreFile=" " keystorePass=" JKS" keystoreType=" "/></pre> <p>パラメータ :</p> <ul style="list-style-type: none"> ● algorithm : 証明アルゴリズム ● keystoreFile : keystore ファイルの完全なパス ● keystorePass : keystore パスワード ● keystoreType : keystore の種類。通常、JKS がデフォルトです。
Apache Tomcat のシャットダウンポート	19102	<ul style="list-style-type: none"> ● EPM System Configurator ● <HYPERION_HOME>/deployments/Tomcat5/EPMADataSynchronizer/conf/server.xml <p>パラメータについては、アプリケーションサーバのマニュアルを参照してください。</p>
AJP コネクタポート	19103	<ul style="list-style-type: none"> ● EPM System Configurator ● <HYPERION_HOME>/deployments/Tomcat5/EPMADataSynchronizer/conf/server.xml <pre><Connector port=" <ajp_ port>portNumber" protocol=" AJP/1.3" enableLookups=" false " debug=" 0" /></pre> <p>注 : コネクタタグを Server->Service タグの子として追加する必要があります。</p>

表 39 Performance Management Architect ディメンションサーバのデフォルトサービスのポート

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
Server Manager	49500	<pre>BPMA_Server_Config.xml <ServerManagerPort>po rtNumber</ ServerManagerPort></pre>
Process Manager	49501	<pre>BPMA_Server_Config.xml</pre>

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
		<Port>portNumber</Port>
Event Subscription	49502	BPMA_Server_Config.xml <EventSubscriptionPort>portNumber</EventSubscriptionPort>
Event Manager	49503	BPMA_Server_Config.xml <EventManagerPort>portNumber</EventManagerPort>
Job Manager	49504	BPMA_Server_Config.xml <JobManagerPort>portNumber</JobManagerPort>
エンジンインスタンス	51000-51999	BPMA_Server_Config.xml <MinEnginePort>portNumber</MinEnginePort> <MaxEnginePort>portNumber</MaxEnginePort>
Data Access Layer (DB2 のみ)	Dynamic	BPMA_Server_Config.xml 注： Performance Management Architect では、DB2 が使用するポートを制御できません。ただし、DB2 によって使用されるポートは BPMA_Server_Config.xml で指定できるため、Oracle Hyperion EPM Architect, Fusion Edition はデータベースに接続できます。

表 40 Performance Management Architect Web サーバのポート

Web サーバのポート	設定可能なアプリケーション
80	Microsoft Internet Information Services (IIS) 管理コンソール (TCP ポート値の設定を変更します)。

Data Management のポート

- 147 ページの「Data Integration Management のポート」。
- 149 ページの「Translation Manager のポート」。
- 149 ページの「FDM のポート」。

- 150 ページの「Data Relationship Management のポート」。

Data Integration Management のポート

表 41 Data Integration Management Web サービス Hub のポート

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
待ち受けポート	7333	<p><WSH_HOME>。次のファイルを更新します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● config/WSHConfig.xml <pre><HubPortNumber>port Number</ HubPortNumber></pre> ● WSH.wsdl <pre><wsdlsoap:address location="http:// TCHIGATE1:portNumbe r/PowerCenter/ services/Metadata"/ ></pre> <pre><wsdlsoap:address location="http:// TCHIGATE1:portNumbe r/PowerCenter/ services/ DataIntegration"/></pre> ● jboss-3.2.1/server/default/deploy/jbossweb-tomcat.sar/META-INF/jboss-service.xml <p>パラメータ :</p> <p>A HTTP/1.1 Connector on port portNumber</p> <p>注 : /WSHub/docs にインストールされている WebServicesProviderGuide.pdf を参照してください。</p>
SSL 待ち受けポート	NA	<p>jboss-3.2.1/server/default/deploy/jbossweb-tomcat.sar/META-INF/jboss-service.xml</p> <p>Parameter: SSL/TLS Connector configuration</p>
Apache Tomcat のシャットダウンポート	NA	NA

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
AJP コネクタポート	8009	jboss-3.2.1/server/ default/deploy/jbossweb- tomcat.sar/META-INF/ jboss-service.xml Parameter: AJP 1.3 Connector on port nnnn

表 42 Data Integration Management のデフォルトサービスのポート

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
オラクル社の Hyperion(R) Data Integration Management Server	4001	<ul style="list-style-type: none"> ● EPM System Configurator (PowerCenter サーバコンポーネントがインストールされている場合) ● INFA Workflow Manager (PowerCenter クライアントコンポーネントとともにインストールされます) ● Native INFA PowerCenter Server Configuration Utility : <ul style="list-style-type: none"> ○ Windows の場合 : <DIM_HOME>\Server\bin\pmsetup.exe (サーバ設定は Windows レジストリに保存されます) ○ UNIX の場合 : <DIM_HOME>/Server/bin/pmserver.cfg ファイルに保存されます)
オラクル社の Hyperion(R) Data Integration Management Repository Server	5001 Repository Server のリポジトリごとに個別のポート (5002 ~ 65535)	<ul style="list-style-type: none"> ● EPM System Configurator ● INFA PowerCenter Repository Server Configuration Utility : <ul style="list-style-type: none"> ○ Windows の場合 : <DIM_HOME>\RepositoryServer\bin\PmRsSetup.exe (サーバ設定は Windows レジストリに保存されます) ○ UNIX の場合 : <DIM_HOME>/RepositoryServer/bin/pmrserverconfig (サーバ設定は<DIM_HOME>/RepositoryServer/bin/pmrepserver.cfg

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
		ファイルに保存されます)

Translation Manager のポート

表 43 Translation Manager Web アプリケーションのポート

ポートの種類	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
待ち受けポート	14080	EPM System Configurator
SSL 待ち受けポート	14090	<TranslationManager_Home>/AppServer/InstalledApps/Tomcat/5.0.28/HTMSEServer/conf/server.xml パラメータ : Connector port
Apache Tomcat のシャットダウンポート	14005	アプリケーションサーバの管理コンソール (手動設定)
AJP コネクタポート	NA	アプリケーションサーバの管理コンソール (手動設定)

表 44 Translation Manager のデフォルトサービスのポート

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
オラクル社の Hyperion(R) Translation Manager RMI サーバ	11333	<ul style="list-style-type: none"> オラクル社の Hyperion Enterprise Performance Management System Configurator <HYPERION_HOME>/common/RMI/1.0.0/HyperionRMI_Port.properties パラメータ : registryPort

FDM のポート

表 45 FDM のデフォルトサービスのポート

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Fusion Edition のロードバランサ Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Fusion	135 +高範囲の一時ポート (1024-65536)	Windows の設定 - Fix DCOM 一時ポート 詳しくは、DCOM によって使用されるポートの設定方法について説明した Microsoft のサ

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
Edition アプリケーションサーバ		ポートに関する記事 (http://support.microsoft.com) を参照してください。「DCOM ポートの制限」で検索してください。
ファイル有	137-139, 445	オペレーティングシステムによって制御されます。すべての WebLink アプリケーションサーバとデータサーバ間のファイル共有を有効にし、次のポート番号を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● NetBIOS Datagram Service = port 138 ● NetBIOS Name Resolution = port 137 ● NetBIOS Session Service = port 139 NetBIOS をオフにする場合は、SMB = port 445 を使用します。
ファイアウォール	135 + 高範囲の一時ポート (1024-65536)	Windows の設定 - Fix DCOM 一時ポート 詳しくは、DCOM によって使用されるポートの設定方法について説明した Microsoft のサポートに関する記事 (http://support.microsoft.com) を参照してください。「DCOM ポートの制限」で検索してください。

表 46 FDM Web サーバのポート

Web サーバのポート	設定可能なアプリケーション
80 (HTTP) または 443 (HTTPS)	Microsoft Internet Information Services (IIS) 管理コンソール (TCP ポート値の設定を変更します)。

Data Relationship Management のポート

表 47 Data Relationship Management のデフォルトサービスのポート

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
Oracle Hyperion Data Relationship Management, Fusion Edition	135 + 高範囲の一時ポート (1024-65536)	<ul style="list-style-type: none"> ● config.xml (Data Relationship Management コンソールを使用) ● Windows の設定 - Fix DCOM 一時ポート

サービス	デフォルトポート番号	設定可能なアプリケーション
		詳しくは、DCOM によって使用されるポートの設定方法について説明した Microsoft のサポートに関する記事 (http://support.microsoft.com) を参照してください。「DCOM ポートの制限」で検索してください。

表 48 Data Relationship Management Web サーバのポート

Web サーバのポート	設定可能なアプリケーション
80 (HTTP)	Microsoft Internet Information Services (IIS) 管理コンソール (TCP ポート値の設定を変更します)。
443 (HTTPS)	

索引

A - Z

Administration Services

デフォルトポート, [131](#)

API リファレンスガイド, [125](#)

Application Builder J2EE, デフォルトポート, [139](#)

Application Builder.NET, デフォルトポート, [140](#)

Crescent ファイル, Windows, [124](#)

Crystal ファイル, Windows, [123](#)

Data Integration Management

デフォルトポート, [147](#)

Data Management

デフォルトポート, [146](#)

Data Relationship Management

デフォルトポート, [150](#)

EPM Workspace

デフォルトポート, [139](#)

Essbase

デフォルトポート, [130](#)

Essbase - System 9

デフォルトポート, [130](#)

FDM

デフォルトポート, [149](#)

Financial Management

デフォルトポート, [140](#)

Financial Performance Management アプリケーション

デフォルトポート, [140](#)

Financial Reporting

デフォルトポート, [136](#)

Foundation Services

デフォルトポート, [129](#)

HOSTS ファイル, [18](#)

HPAPP.DAT ファイル

Hyperion Retrieve 用に作成, [61](#)

Hyperion Allocations, [125](#)

Hyperion AutoPilot

概要, [126](#)

サイレントモードインストールに含まない, [25](#)

Hyperion Enterprise Web Client のシステム要件, [14](#)

Hyperion Enterprise Web サーバ

システム要件, [14](#)

要件, [20](#)

Hyperion LedgerLink, [126](#)

Hyperion Retrieve

Microsoft Excel, 設定, [61](#)

アイコン, 作成, [61](#)

概要, [126](#)

設定, [61](#)

ID

Windows ユーザ, [19](#)

Interactive Reporting

デフォルトポート, [137](#)

Load File Conversion ユーティリティ, [127](#)

LOAD.PER ファイル

インストール前に保存, [16](#)

Logic File Conversion ユーティリティ, [127](#)

Microsoft Excel, Hyperion Retrieve での設定, [61](#)

Microsoft IIS Server, インストール, [20](#), [113](#)

Performance Management Architect

デフォルトポート, [143](#)

Performance Scorecard

デフォルトポート, [141](#)

Planning

デフォルトポート, [142](#)

Provider Services

デフォルトポート, [133](#)

Reporting and Analysis

デフォルトポート, [135](#)

Shared Services

デフォルトポート, [129](#)

Smart Search

デフォルトポート, [135](#)

Statutory Consolidation Engine (SCE)

インストールの要件, 18

概要, 126

Strategic Finance

デフォルトポート, 142

TCP/IP 接続, 確認, 18

Translation Manager

デフォルトポート, 149

Web Analysis

デフォルトポート, 138

Web ヘルプ, 120

Windows

Crescent ファイル, 124

Crystal ファイル, 123

システムファイル, 121

ユーザ名, 19

レジストリファイル, 122

あ行

アイコン, Hyperion Retrieve 用に作成, 61

アプリケーション

データの視点, リセット, 103

変換ユーティリティ, 79

要件の比較, リリース間, 71

リリース間の互換性, 71

連動勘定科目一覧基準のリセット, 103

アプリケーションサーバ

システム要件, 15

アプリケーション変換ウィザード, 126

アンインストール

現在のリリース, 105

一覧, 製品, 125

インストール

Microsoft IIS Server, 20, 113

カスタマイズ, 61

完全, 27

クイックモードとサイレントモード, 23

現在のリリースのアンインストール, 105

サイレント, 25

追加の手順, 61

標準, 27

ワークステーション, 51

ウィザード, アプリケーション変換, 126

か行

カスタマイズされたインストールプログラム,
61

勘定科目一覧, 連動, 103

完全インストール, 27

機能比較, Hyperion Enterprise, 67

クイックインストール, 23

クライアントワークステーション

要件, 11

互換性

アプリケーション, 71

製品, 22

さ行

サイレントインストール, 25

サーバ

TCP/IP 接続, 確認, 18

システム要件, 15

セキュリティ権限, 設定, 19

データベース

サーバの要件, 13

ファイルサーバのシステム要件, 13

システム抽出変換ユーティリティ, 98

システムファイル, Windows, 121

システム要件

Hyperion Enterprise Web Client, 14

Hyperion Enterprise Web サーバ, 14

Hyperion Hyperion Enterprise, 11

アプリケーションサーバ, 15

クライアントワークステーション, 11

データベースサーバ, 13

ファイルサーバ, 13

製品

一覧, 125

互換性, 22

セキュリティ権限, 設定, 19

た行

注意事項

クイックインストールとサイレントインス
トール, 26

調整

パフォーマンス, 117

手順, 追加のインストール, 61

ディレクトリ

コンポーネント, 20

デフォルトのディレクトリ, インストール, 20

データの視点, リセット, 103

データベース

サーバの要件, 13

は行

パフォーマンスの調整, 117

標準インストール, 27, 59

ファイル

Crescent, 124

Crystal, 123

HOSTS, 18

HPAPP.DAT

Hyperion Retrieve 用に作成, 61

LOAD.PER

インストール前に保存, 16

Windows システム, 121

プログラム, 121, 124

変換, 100

レジストリ, 122

ロジック, 変換, 101

ファイルサーバのシステム要件, 13

プログラムファイル

一覧, 121, 124

ヘルプ

Web, 120

ブラウザベースのヘルプ (Hyperion

Enterprise Windows 32 ビットクライアント
および Web 用), 119

変換

ユーティリティ, 79

ポート

Administration Services, 131

Application Builder J2EE, 139

Application Builder.NET, 140

Data Integration Management, 147

Data Management, 146

Data Relationship Management, 150

EPM Workspace, 139

Essbase, 130

Essbase - System 9, 130

FDM, 149

Financial Management, 140

Financial Performance Management アプリケー
ション, 140

Financial Reporting, 136

Interactive Reporting, 137

Performance Management Architect, 143

Performance Scorecard, 141

Planning, 142

Provider Services, 133

Reporting and Analysis, 135

Shared Services, 129

Smart Search, 135

Strategic Finance, 142

Translation Manager, 149

Web Analysis, 138

ま行

マニュアル

インストール時に含まれるマニュアル, 119

や行

ユーティリティ

システム抽出, 98

変換, 127

ロジック変換, 98

要件

Hyperion Enterprise Web サーバ, 20

クイックインストール, 16

要件の比較, アプリケーション, 71

ら行

レジストリファイル, Windows, 122

連動勘定科目一覧, 103

ロジックファイル, 変換, 101

ロジック変換ユーティリティ, 98

わ行

ワークステーション

インストール, 51

クライアントの要件, 11

